

**平成24年度**  
**「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」**  
**調査報告書**

長野市



# 目次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的な問題	21
	労働に関する問題	45
	仕事と生活の調和に関する問題	53
	地域社会に関する問題	73
	男女の人権に関する問題	79
	男女共同参画施策に関する問題	85
	資料	91
	単純集計	93
	自由意見	109
	調査票	127



# I . 調査の概要



## 1. 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態の調査を実施し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

## 2. 調査の対象

平成24年8月16日現在で長野市に在住する20歳以上75歳未満の男女各1,000人  
(計:2,000人)

## 3. 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

## 4. 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)

## 5. 調査時期

平成24年9月1日(土) ～ 平成24年9月18日(火)

## 6. 送付・回収状況

有効送付数:2,000票

回収数:842票 (回収率:42.1%)【男性票:345票、女性票:496票、性別不明:1票】

## 7. 調査事項

### ● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無 F配偶者の職業の有無 G子の有無

- (1) 一般的な問題
- (2) 労働に関する問題
- (3) 仕事と生活の調和に関する問題
- (4) 地域社会に関する問題
- (5) 男女の人権に関する問題
- (6) 男女共同参画施策に関する問題
- (7) 自由記入

## 8. 調査票の集計(業務委託)

電子計算機による集計

### 報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。



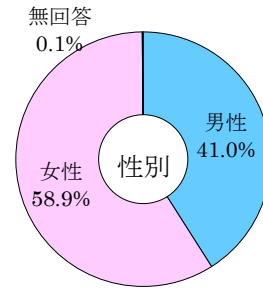


## II. 回答者の属性



A. 性別

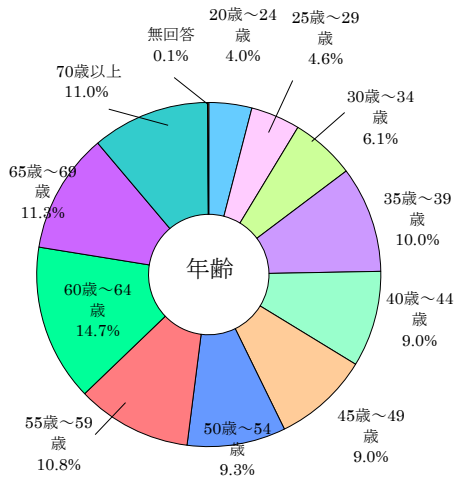
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	345	41.0%
2 女性	496	58.9%
無回答	1	0.1%
合計	842	100.0%



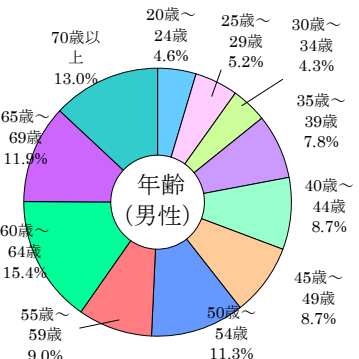
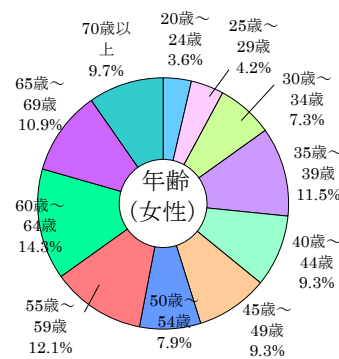
B. 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳～24歳	34	18	16	0	4.0	3.6	4.6	0.0
2 25歳～29歳	39	21	18	0	4.6	4.2	5.2	0.0
3 30歳～34歳	51	36	15	0	6.1	7.3	4.3	0.0
4 35歳～39歳	84	57	27	0	10.0	11.5	7.8	0.0
5 40歳～44歳	76	46	30	0	9.0	9.3	8.7	0.0
6 45歳～49歳	76	46	30	0	9.0	9.3	8.7	0.0
7 50歳～54歳	78	39	39	0	9.3	7.9	11.3	0.0
8 55歳～59歳	91	60	31	0	10.8	12.1	9.0	0.0
9 60歳～64歳	124	71	53	0	14.7	14.3	15.4	0.0
10 65歳～69歳	95	54	41	0	11.3	10.9	11.9	0.0
11 70歳以上	93	48	45	0	11.0	9.7	13.0	0.0
無回答	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	100.0
合計	842	496	345	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



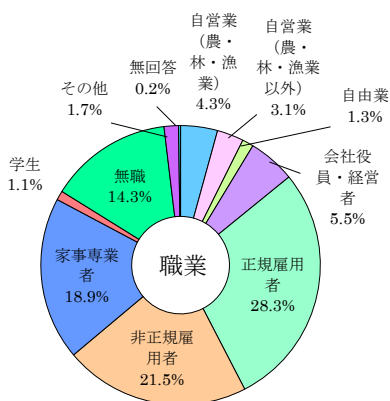
【男女別】



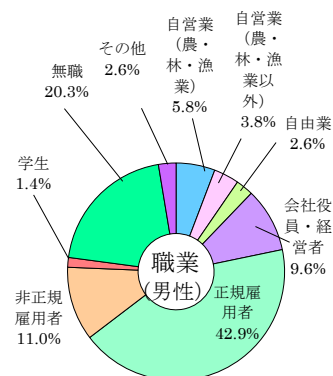
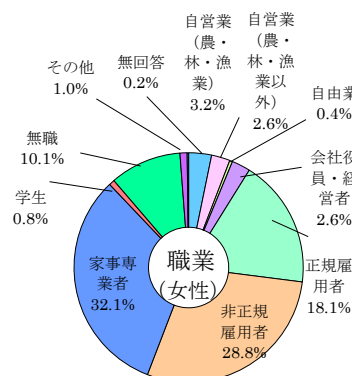
### C. 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	36	16	20	0	4.3	3.2	5.8	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	26	13	13	0	3.1	2.6	3.8	0.0
3 自由業	11	2	9	0	1.3	0.4	2.6	0.0
4 会社役員・経営者	46	13	33	0	5.5	2.6	9.6	0.0
5 正規雇用者	238	90	148	0	28.3	18.1	42.9	0.0
6 非正規雇用者	181	143	38	0	21.5	28.8	11.0	0.0
7 家事専業者	159	159	0	0	18.9	32.1	0.0	0.0
8 学生	9	4	5	0	1.1	0.8	1.4	0.0
9 無職	120	50	70	0	14.3	10.1	20.3	0.0
10 その他	14	5	9	0	1.7	1.0	2.6	0.0
無回答	2	1	0	1	0.2	0.2	0.0	100.0
合計	842	496	345	1	100.0	100.0	100.0	100.0

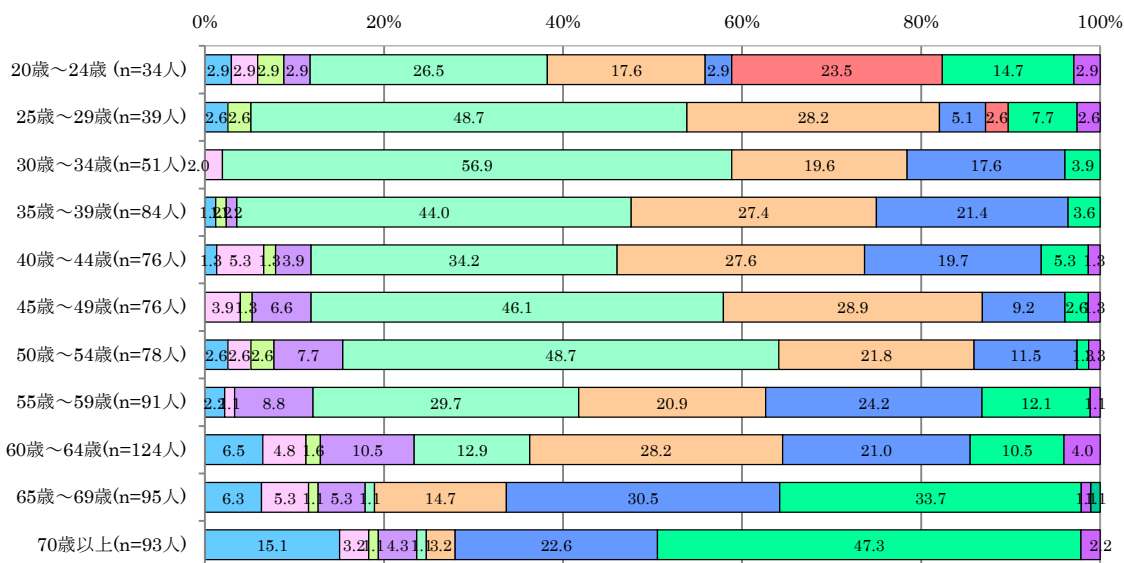
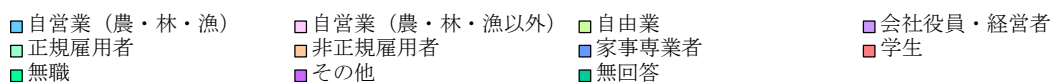
【全体】



【男女別】



【年代別】

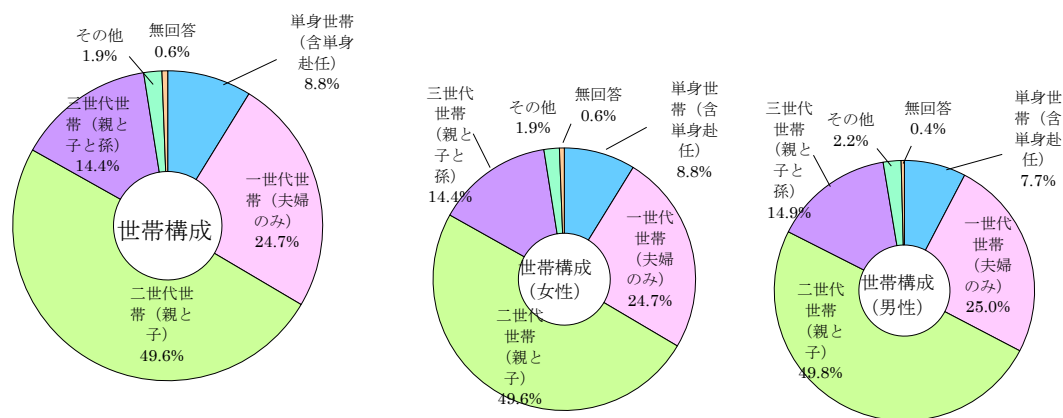


D. あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

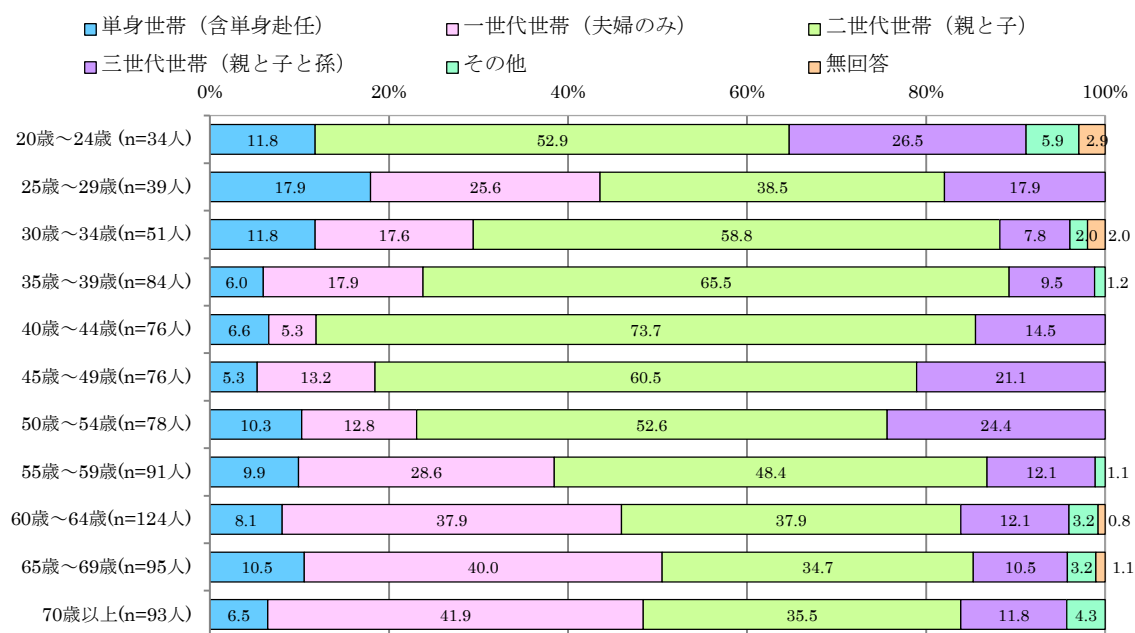
	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	74	36	38	0	8.8	10.4	7.7	0.0
2 一世代世帯（夫婦のみ）	208	84	124	0	24.7	24.3	25.0	0.0
3 二世代会世帯（親と子）	418	171	247	0	49.6	49.6	49.8	0.0
4 三世代会世帯（親と子と孫）	121	47	74	0	14.4	13.6	14.9	0.0
5 その他	16	5	11	0	1.9	1.4	2.2	0.0
無回答	5	2	2	1	0.6	0.6	0.4	100.0
合計	842	345	496	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

【男女別】



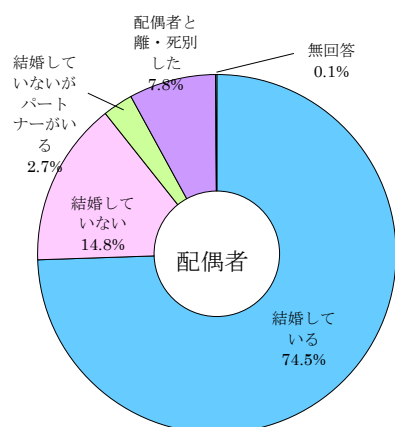
【年代別】



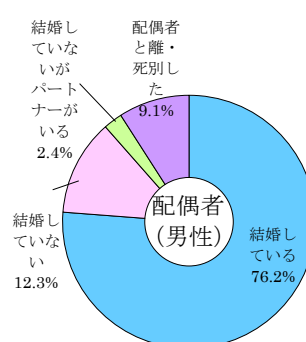
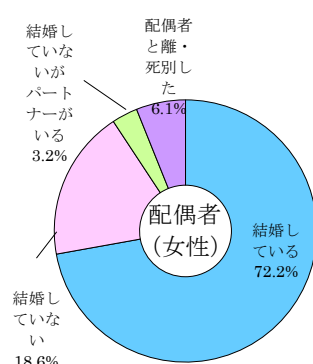
E. あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	627	249	378	0	74.5	72.2	76.2	0.0
2 結婚していない	125	64	61	0	14.8	18.6	12.3	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	23	11	12	0	2.7	3.2	2.4	0.0
4 配偶者と離・死別した	66	21	45	0	7.8	6.1	9.1	0.0
無回答	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	100.0
合計	842	345	496	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

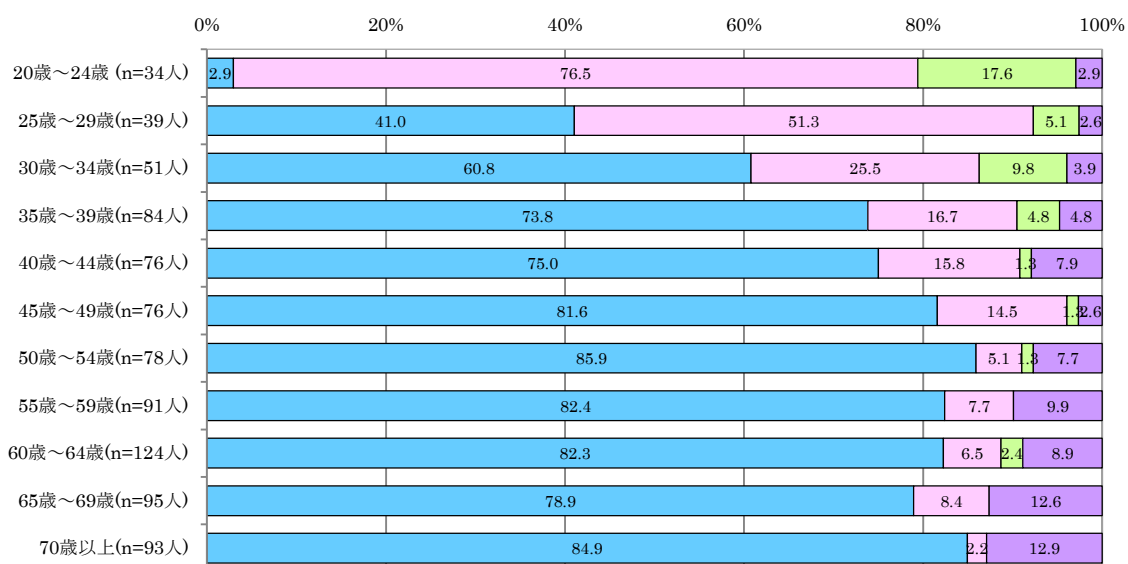


【男女別】



【年代別】

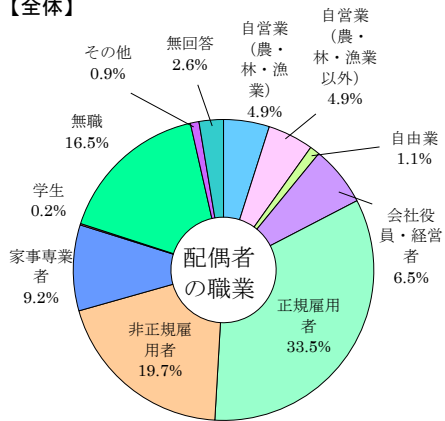
■ 結婚している □ 結婚していない ■ 結婚していないがパートナーがいる ■ 配偶者と離・死別した ■ 無回答



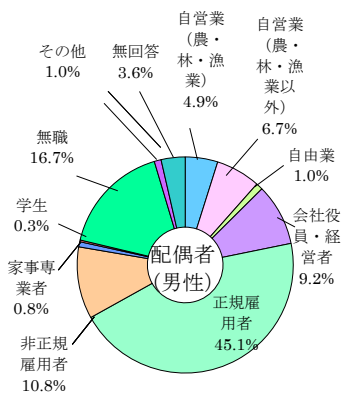
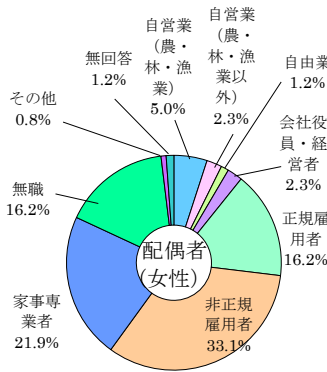
F. Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。  
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

	回答者数 (人)			割合 (%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 自営業 (農・林・漁業)	32	13	19	4.9	5.0	4.9
2 自営業 (農・林・漁業以外)	32	6	26	4.9	2.3	6.7
3 自由業	7	3	4	1.1	1.2	1.0
4 会社役員・経営者	42	6	36	6.5	2.3	9.2
5 正規雇用者	218	42	176	33.5	16.2	45.1
6 非正規雇用者	128	86	42	19.7	33.1	10.8
7 家事専業者	60	57	3	9.2	21.9	0.8
8 学生	1	0	1	0.2	0.0	0.3
9 無職	107	42	65	16.5	16.2	16.7
10 その他	6	2	4	0.9	0.8	1.0
無回答	17	3	14	2.6	1.2	3.6
合計	650	260	390	100.0	100.0	100.0

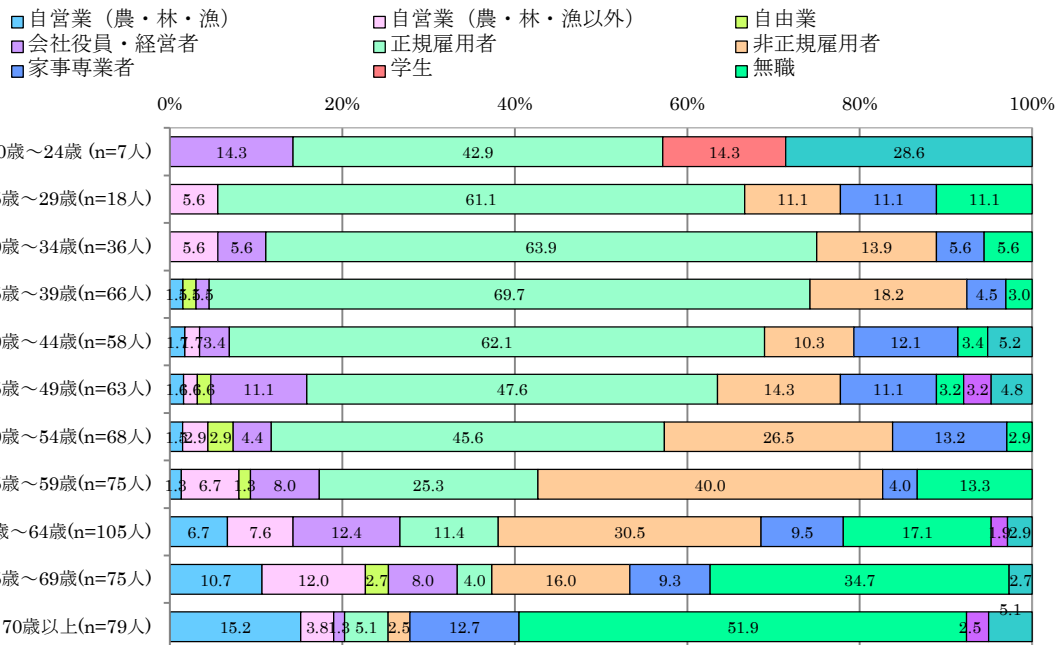
【全体】



【男女別】



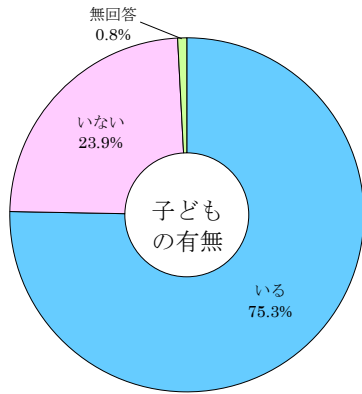
【年代別】



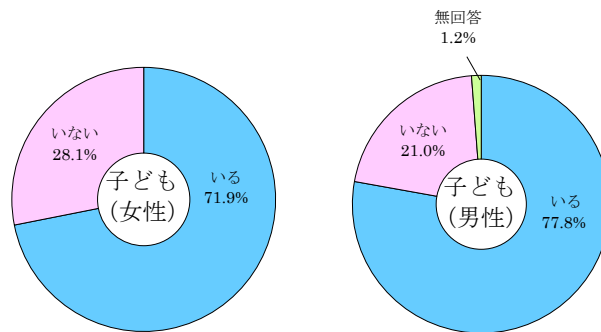
G. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	634	248	386	0	75.3	71.9	77.8	0.0
2 いない	201	97	104	0	23.9	28.1	21.0	0.0
無回答	7	0	6	1	0.8	0.0	1.2	100.0
合計	842	345	496	1	100.0	100.0	100.0	100.0

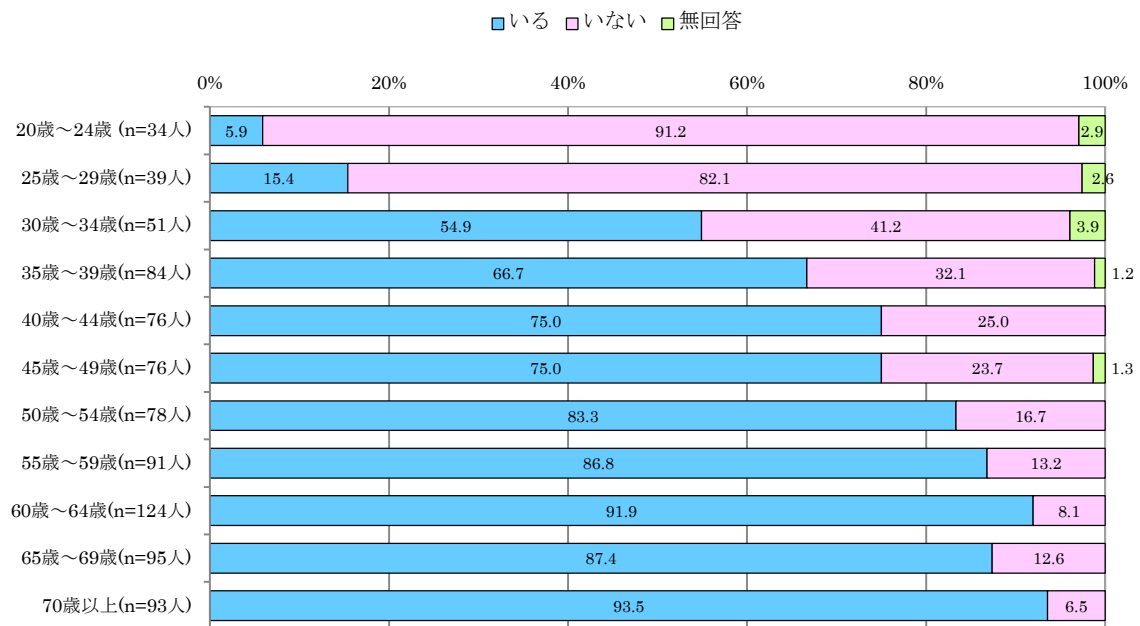
【全体】



【男女別】



【年代別】





### Ⅲ. 結果の概要



## 1. 一般的な問題

### (1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(46.3%)、「家庭」(41.1%)、「法律や制度」(36.2%)の3分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」において、全体では「平等である」という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が24.1%、女性が45.8%をとり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が24.1%なのに対し、女性は46.8%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも5割～8割となっている。

### (2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「ジェンダー(社会的性別)」、「女子差別撤廃条約」、「男女雇用機会均等法」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」の6つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合が高いのは、「男女雇用機会均等法」(93.0%)と「男女共同参画社会」(74.7%)の2つとなっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「ジェンダー(社会的性別)」は、年齢が20歳代後半での認知度が7割を超え最も高くなっている。「男女雇用機会均等法」はいずれの年代、性別においても8割以上の認知度となっている。

### (3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答合計の割合は44.6%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答合計は54.1%となっている。前年に比べ、前者は1.4ポイント減少し、後者は1.1ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答が、半数を上回り、その差は徐々に大きくなっており、年代別でみると、20歳代前半と30歳代前半の男性と30歳代前半の女性の割合が7割前後と高くなっている。

また、女性が働くことへの考え方に関しては、男女とも「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が最も多くなっている。

男女間による固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがあるかという設問に対しては、「特にない」という回答が全体では約6割(64.1%)となっているが、男性83.5%、女性50.8%と男女間では大きな開きがある。さらに、「仕事を続けたかったが辞めざるを得ないことがあった」という回答については、男性は6.7%であるのに対して、女性は30.2%となっている。

## 2. 労働に関する問題

### 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」の4つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男女とも約4割が回答している。また、「賃金」に関しては、女性からみて「男性の方が優遇されている」という回答が多い傾向にある。

## 3. 仕事と生活の調和に関する問題

### (1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」ということばの認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の22.9%となっており、認知度は依然として低いが、前年より3.3ポイント増加している。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が30.1%と女性の17.9%より多くなっている。

### (2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となった。現実の生活では、『家庭生活』を優先」が若干『仕事』優先」を上回り、両者が拮抗した回答となっている。これは、男性が『仕事』優先」、女性が『家庭生活』を優先」とする方が多い結果のため、全体では拮抗している。

理想は男女別なく、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」だが、現実には男性は『仕事』を、女性は『家庭生活』を優先せざるを得ない結果となっている。

### (3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ゴミを捨てる」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ゴミを捨てる」(36.8%)、女性では、「洗濯」(76.6%)、「食事のしたく」(76.0%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(40.9%)、「洗濯」(40.3%)で、女性では、「ゴミを捨てる」(14.3%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」、「食事の後かたづけ」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が約4割となっている。

「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」を選んだ方が、育児に関しては、男性は13.6%、女性は34.3%と差が大きい。介護に関しては男性が9%、女性が13.1%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「利用しにくい雰囲気があるから」(54.2%)、「主たる稼ぎ手は男性だから」(51.3%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(44.3%)といった理由で利用が進まないといった状況となっている。

## 4. 地域社会に関する問題

### 自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんど男性である」

で、50.1%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」43.3%、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」37.1%と多くなっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約4割（44.9%）となっている。次いで、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（21.4%）と「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（21.1%）と続いている。

## 5. 男女の人権に関する問題

### DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、すべての行為において「受けたこともしたこともない」という回答が最も多くなっている。しかしながら、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が25.5%、女性では「受けたことがある」という回答が21.0%と比較的多くなっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（地域安全推進室）」で約4割（40.7%）となっている。次いで、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（25.7%）、「長野県女性相談センター」（24.2%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約4割（42.3%）の回答割合となっている。「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は40歳代前半の男女で大きな開きがあり、男性が26.7%なのに対し、女性は50%となっている。

## 6. 男女共同参画施策に関する問題

### （1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（34.6%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（27.7%）が続いており、合わせて62.3%の方が「増えた方がよい」と考えている。

また、政策決定の場に女性が増えることで何を期待するか尋ねたところ、最も多い回答は「女性が持つ意見や発想が生かされる」（51.9%）となっており、男女とも約5割の回答割合となる。

### （2）男女共同参画社会実現へ向けた拠点施設の整備と行政に期待することについて

拠点施設の機能としては、「団体やサークルの活動・提供」（42.8%）が最も多くなっている。次いで、「職業能力開発」（40.6%）、「学習・研修」（41.2%）の順で続いている。

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（48.2%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（36.5%）、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」（27.7%）の順で続いている。



## IV. 調査の結果





---

## 一般的な問題

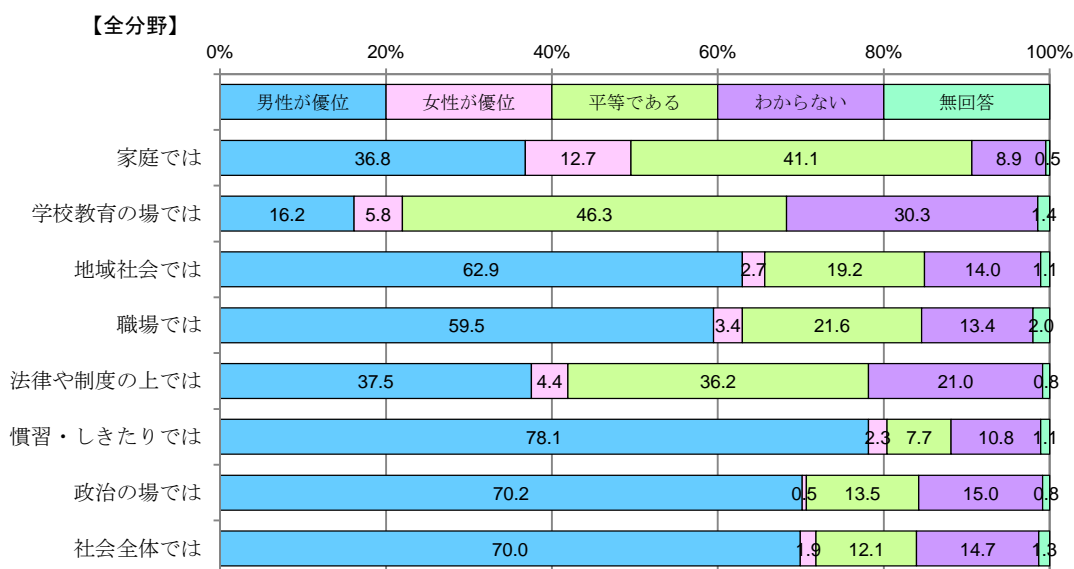
---



問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

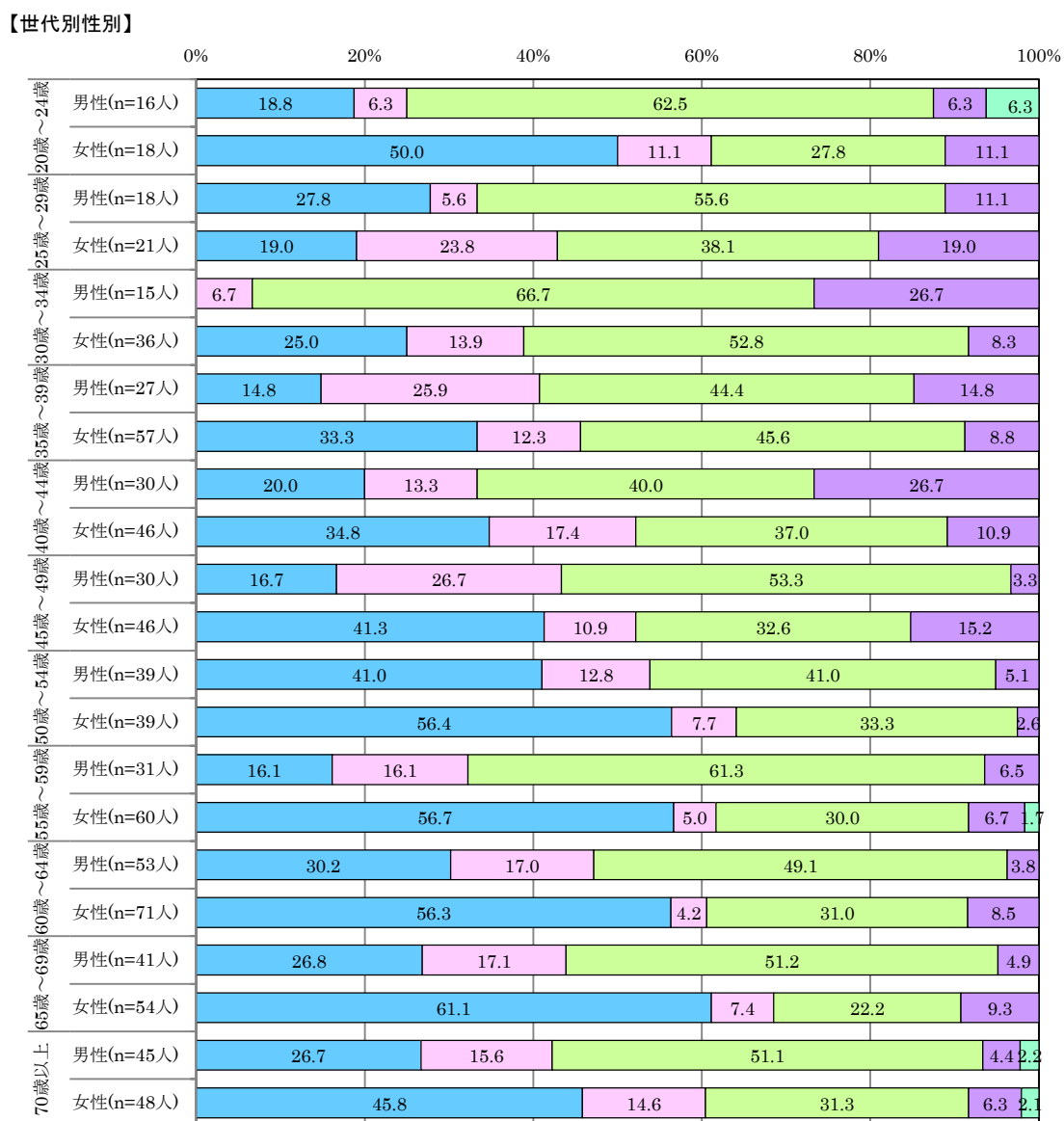
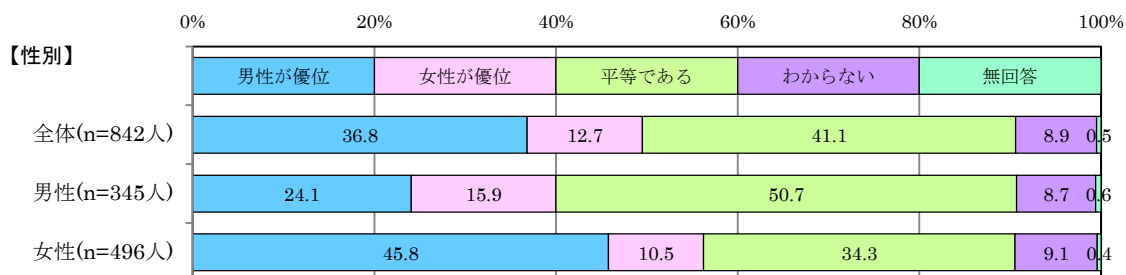
- ・「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(46.3%)、「家庭」(41.1%)、「法律や制度」(36.2%)の3分野となっている。
- ・一方、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では、「男性が優位」という回答がいずれも5割以上で最も多い回答となっている。なかでも「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では7割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

全体 (n=842人)



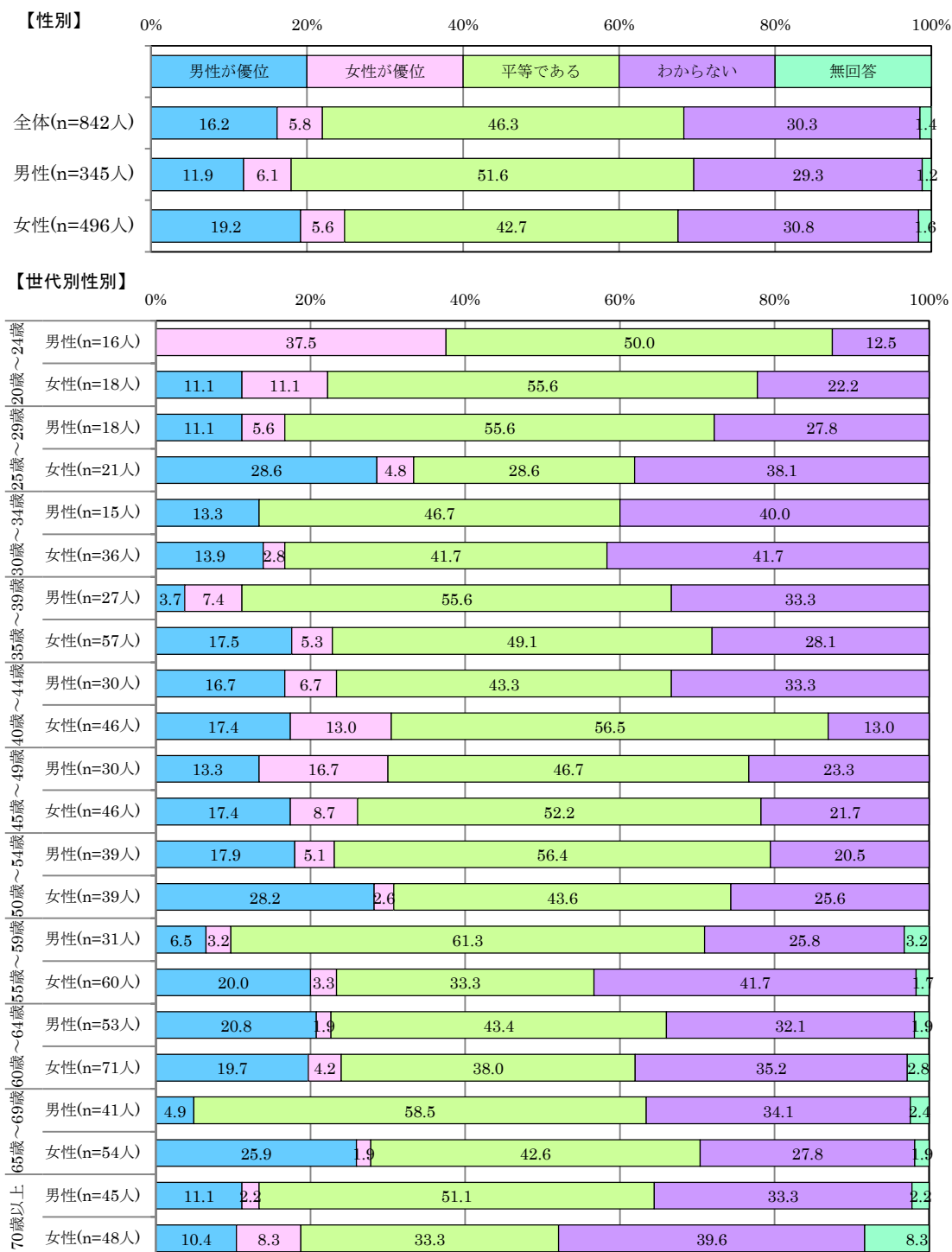
## 1. 家庭では

- 性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性は約5割（50.7%）、女性は約3割（34.3%）となっている。「男性が優位」という回答は、男性においては約2割（24.1%）となっているが、女性では約4割（45.8%）となる。
- 世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性の20歳～24歳と50歳代から60歳代で多く、回答割合が5割を超えている。男性では、50歳～54歳の世代で「男性が優位」と「平等である」が同じ回答割合となっているが、それ以外の世代では、いずれも「平等である」という回答が最も多い。



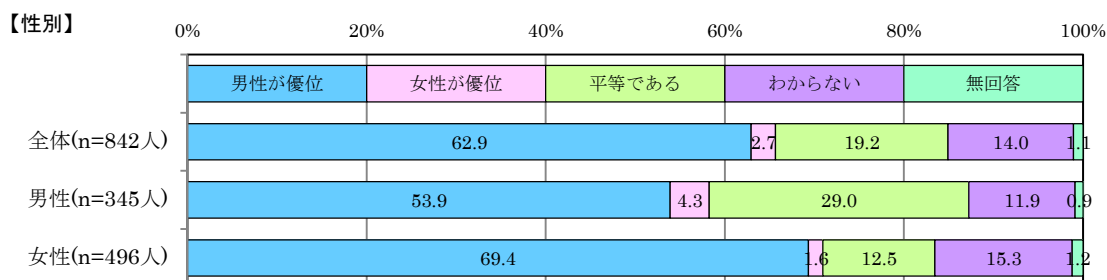
## 2. 学校教育の場では

- 性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が約5割（51.6%）、女性が約4割（42.7%）となっている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方がやや高くなっている。
- 世代別性別でみると、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、25歳～29歳の女性で約3割となり、そのほかの世代に比べ高い回答割合となっている。一方で、20歳～24歳の男性においては、「男性が優位」という回答はなしとなっている。

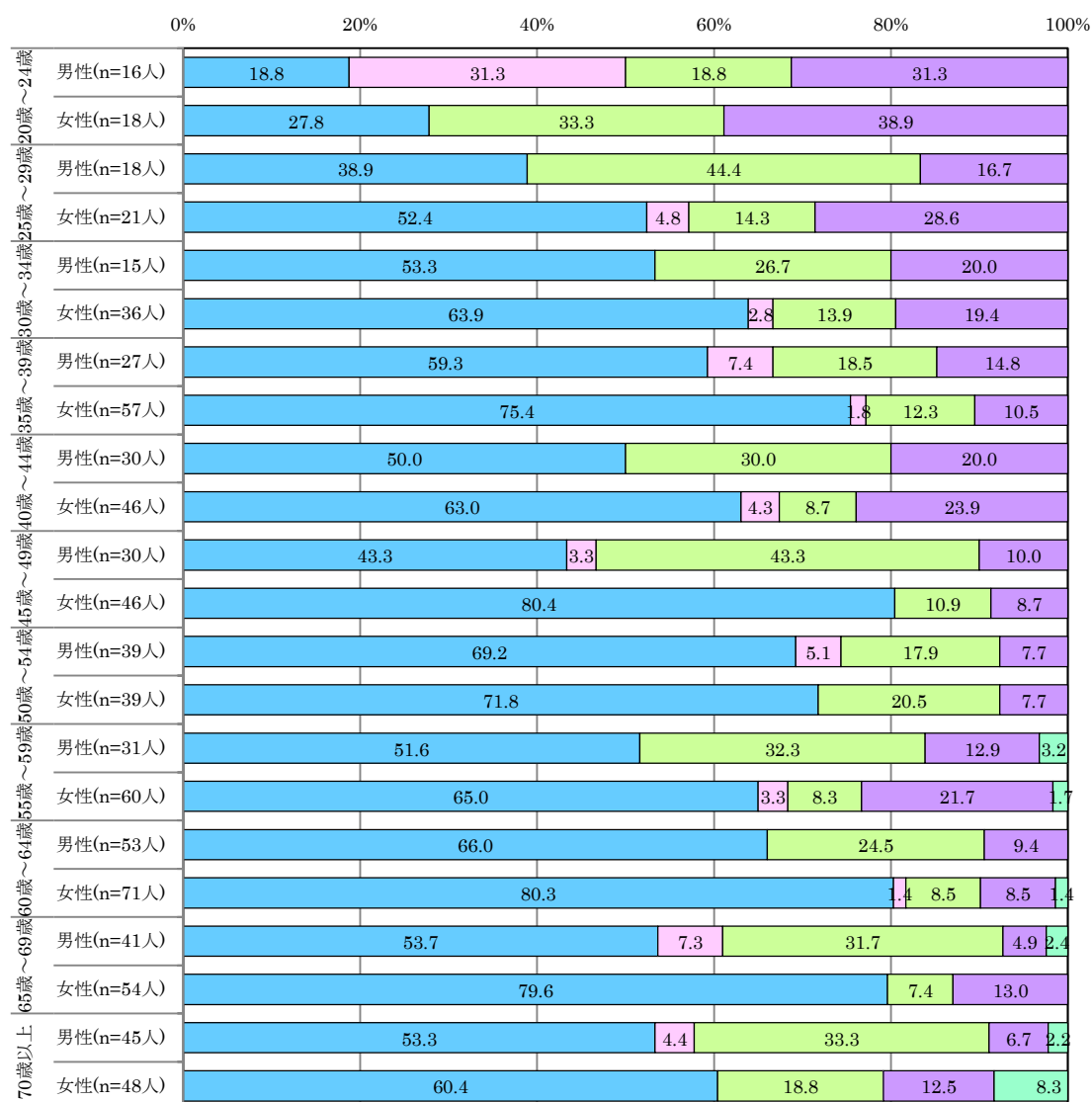


### 3. 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約5割（53.9%）、女性が約7割（69.4%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（29.0%）、女性が約1割（12.5%）となる。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも45歳～49歳、60歳～64歳の女性においては「男性が優位」という回答が8割を超えている。



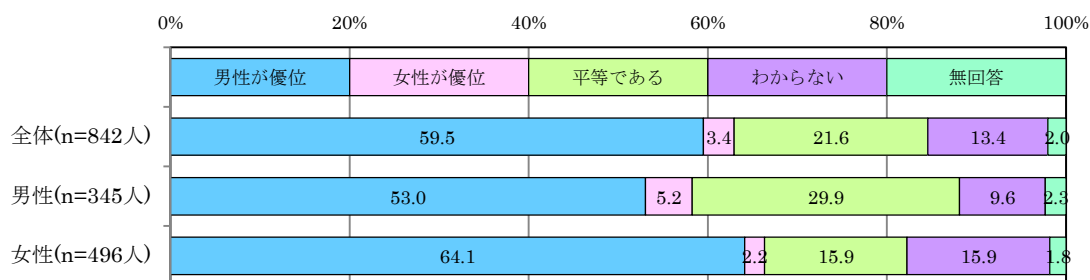
【世代別性別】



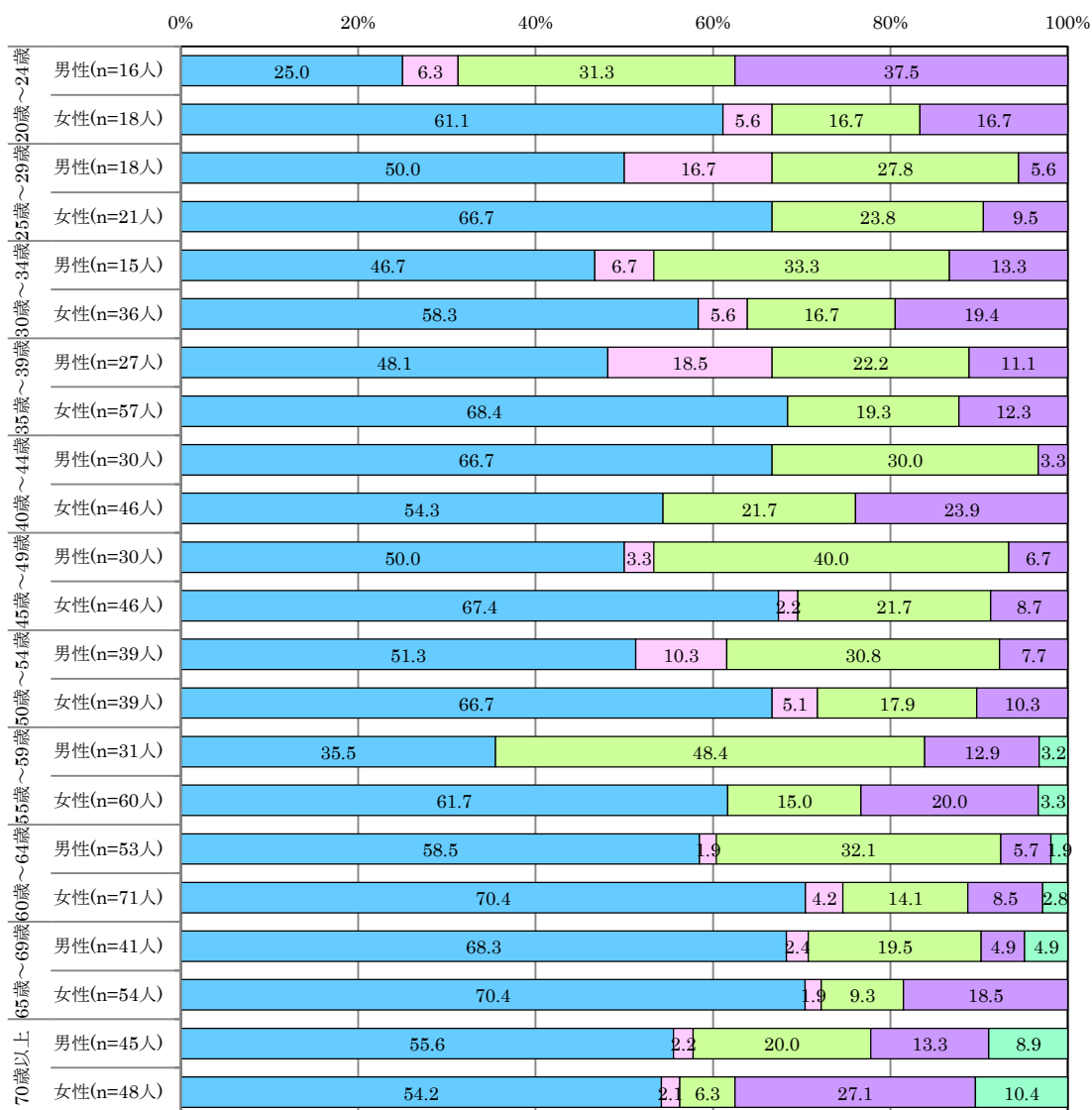
#### 4. 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約5割（53.0%）、女性が約6割（64.1%）となっている。「平等である」という回答は、男性の約3割（29.9%）に対し、女性は約2割（15.9%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳、55歳～59歳の男性においては「平等である」という回答が最も多くなっている。それ以外の世代では、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い。

##### 【性別】

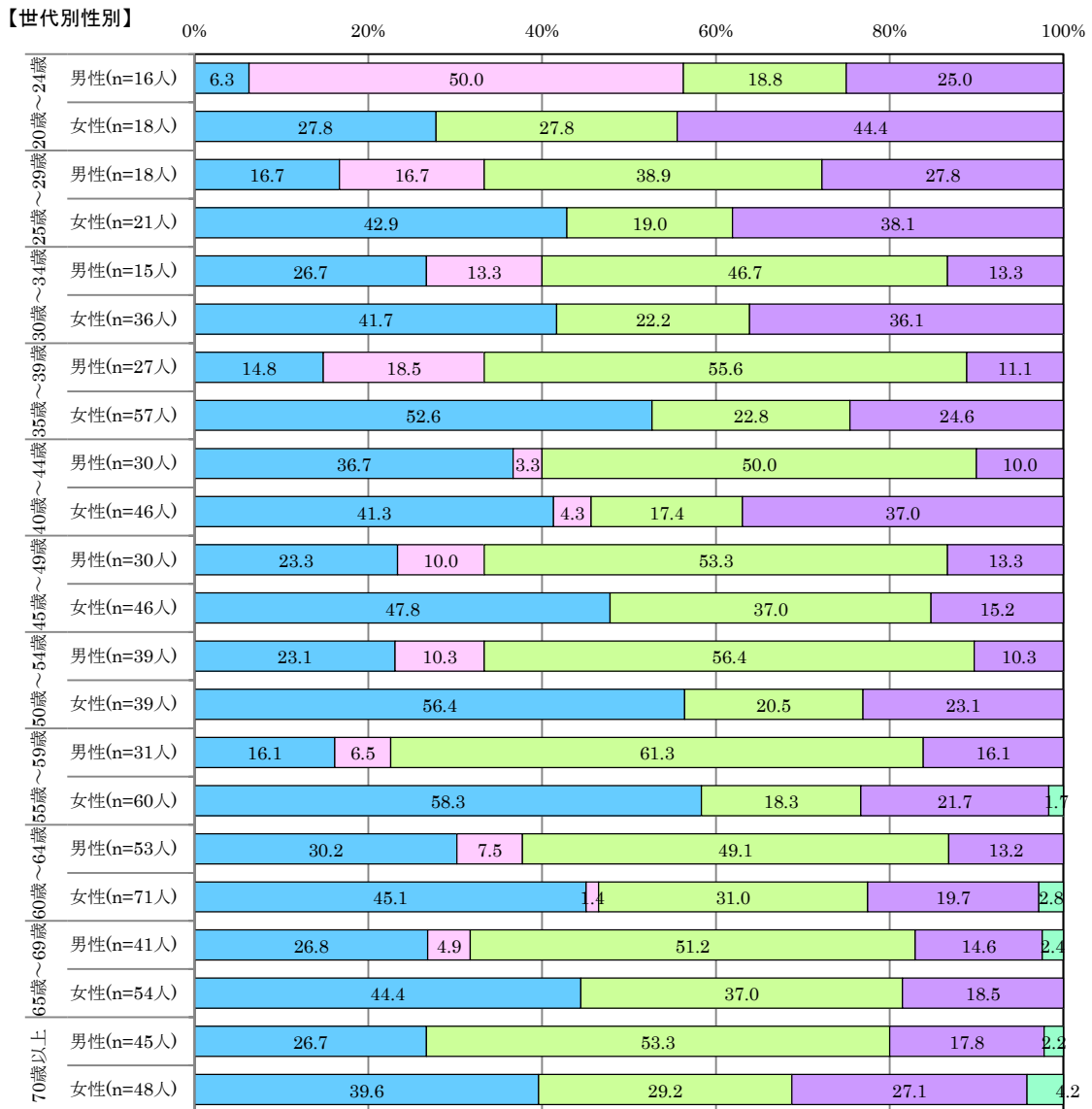
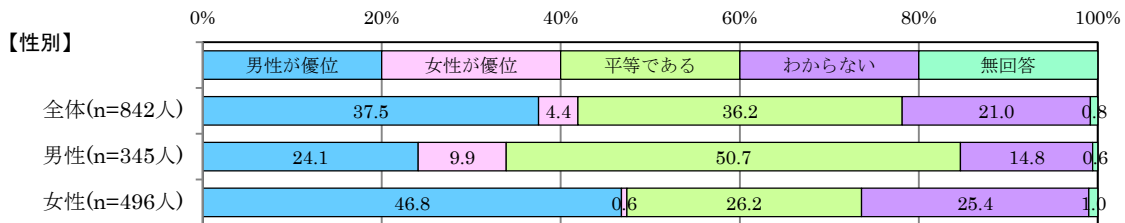


##### 【世代別性別】



## 5. 法律や制度の上では

- 性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（50.7%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（46.8%）という回答が、「平等である」（26.2%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- 世代別性別でみると、男性では、25歳以上の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。一方、20歳～24歳の世代では、「女性が優位」という回答が最も多くなっている。
- 女性においては、25歳以上の世代で、「男性が優位」という回答が「平等である」という回答を上回っている。また、20歳～24歳の女性では、「男性が優位」と「平等である」という回答割合が同じとなる。

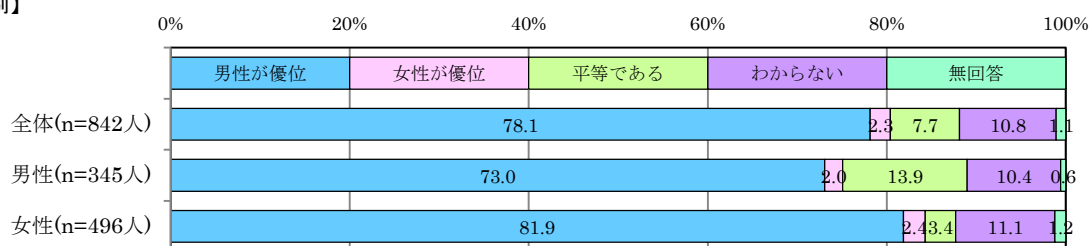




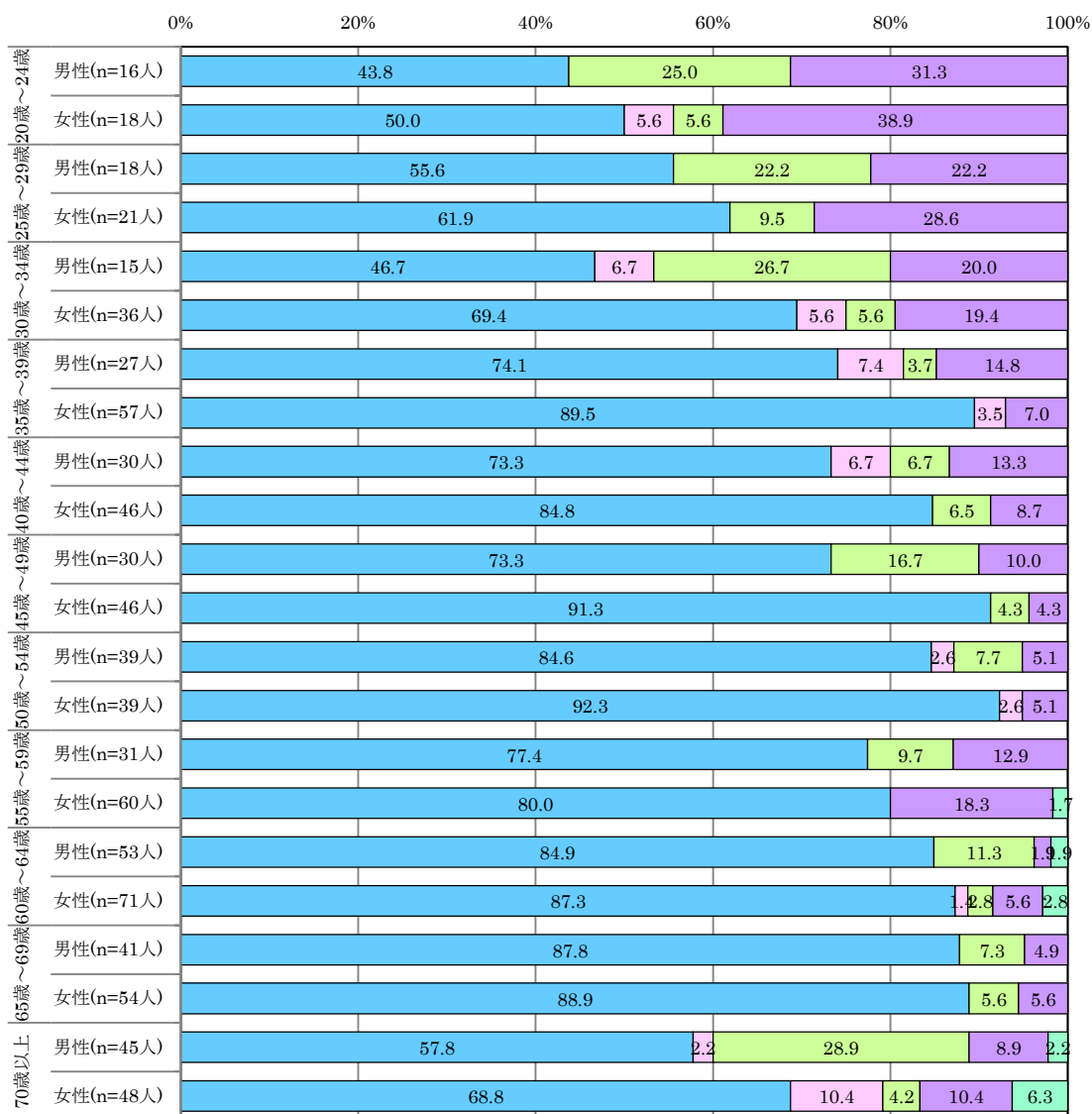
## 6. 慣習・しきたりでは

- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約7割、女性は約8割となっている。
- ・世代別性別でみると、女性では、20歳以上を除き、「男性が優位」という回答がいずれも7割以上となっている。特に、50歳～54歳の女性においては92.3%ときわめて高い。
- ・男性においても、50歳～54歳と60歳代で「男性が優位」という回答が8割以上となっている。

### 【性別】



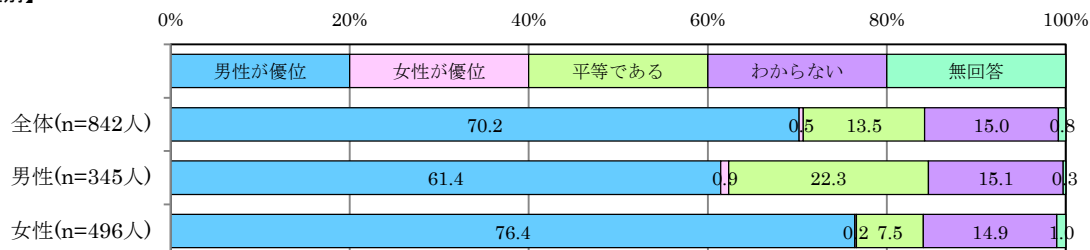
### 【世代別性別】



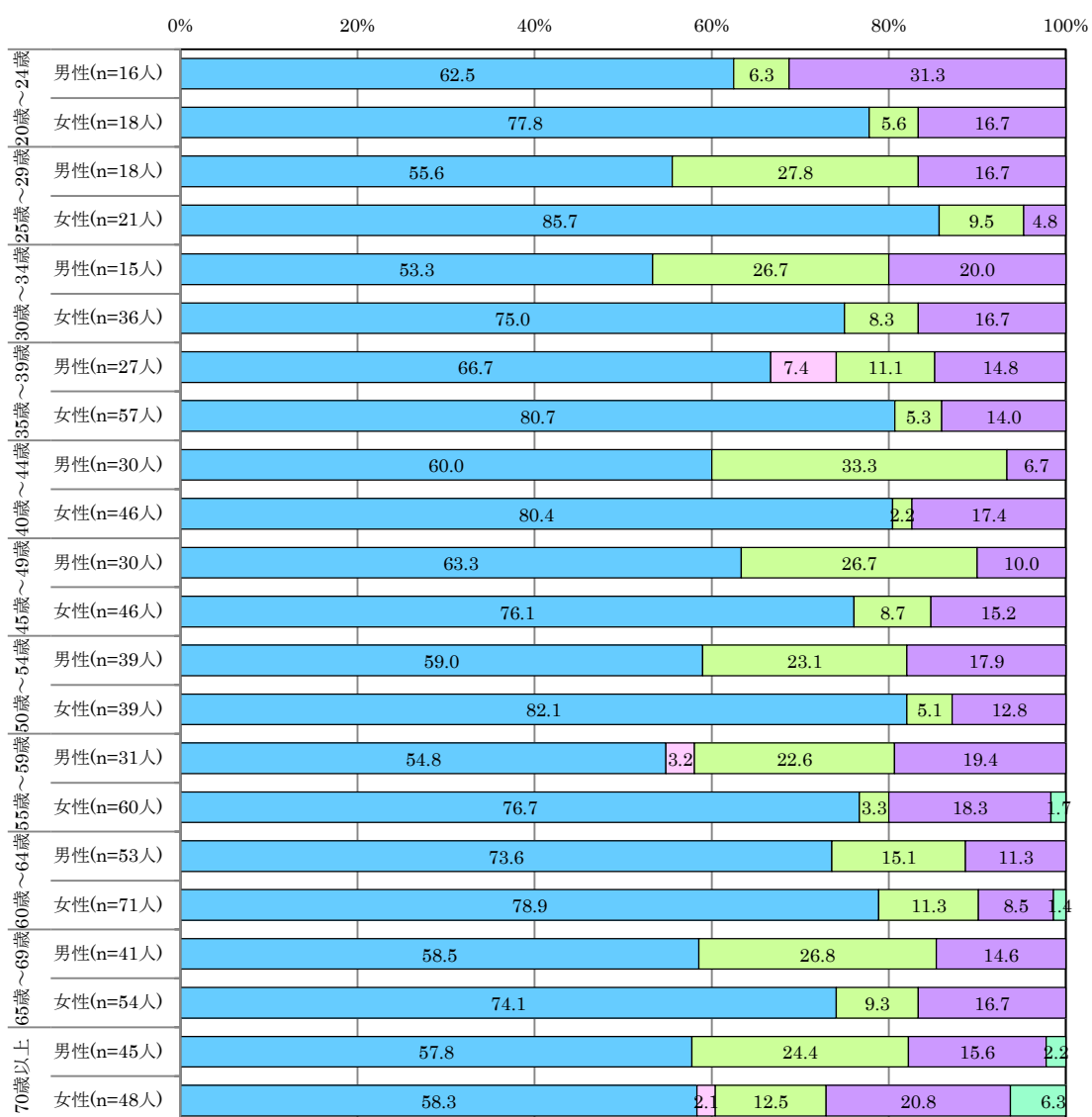
## 7. 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約6割（61.4%）、女性は約8割（76.4%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（22.3%）なのに対して、女性は1割未満（7.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

### 【性別】

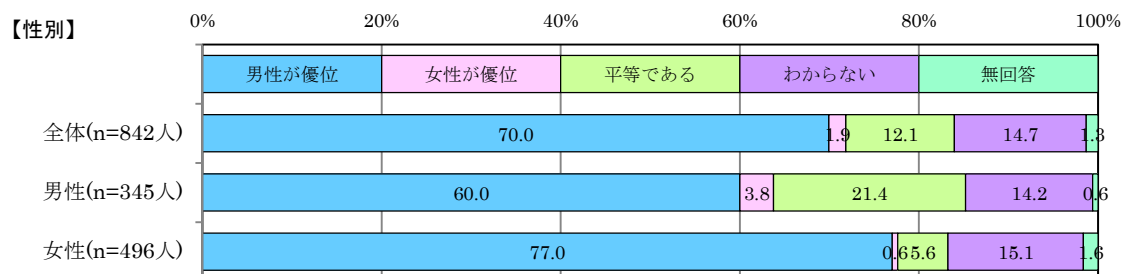


### 【世代別性別】

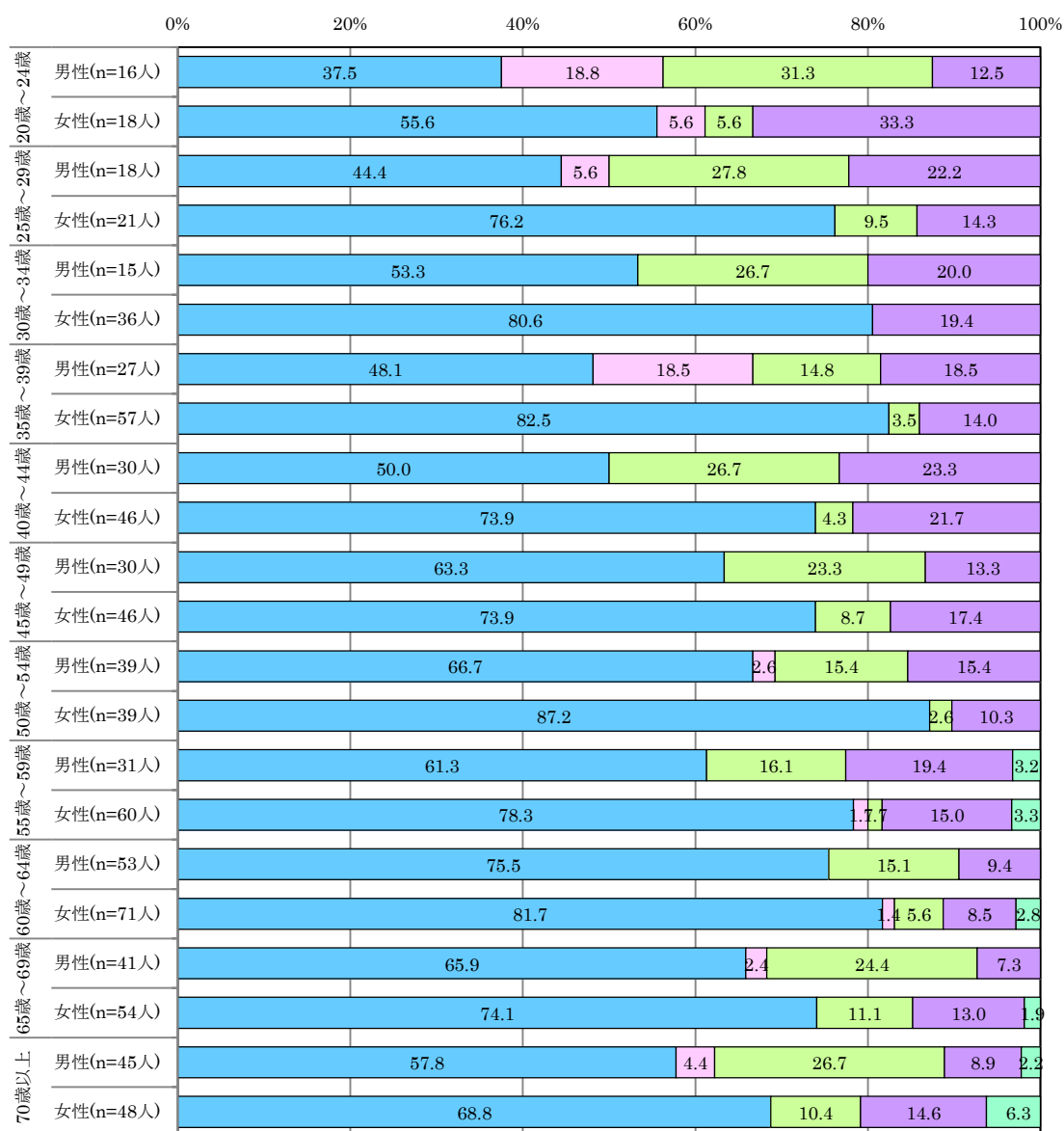


## 8. 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、いずれも6割を超えている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（21.4%）、女性が約1割（5.6%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多い。

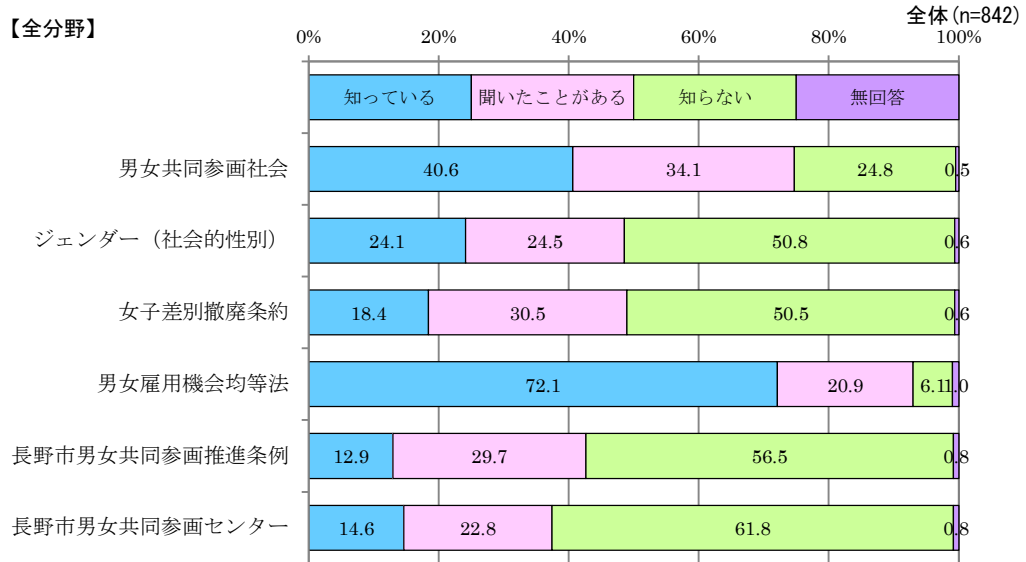


### 【世代別性別】



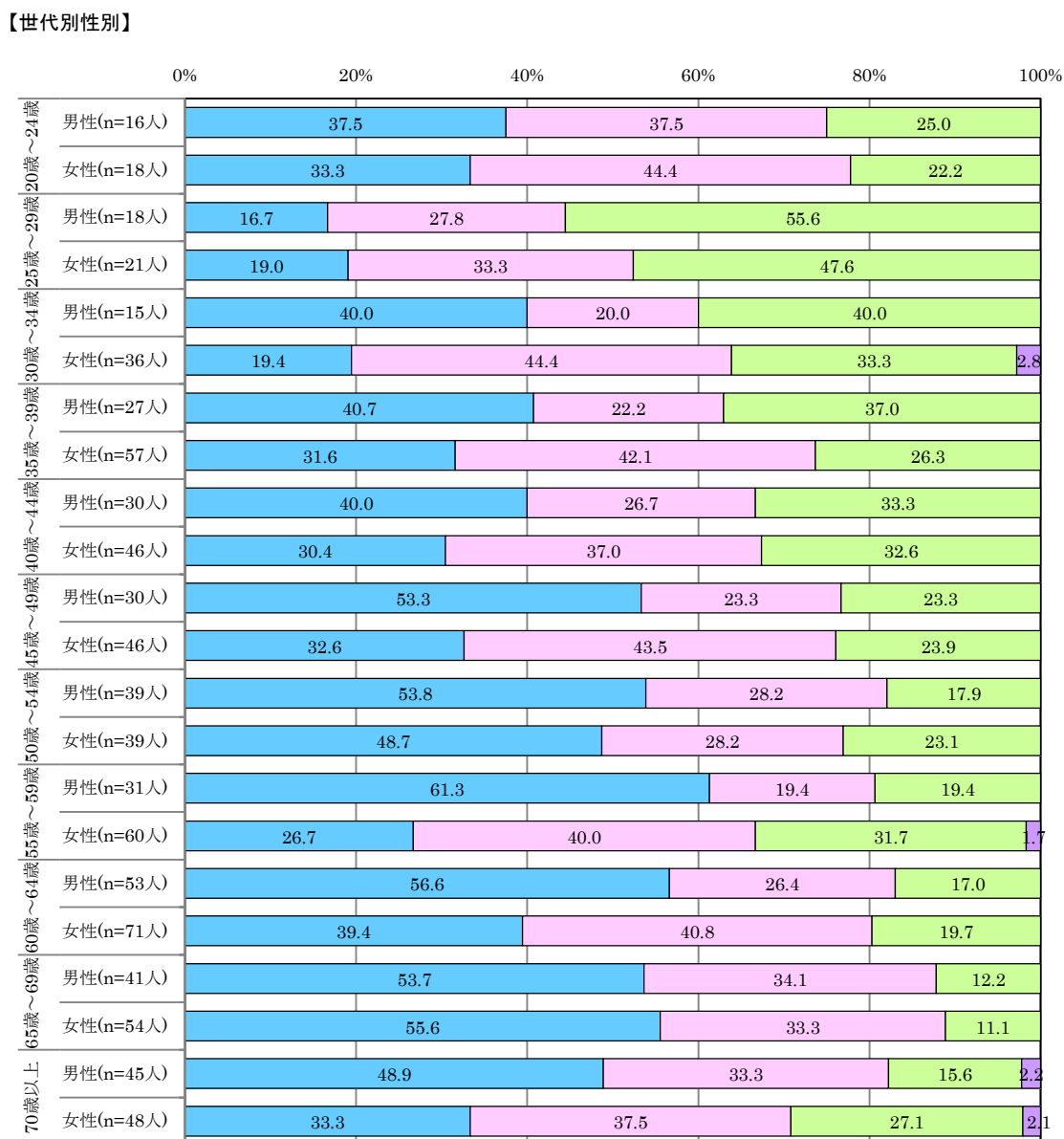
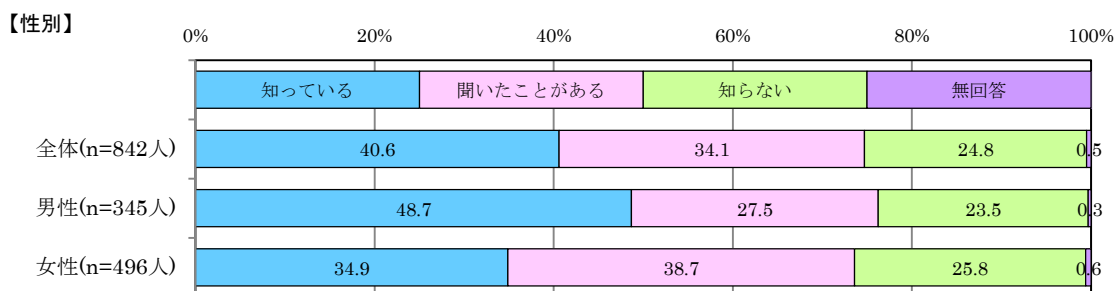
問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答を合計すると、「男女雇用機会均等法」は約9割（93.0%）となり、高い回答割合となっている。次いで、「男女共同参画社会」も約7割（74.7%）と認知度が高い。一方、「ジェンダー（社会的性別）」は約5割（48.6%）、「女子差別撤廃条約」が約5割（48.9%）、「長野市男女共同参画推進条例」（42.6%）と、「長野市男女共同参画センター」（37.4%）が約4割となっている。



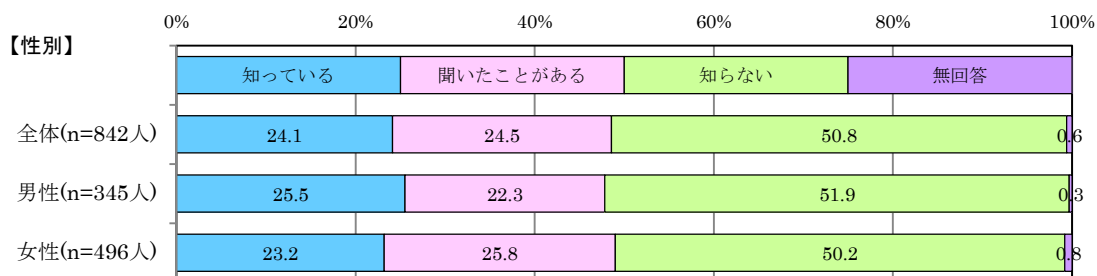
## 1. 男女共同参画社会

- ・性別では、「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合は、男性が約8割（76.2%）、女性が約7割（73.6%）となり、男性の方が「男女共同参画社会」については知っていることが分かる。
- ・世代別性別でみると、男性は30歳以上で、「知っている」という回答が4割以上となっている。一方、女性は65歳～69歳で5割を超えるが、他の年代は2～5割である。

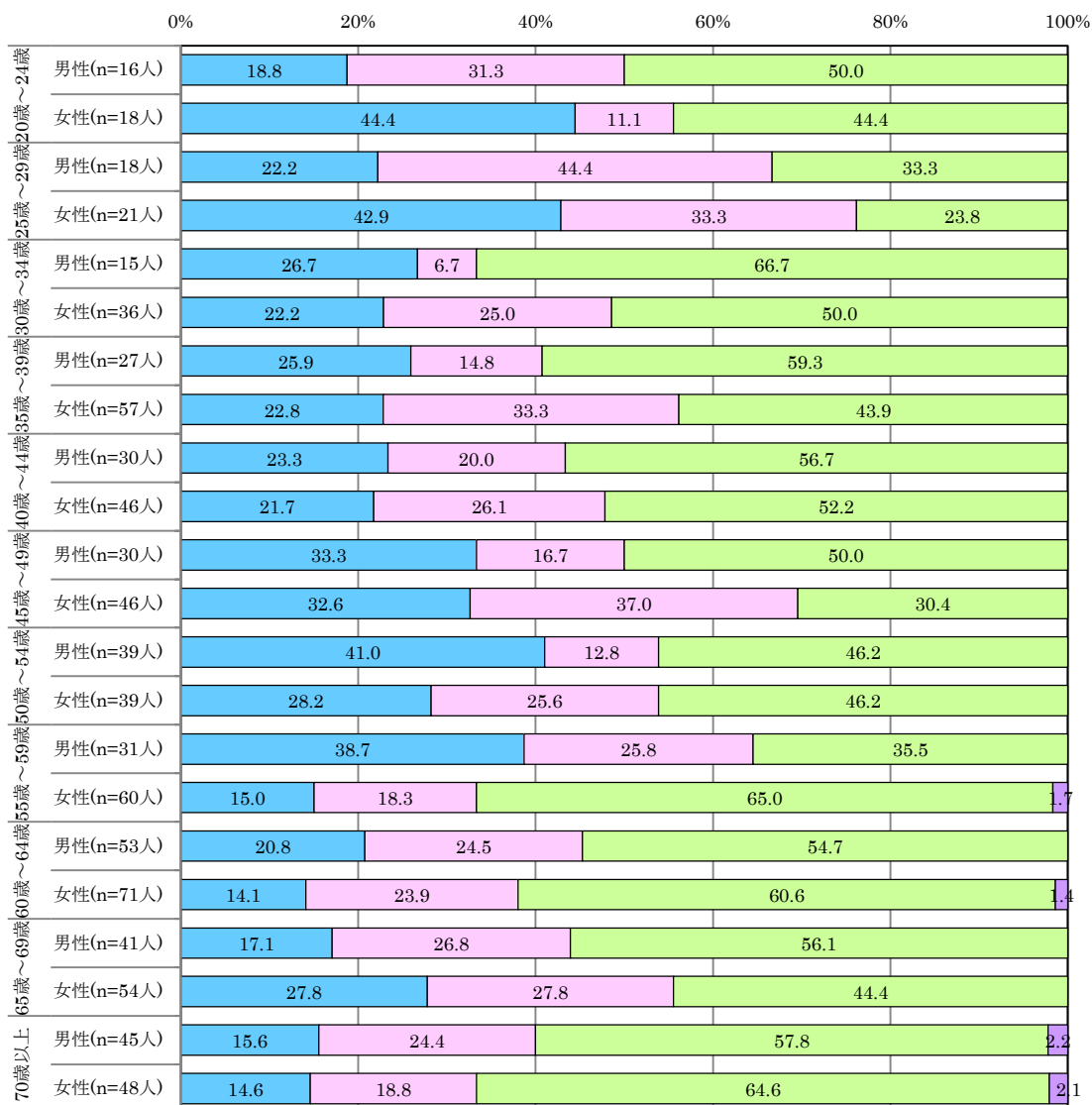


## 2. ジェンダー（社会的性別）

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多い回答となり、男性が51.9%、女性が50.2%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は、男性が47.8%、女性が49.0%となり、女性の方が男性よりやや回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男女とも、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計が多い傾向にある。一方、30歳～34歳の男性及び55歳以上の女性（65歳～69歳以外）で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計がやや少ない結果となる。

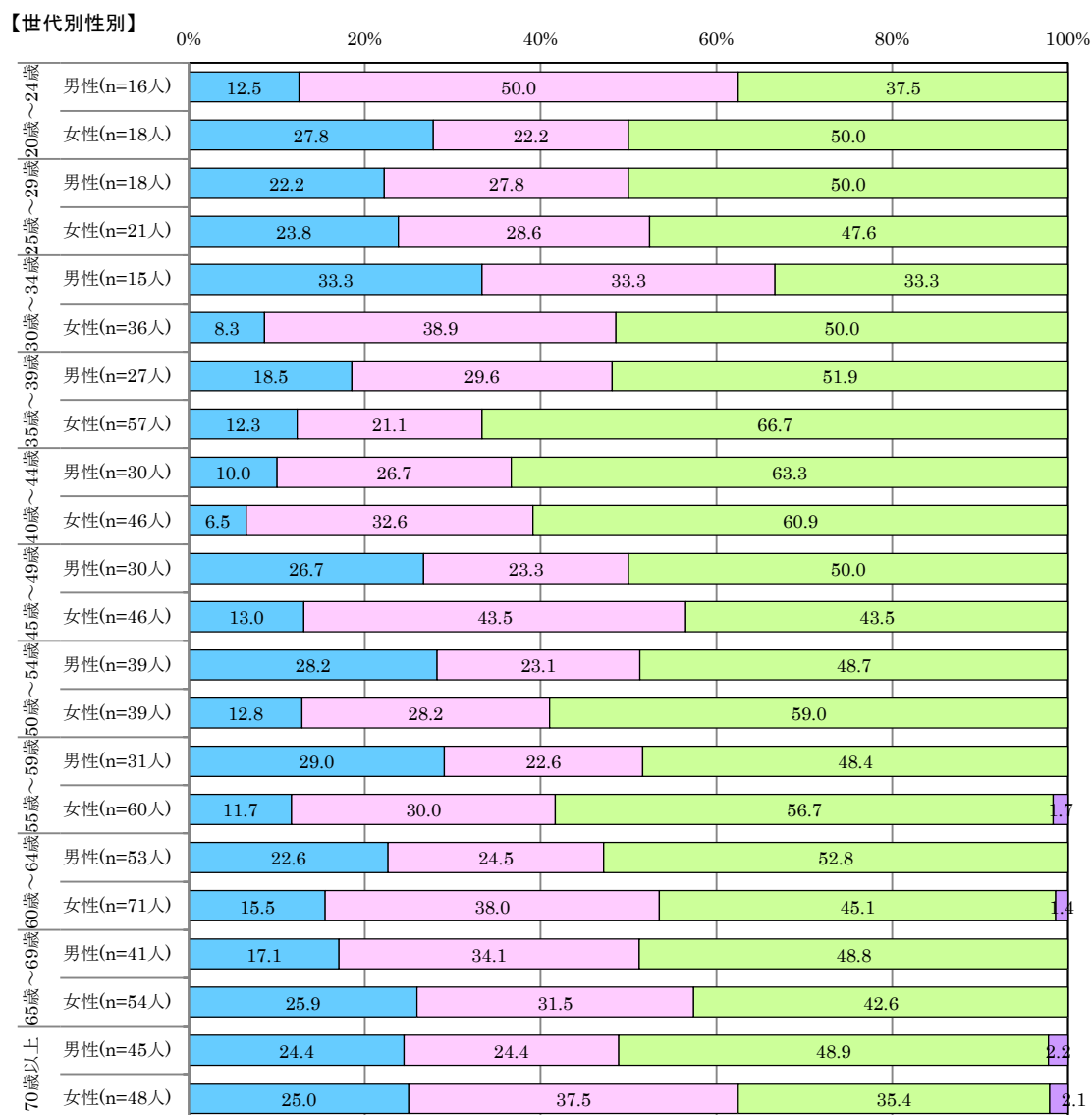
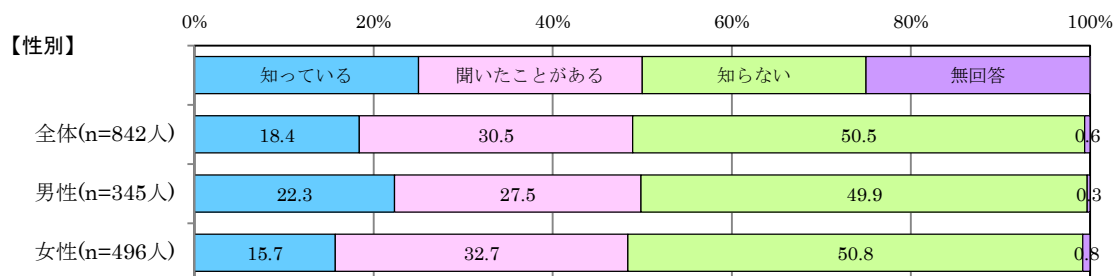


### 【世代別性別】



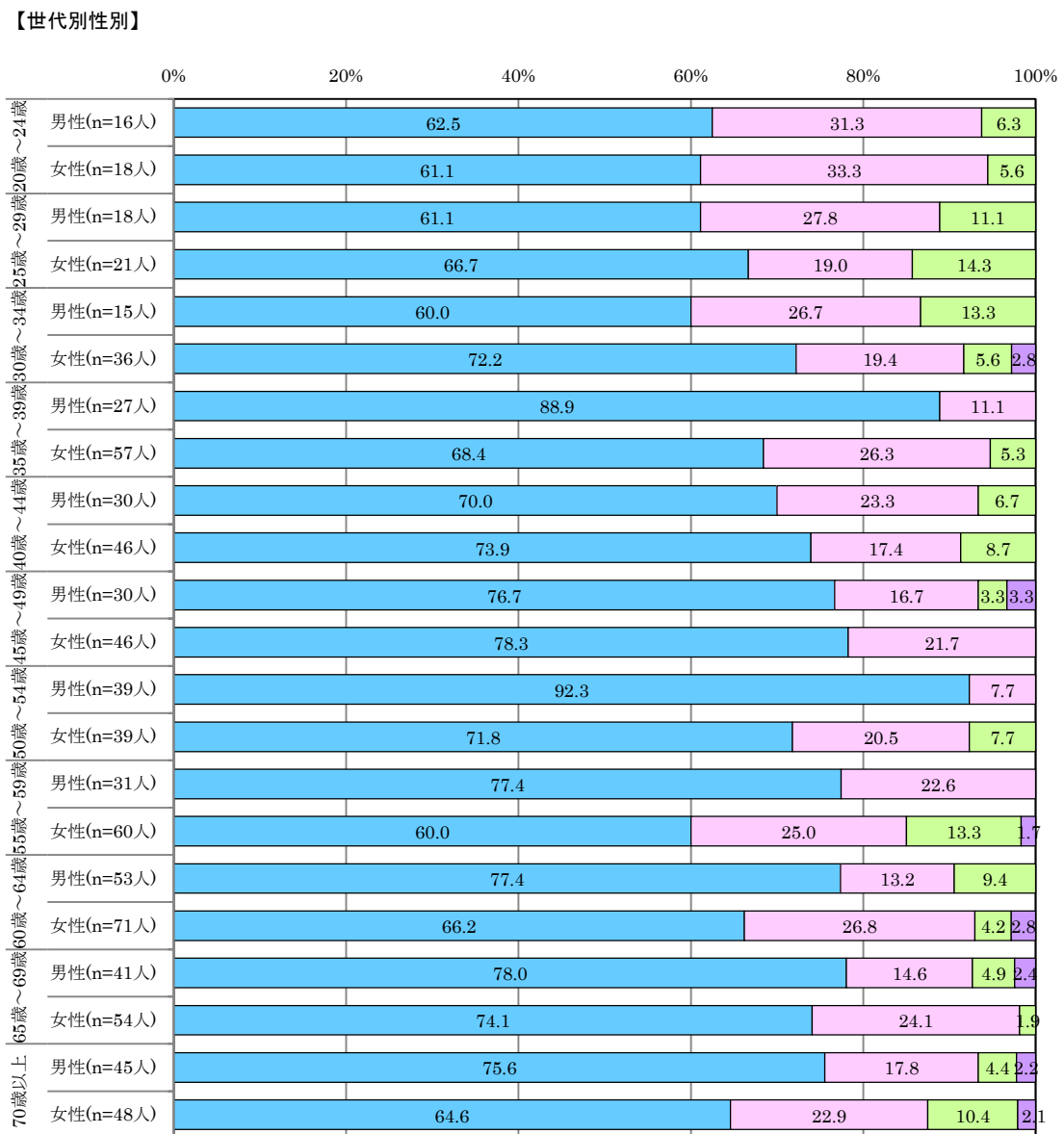
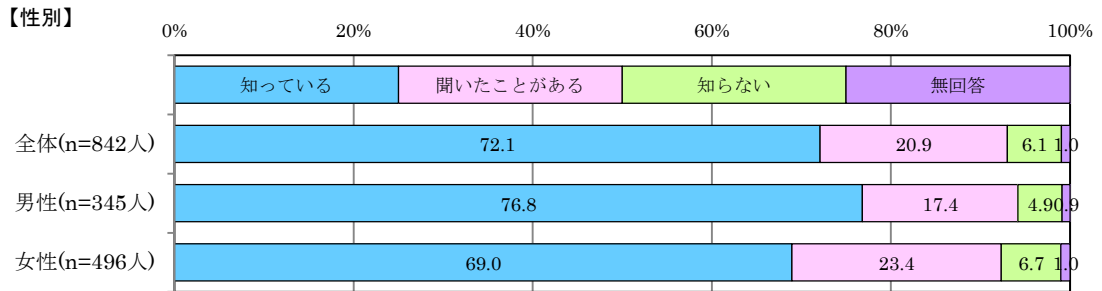
### 3. 女子差別撤廃条約

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が49.9%、女性が50.8%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は、男性が49.8%、女性が48.4%で、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性では、30歳～34歳の年代で、女性では70歳以上で最も多くなっている。
- ・30歳～64歳の年代では、女性より男性の方が「知っている」という回答割合が多くなっている。



#### 4. 男女雇用機会均等法

- ・性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は、男性が94.2%、女性が92.4%で、どちらも約9割と高くなっている。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳と50歳代の男性、及び45歳～49歳の女性では、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が100.0%になっている。
- ・20歳～24歳の女性と、20歳～34歳の男性、55歳～59歳の女性においては、「知っている」という回答が、やや低くなっている。

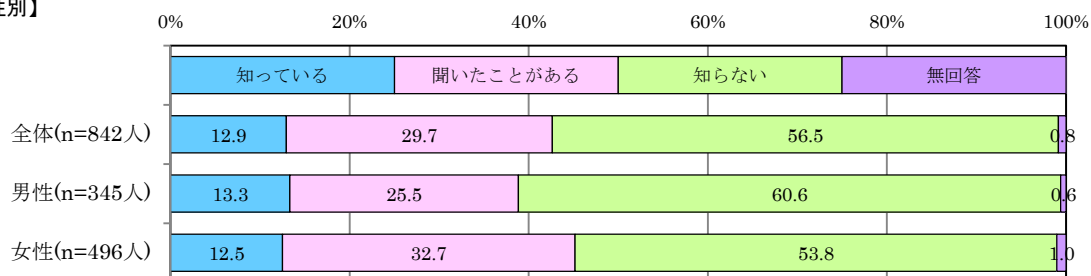




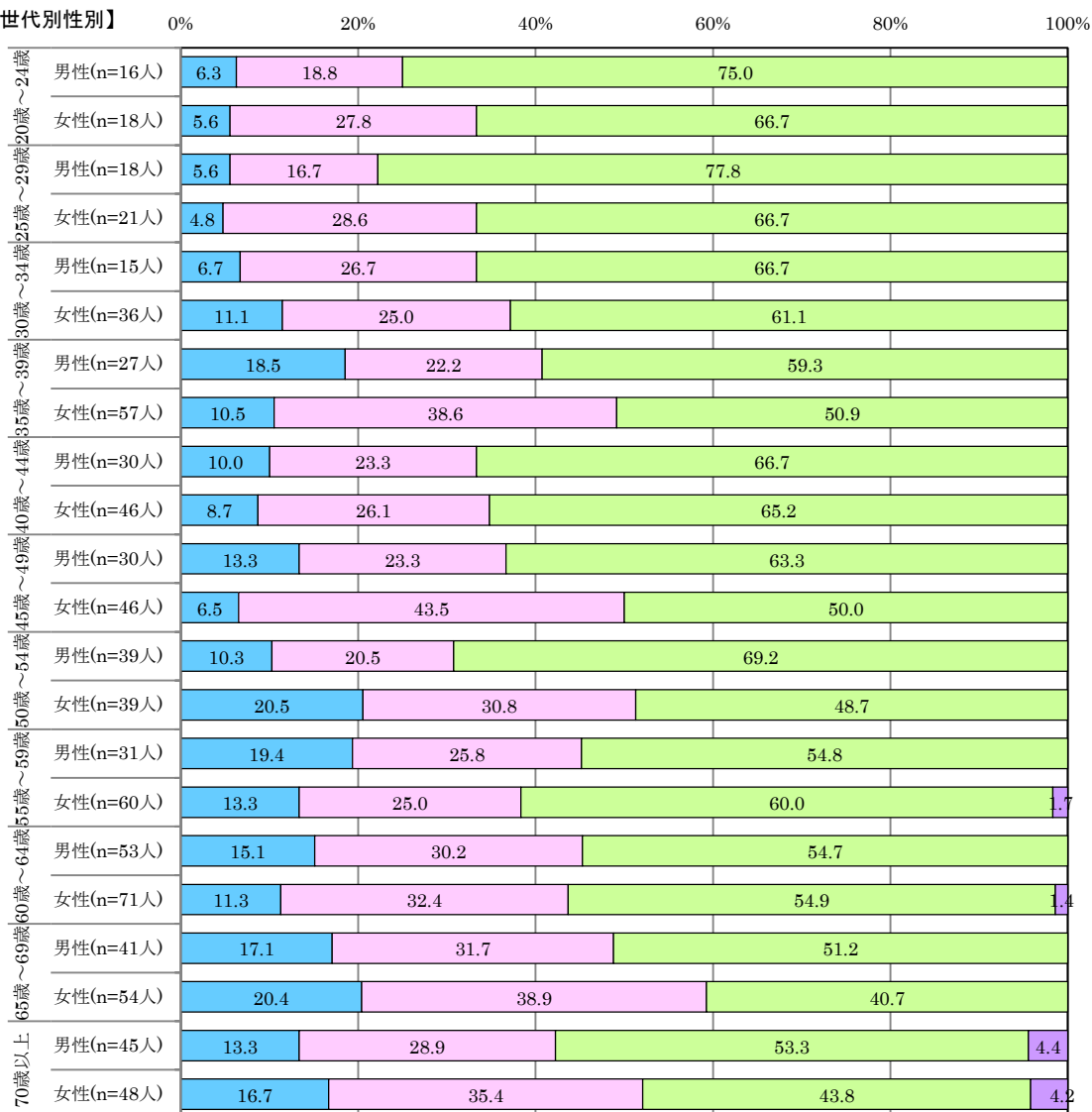
## 5. 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性で6割（60.6%）、女性で約5割（53.8%）となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計も、男性が38.8%、女性が45.2%となっており、若干女性の方が多い。
- ・世代別性別でみると、20歳代の男性では「知らない」という回答は7割を超えている。
- ・60歳以上の世代で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合が4割以上となっている。

【性別】

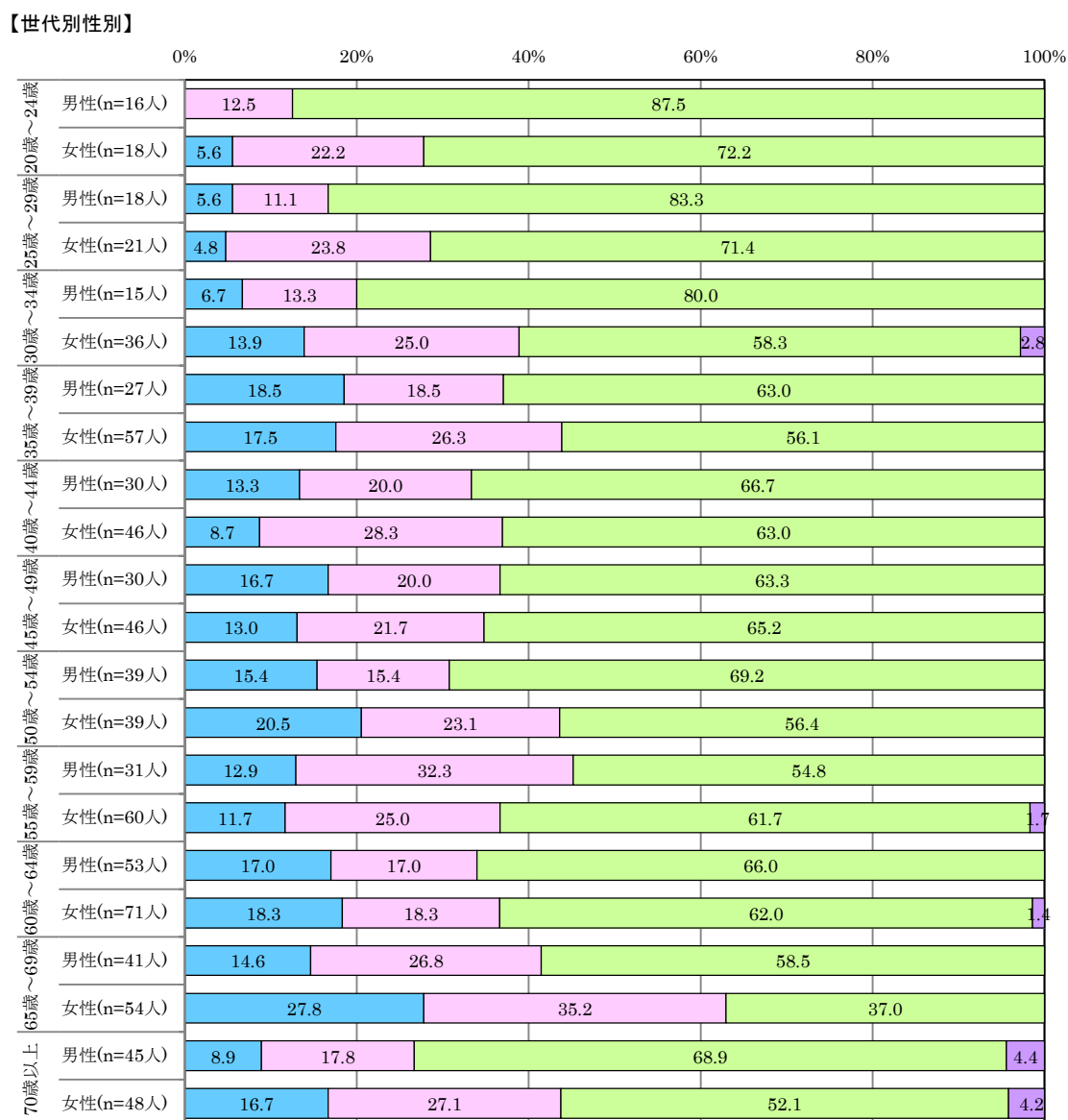
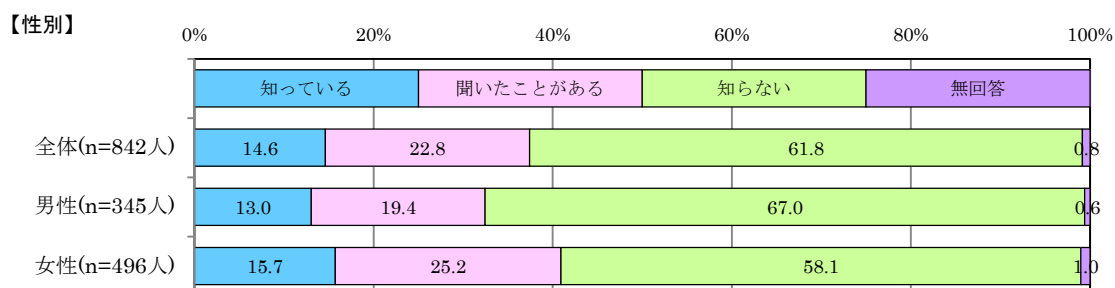


【世代別性別】



## 6. 長野市男女共同参画センター

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が67.0%、女性が58.1%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は、男性が32.4%、女性が40.9%となり、女性の方が多い。
- ・世代別性別でみると、男性では、55歳～59歳、65歳～69歳を除く各世代別で、「知らない」という回答が6割以上となっている。一方、女性は、65歳～69歳で「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は63.0%となり、他の世代と比べ突出して多くなっている。

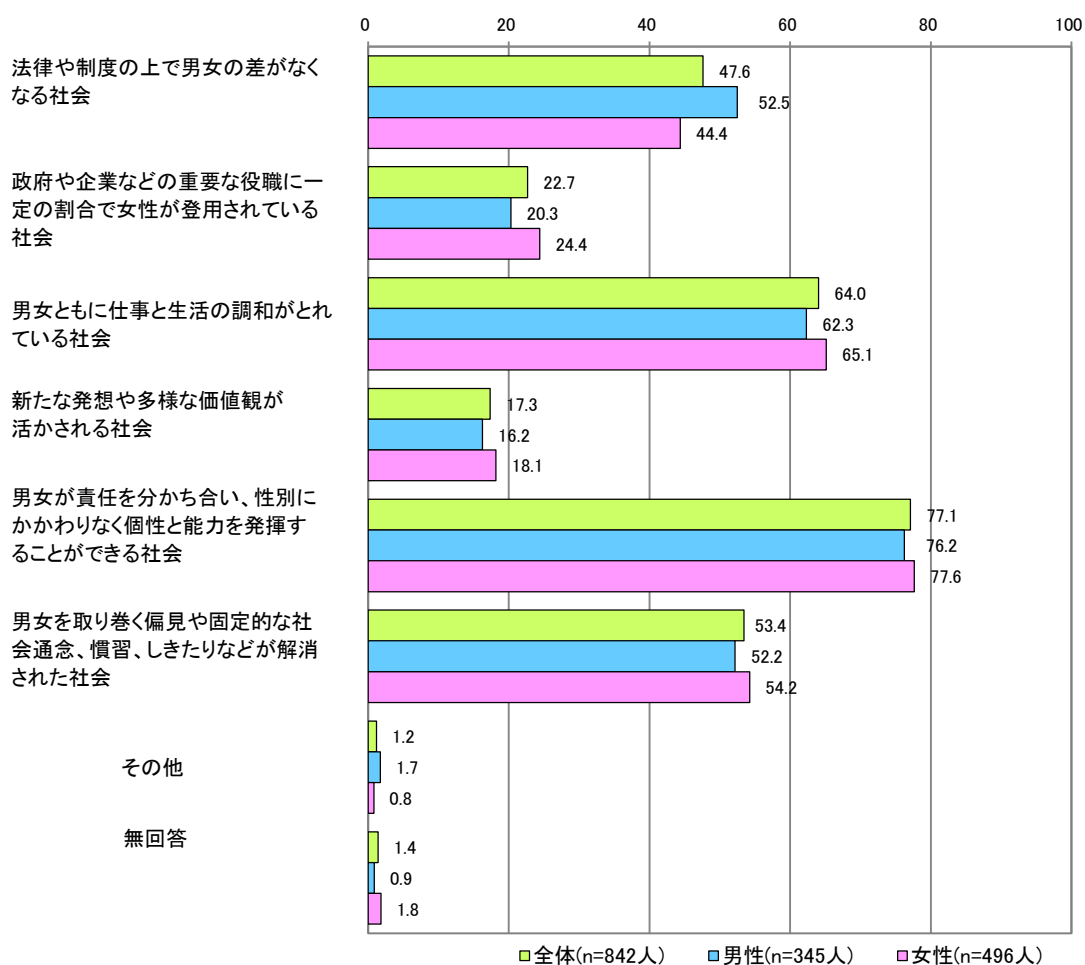


問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割（77.1%）で最も多い。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」（64.0%）、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」（53.4%）、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」（47.6%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」という回答は、男性が52.5%で、女性が44.4%となっており、男性の回答割合が約1割ほど高くなっている。

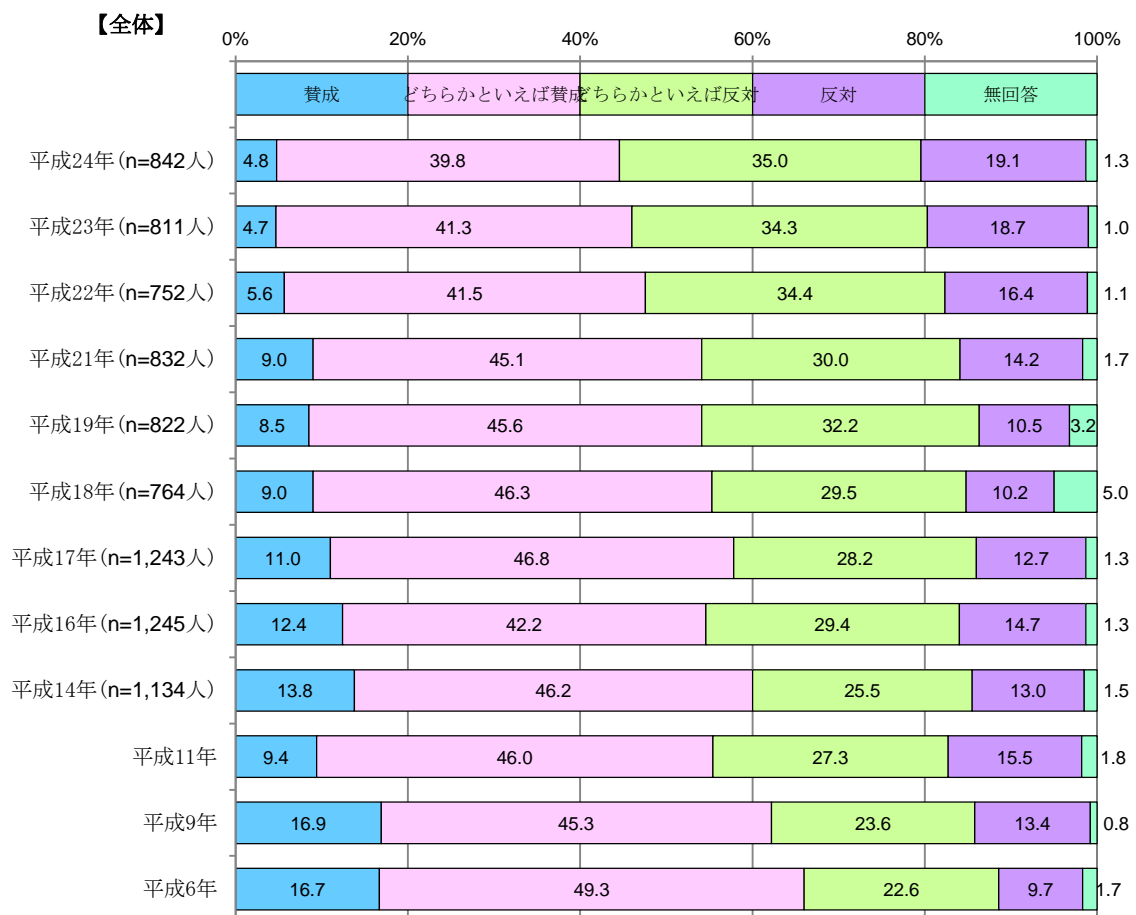
【性別】

(%)

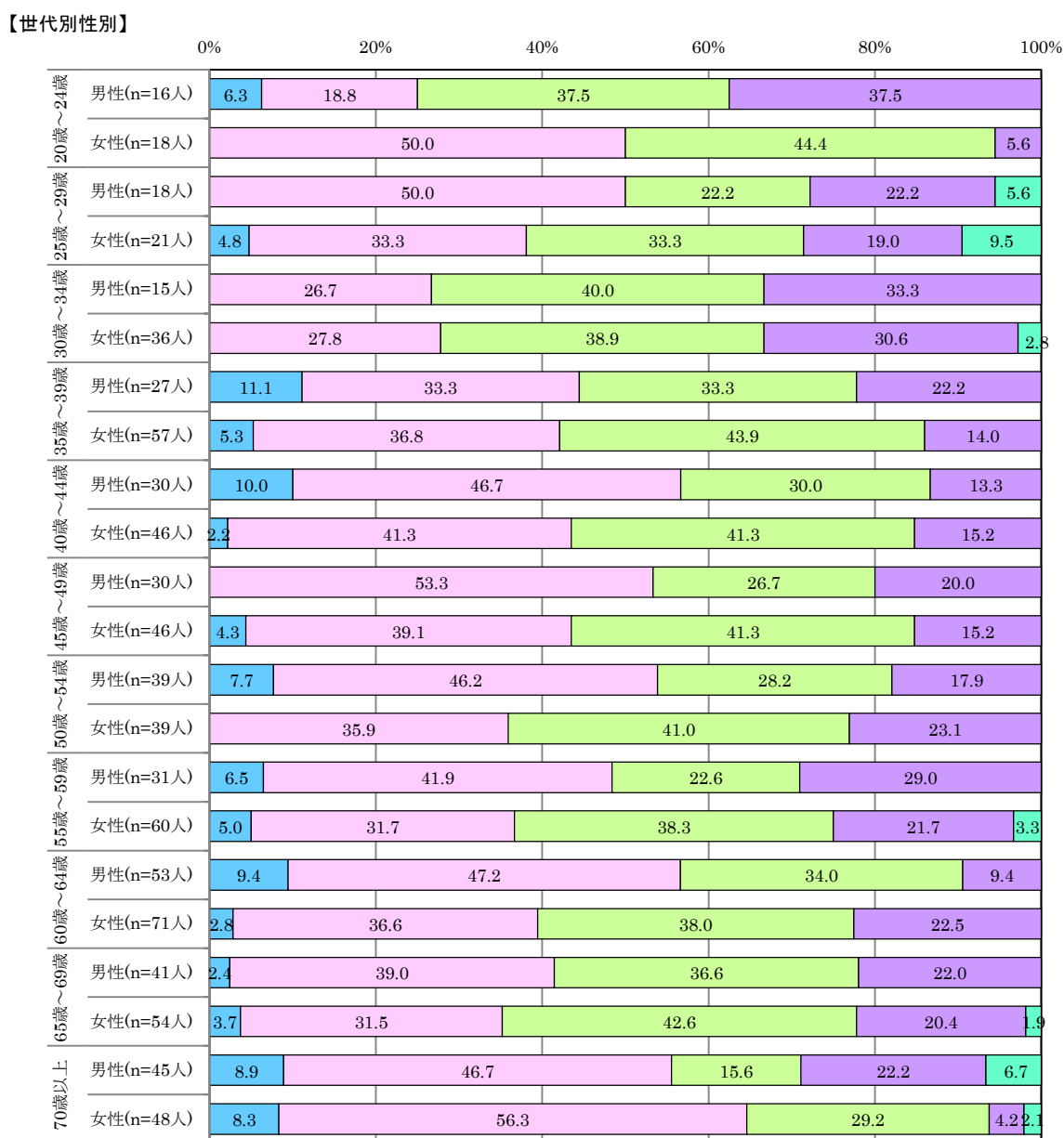
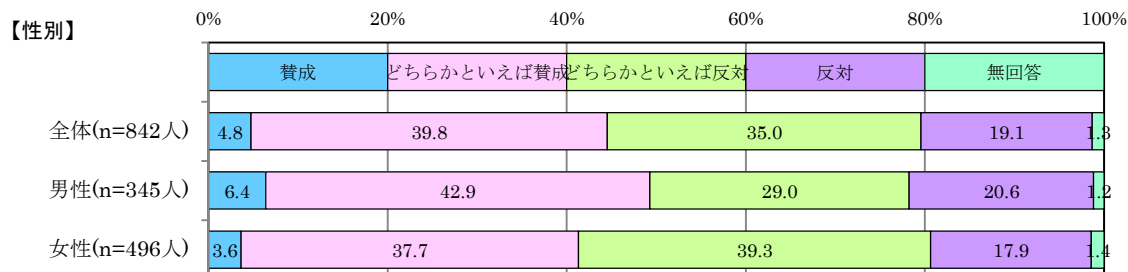


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について  
 どう思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・平成24年の調査結果は、「賛成」が4.8%「どちらかといえば賛成」が39.8%、「どちらかといえば反対」が35.0%、「反対」が19.1%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成24年は平成23年と比べ、1.4ポイント減少となった。



- ・性別でみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答の合計は、男性が49.3%、女性が41.3%となっている。女性より男性の方が、性別によって役割を固定する考え方に肯定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、20歳～24歳、30歳代、55歳～59歳、65歳～69歳の年代で「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答合計が5割を下回っており、それ以外の年代より回答割合が低くなっている。

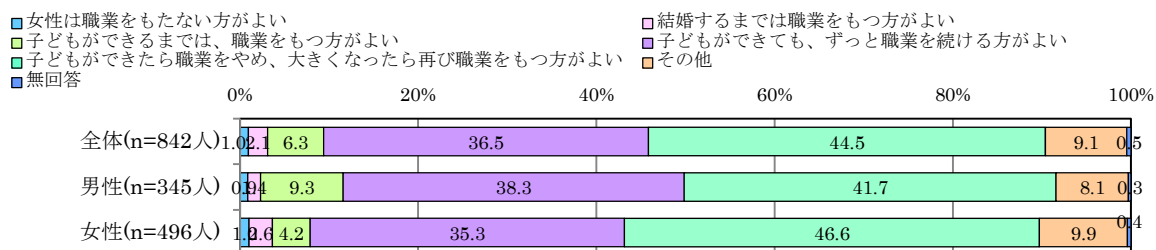


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

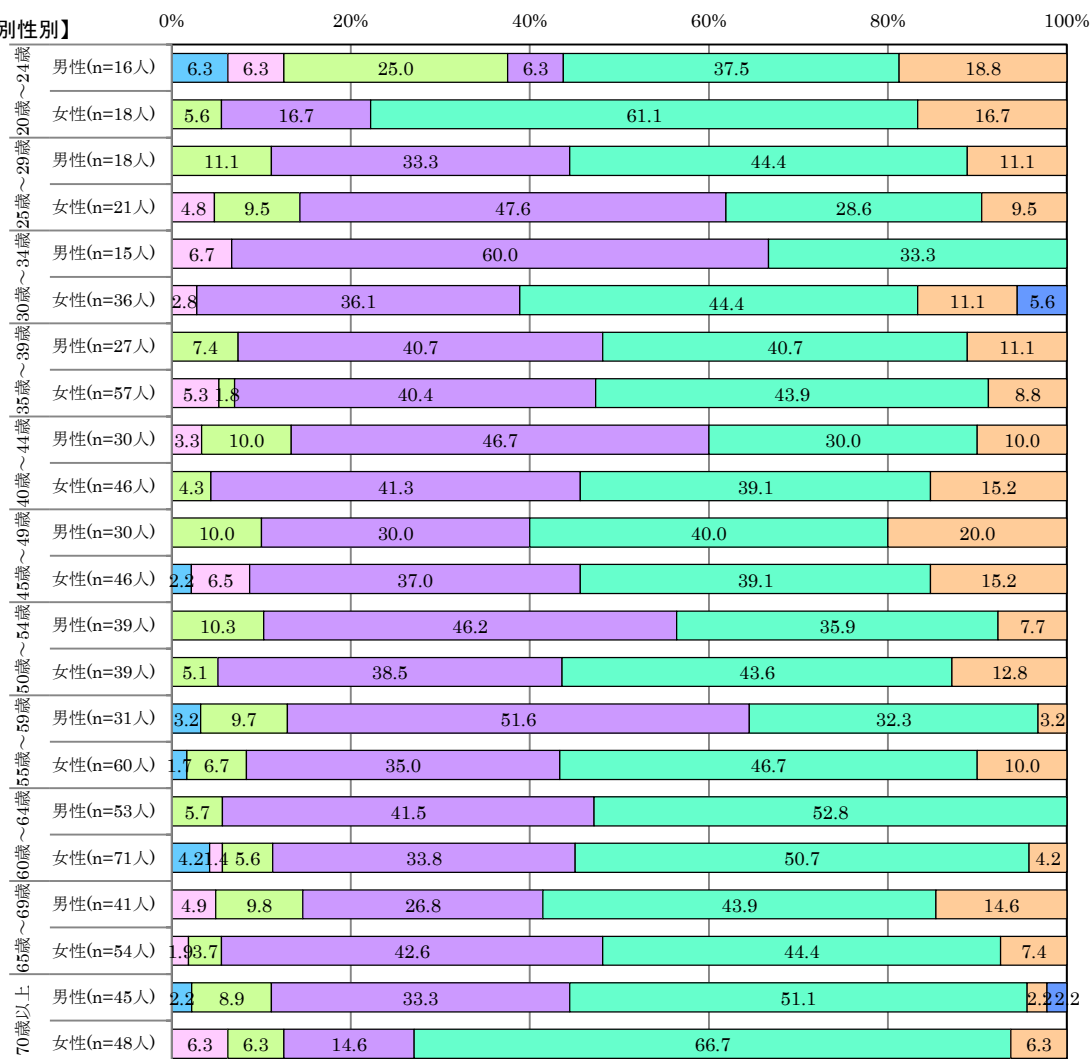
次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女とも「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が最も多く、男性が41.7%、女性が46.6%となっている。次いで、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が男女どちらも2番目に多い回答となっており、性別による大きな差は見られない。
- ・世代別性別でみると、男性は30歳～34歳及び40歳～44歳、50歳～59歳の年代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が多くなっている傾向がある。
- ・一方、女性は25歳～29歳、40歳～44歳の年代で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答を上回っている。

【性別】



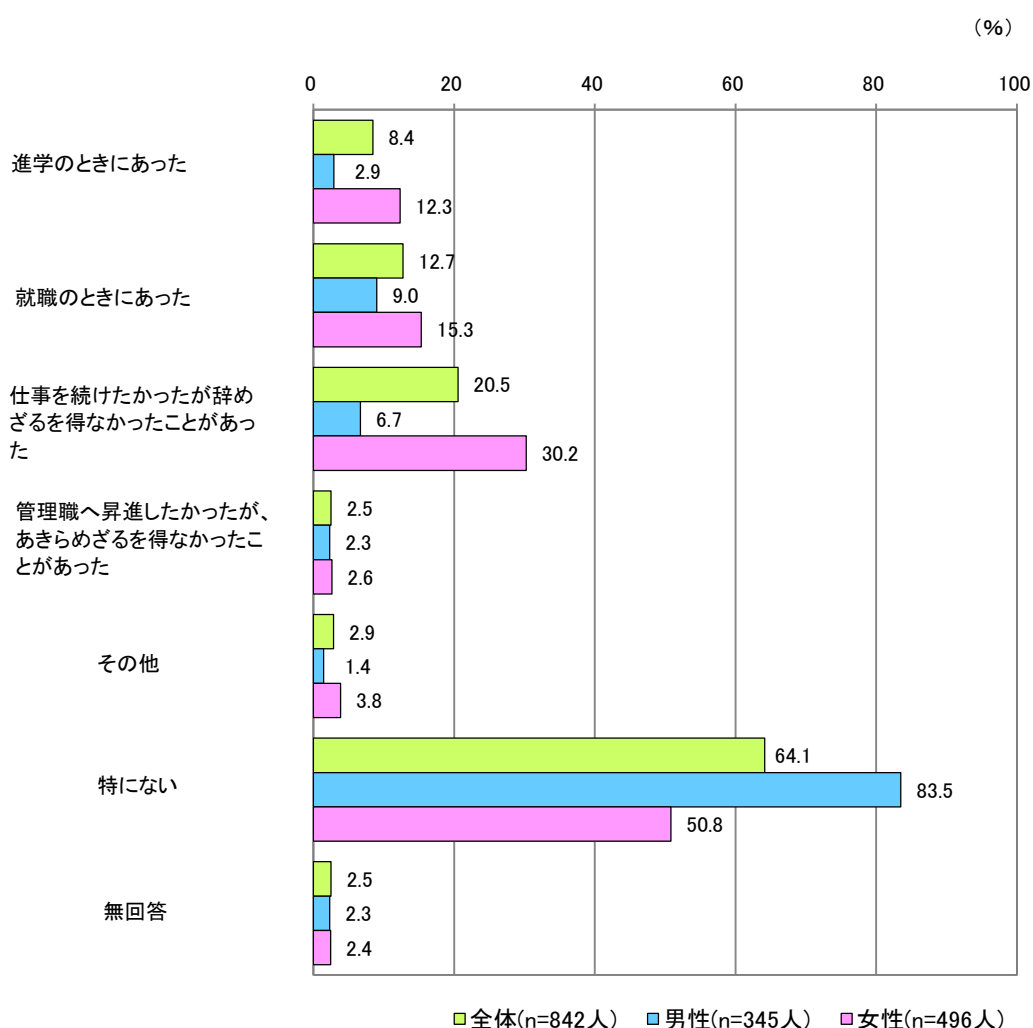
【世代別性別】



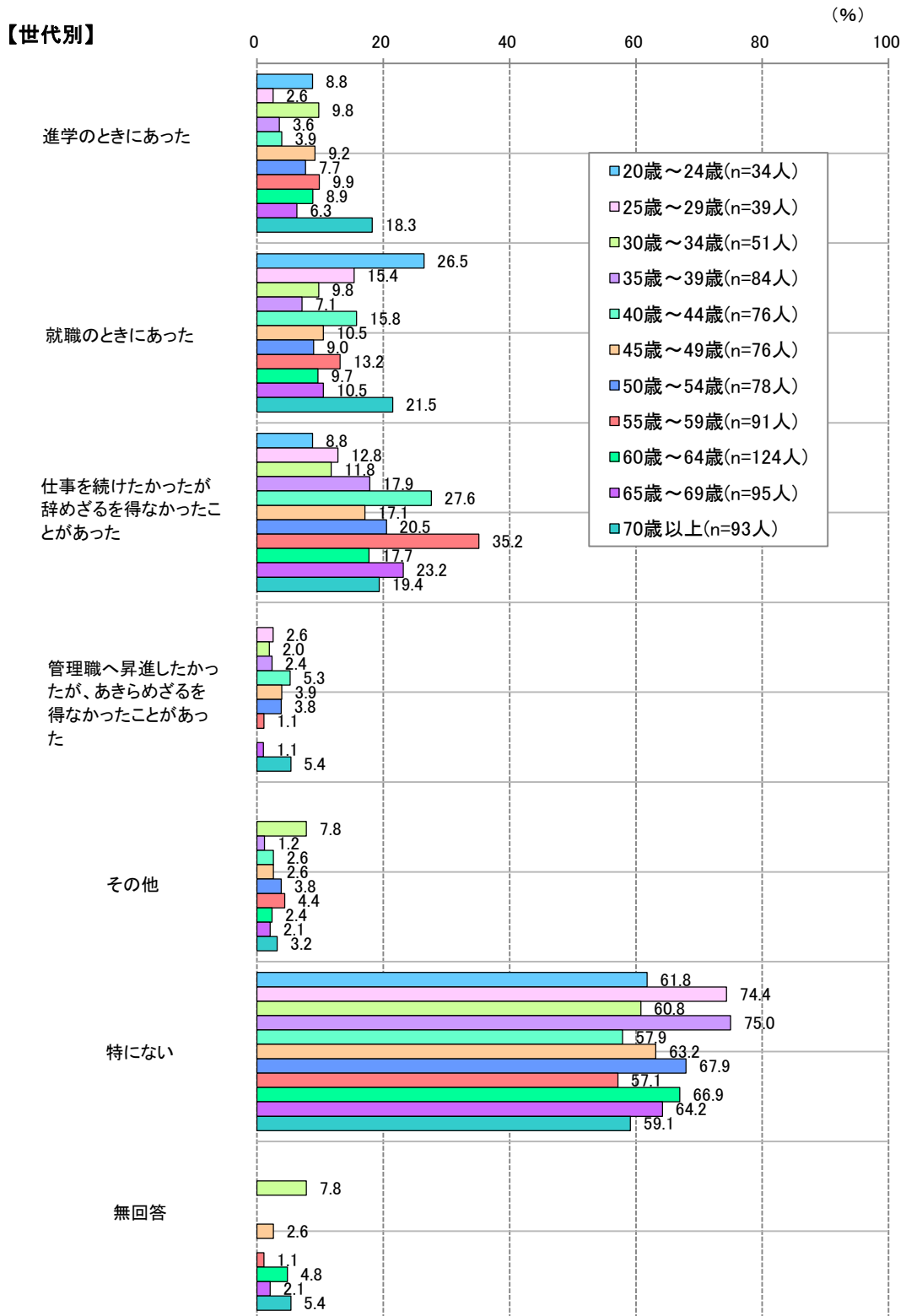
問6 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがありますか。  
あなたにあてはまるものすべてをお選びください。

- ・全体でみると、「特にない」という回答が約6割（64.1%）で最も多い回答となっている。
- ・次に多い回答は、「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」が約2割（20.8%）、「就職のときにあった」が約1割（12.7%）となっている。
- ・性別でみると、「特にない」という回答割合は、男性が約8割（83.5%）を超えている。一方、女性は、約5割（50.8%）と男性に比べ少なくなっている。
- ・いずれの場面においても、女性が男性の回答割合を上回っている。女性においては、「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」（30.2%）、「就職のときにあった」（15.3%）、「進学の際にあった」（12.3%）の順で回答割合が多くなっている。

【性別】



- ・世代別でみると、「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」という回答は、年齢が高いほど、回答割合も比較的高い傾向にあるといえる。
- ・「就職のときにあった」は20代や70歳以上で比較的高い回答割合となっている。「進学のとときにあった」は、70歳以上の年代で約2割（18.3%）と回答割合が高くなっている。





---

## 労働に関する問題

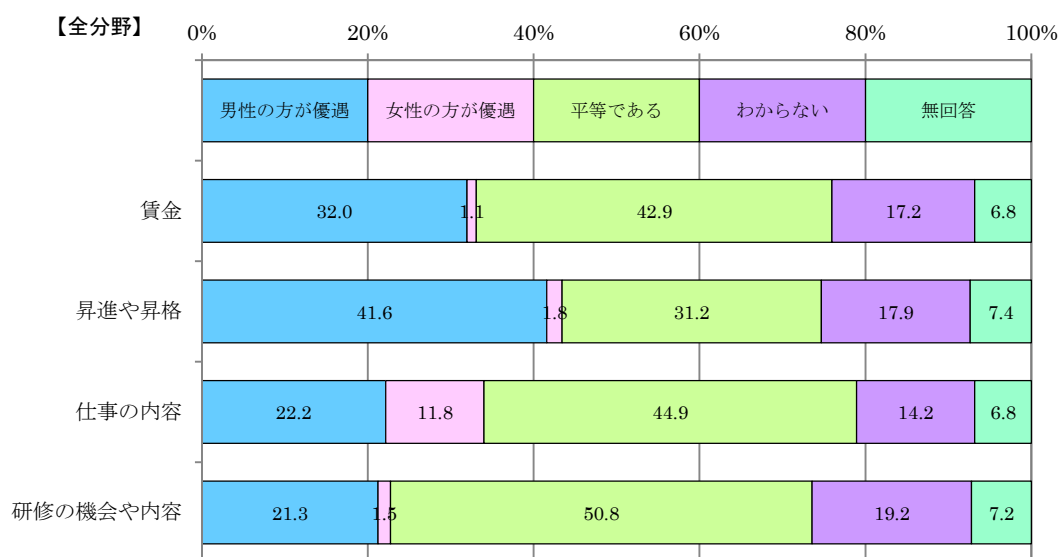
---



**問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか  
 (次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つ  
 ずつお選びください。

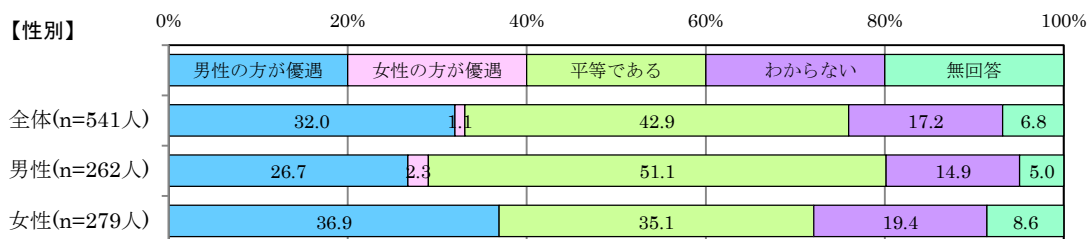
- ・全分野において、「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割(41.6%)で、最も多くなっている。次いで、「賃金」が約3割(32.0%)、「仕事の内容」(22.2%)、「研修の機会や内容」(21.3%)の順が続いている。
- ・一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、「仕事の内容」について約1割(11.8%)の回答がある。それ以外の分野では、いずれも2%以下となっている。



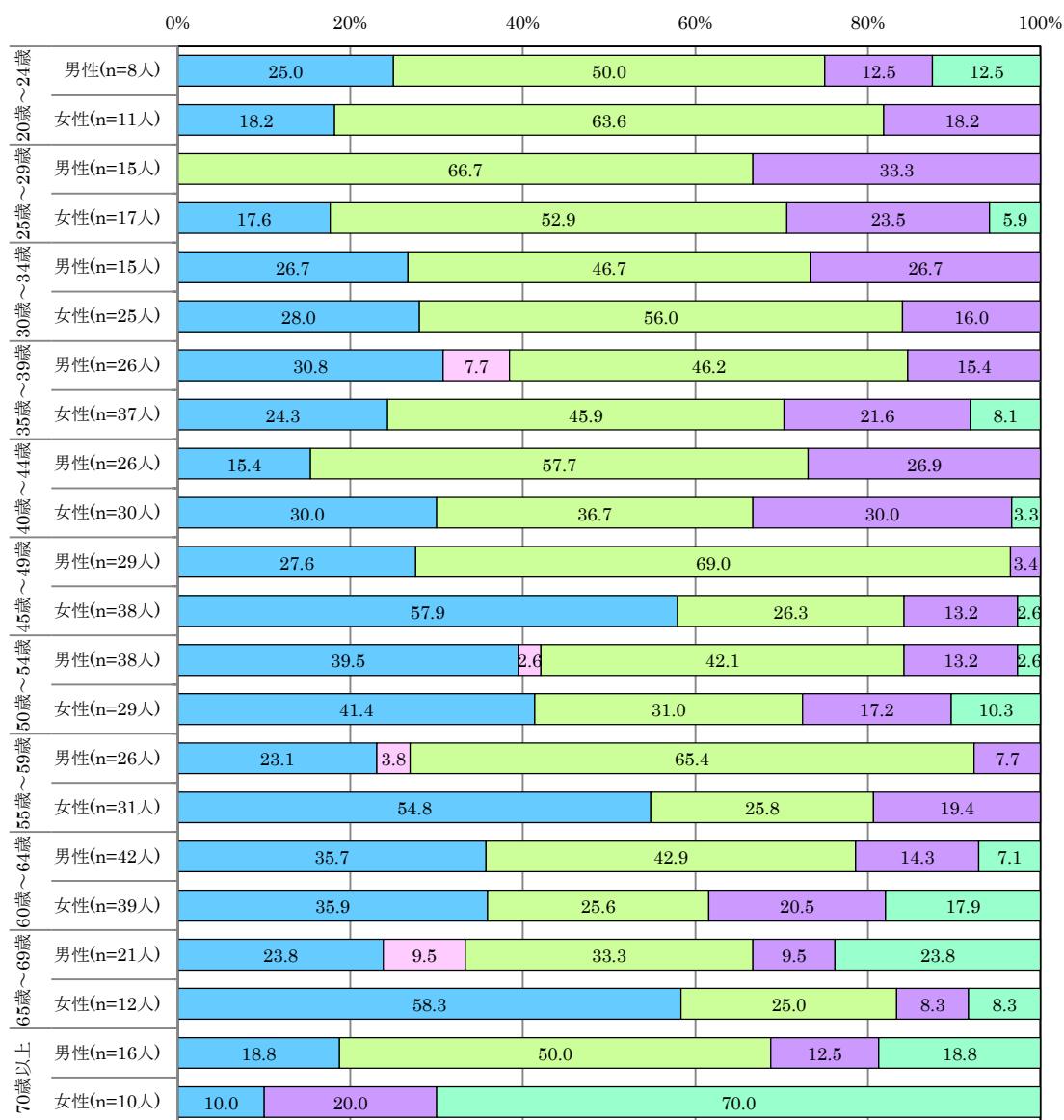
(全体 n=541人)

## 1. 賃金

- ・性別でみると、男性では、「平等である」という回答が最も多く、約5割（51.1%）で、女性では、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、約4割（36.9%）となっている。
- ・世代別性別でみると、「平等である」という回答は、25歳～39歳、45歳～49歳、70歳以上の男性で4割を超えており、それ以外の年代に比べて高い回答割合となっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答は、45歳～54歳の男性と、45歳～49歳、55歳～59歳、65歳～69歳の女性で5割以上と、ほかの年代に比べて高くなっている。

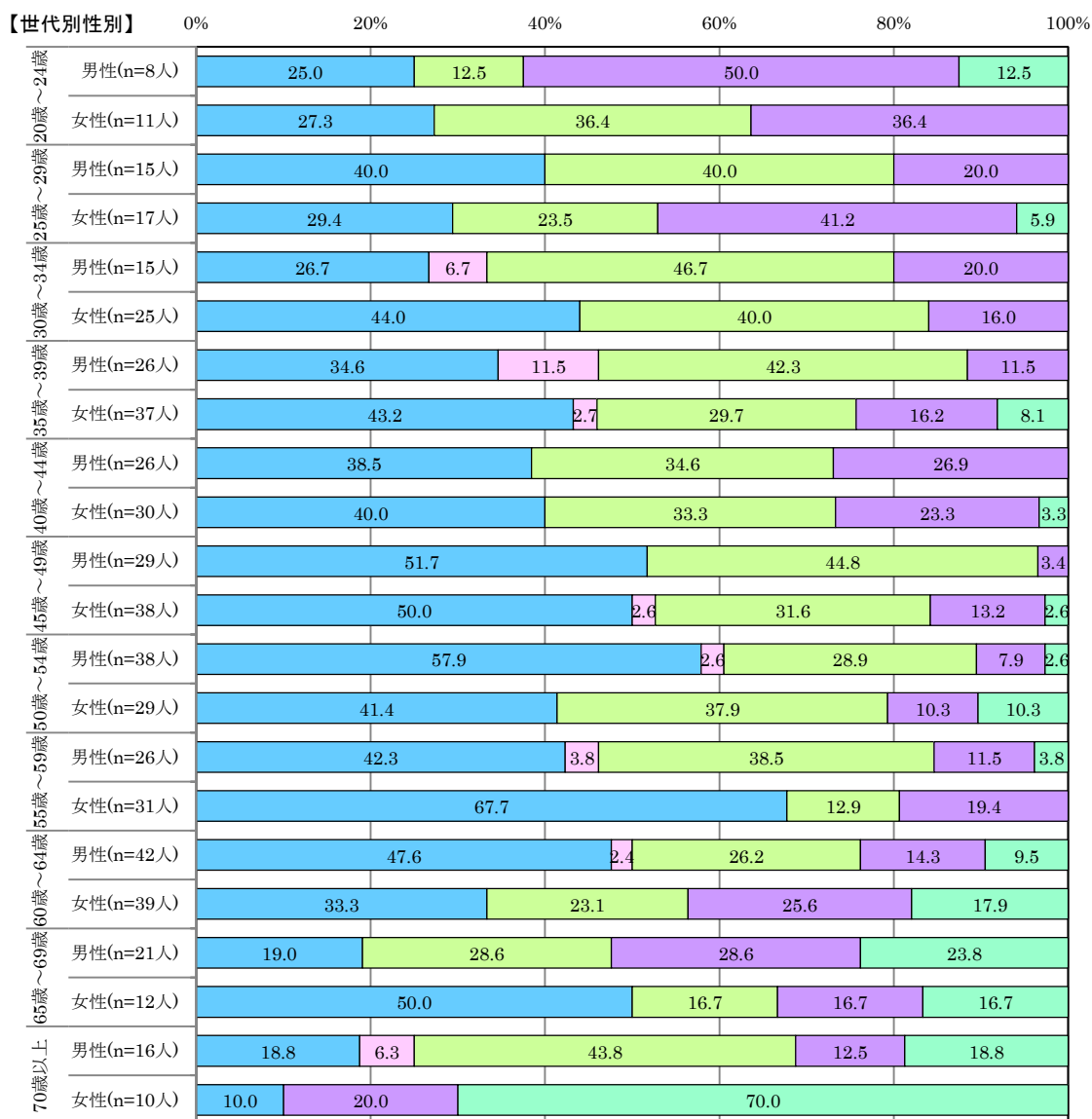
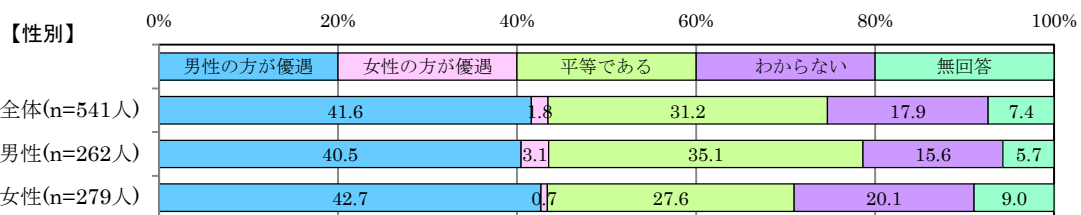


【世代別性別】



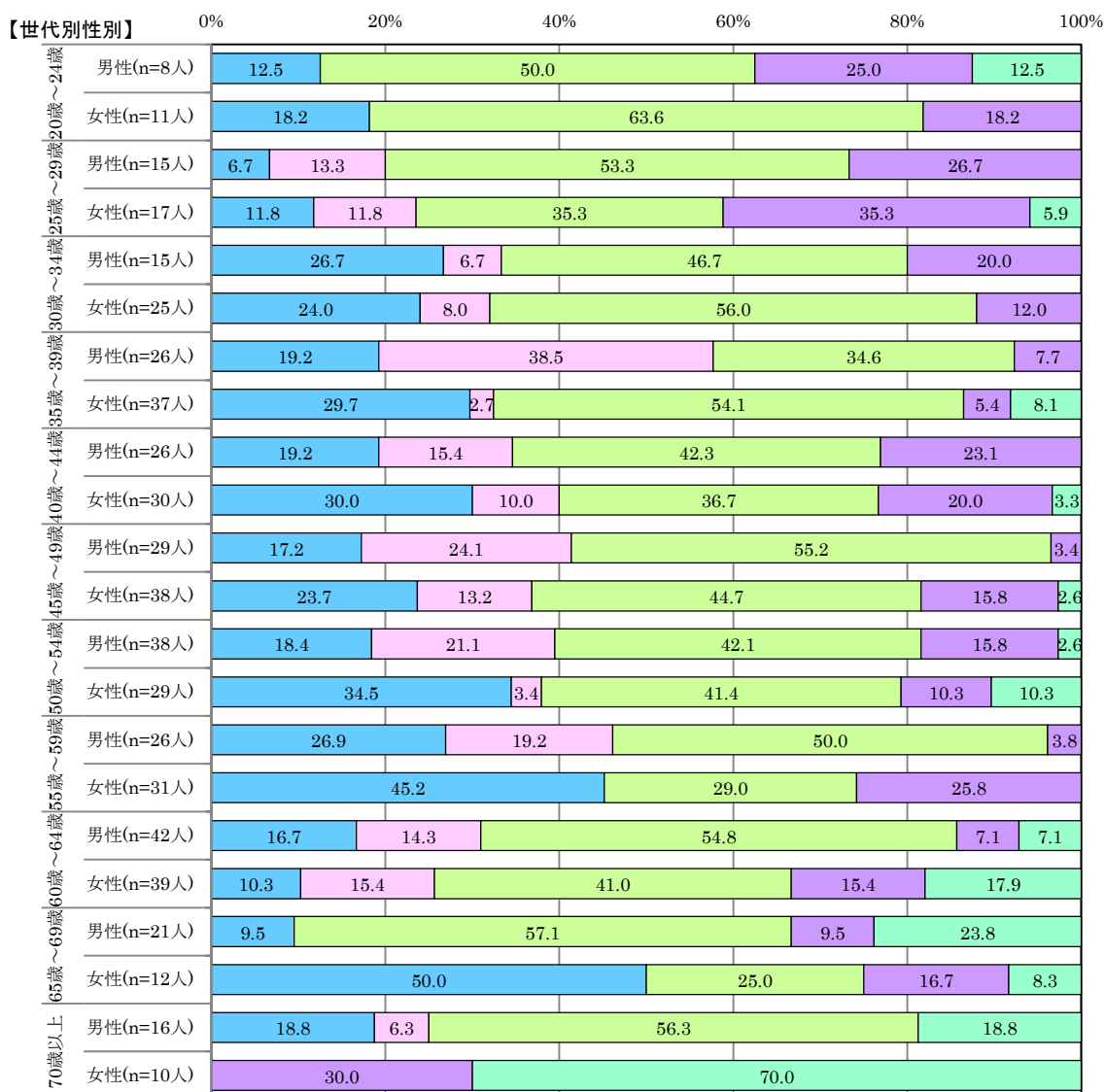
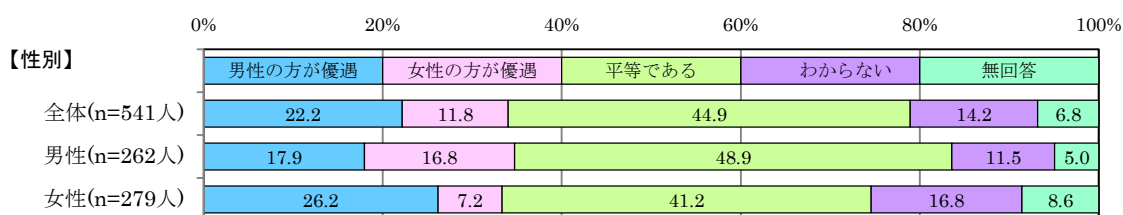
## 2. 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、どちらも約4割の回答割合となっている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、男性の方が女性より2%多い回答となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約4割（35.1%）、女性が約3割（27.6%）となり、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は20歳～24歳、40歳～64歳の年代で「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。女性は20歳～24歳、70歳以上の年代以外の年代で同様の傾向にある。



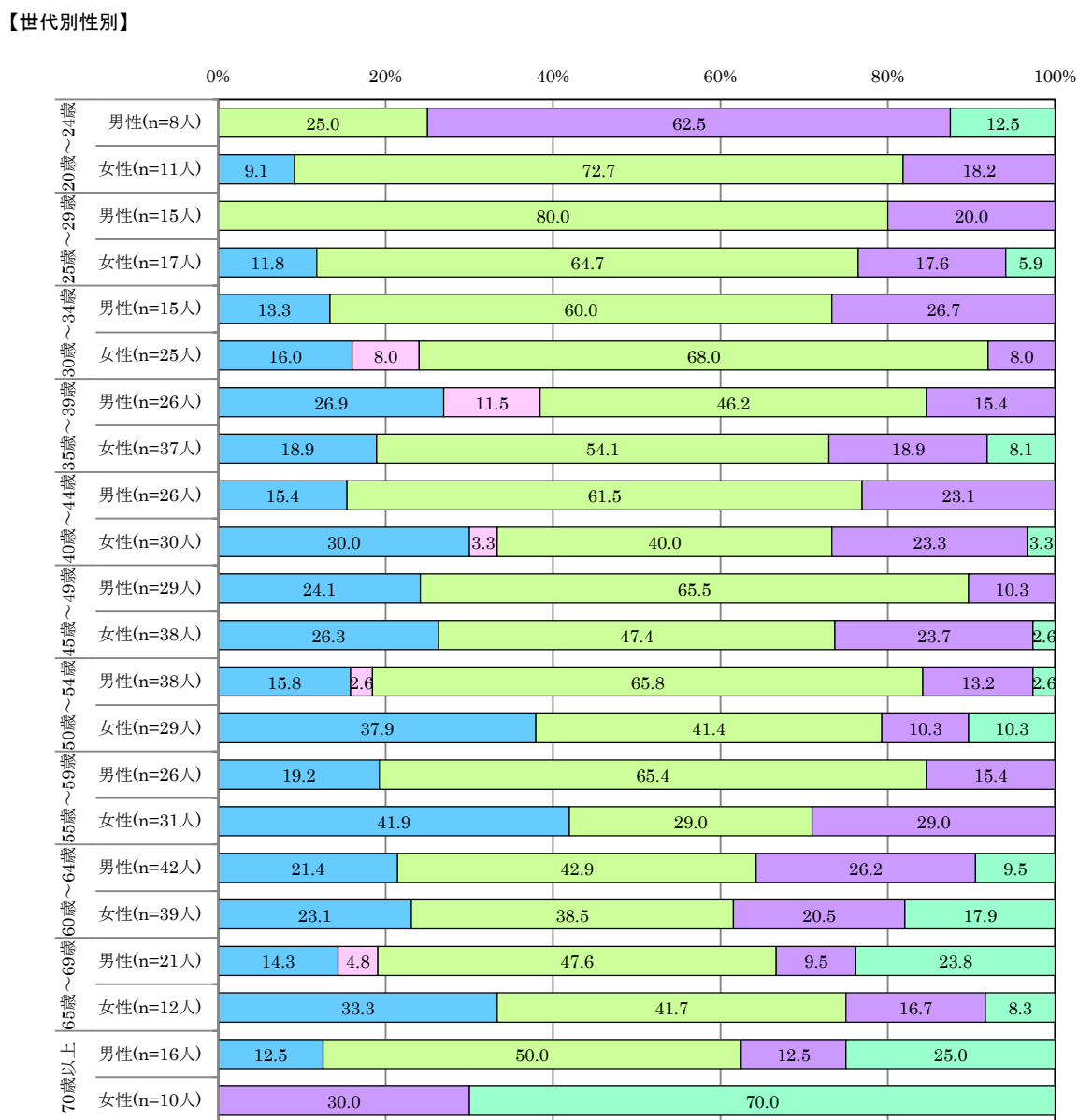
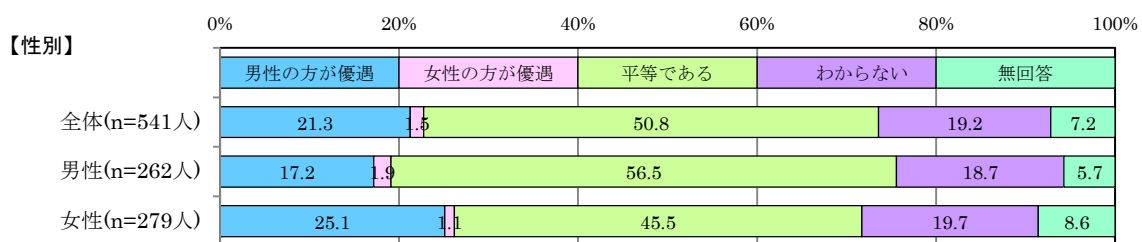
### 3. 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多い回答となっている。回答割合は、男性が48.9%、女性が41.2%となり、男性の回答割合が女性より高くなっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が16.8%、女性が7.2%で、男性の回答割合が高く、男女間に差がみられる。
- ・世代別性別では、55歳～59歳、65歳～69歳の女性においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。
- ・一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、35歳～39歳の男性で「平等である」、「男性の方が優遇されている」を上回っている。他に、25歳～29歳の男女、45歳～54歳の男性、60歳～64歳の女性では、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を上回っている。



#### 4. 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が約6割（56.5%）、女性が約5割（45.5%）で、男性の回答割合が女性よりも高くなっている。
- ・世代別性別でみると、55歳～59歳の女性以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・34歳以下の男女で、「男性の方が優遇されている」という回答が低くなっている傾向がみられる。







---

---

## 仕事と生活の調和に関する問題

---

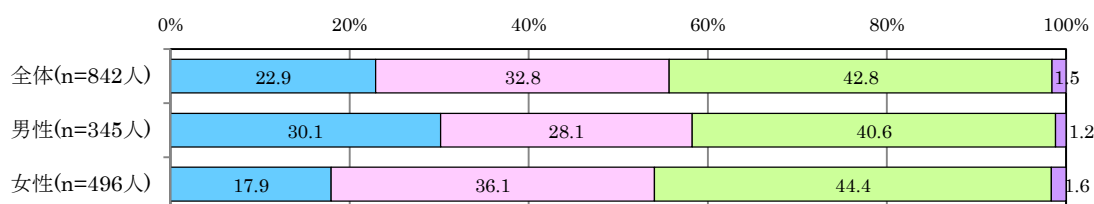
---



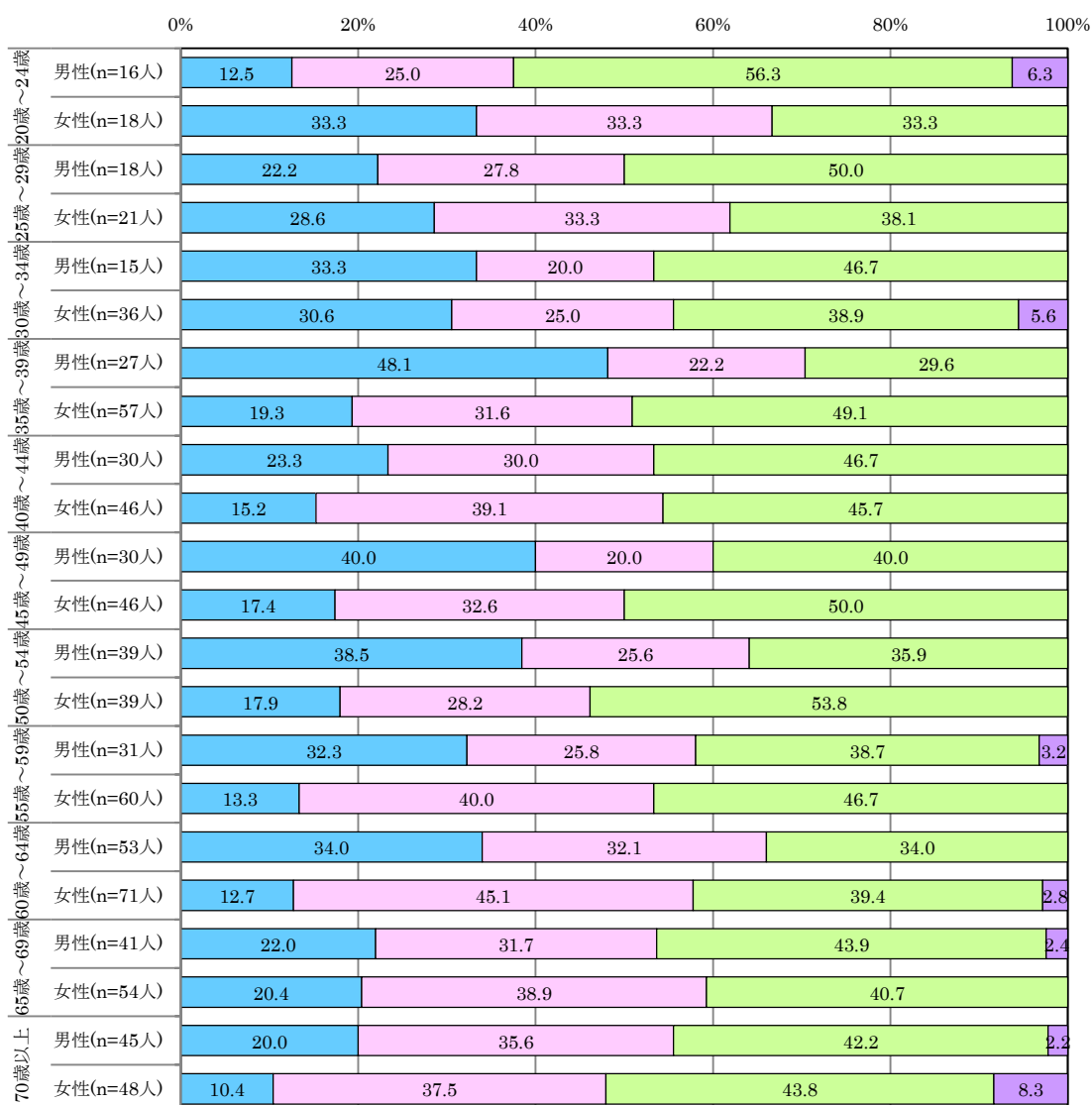
問8 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、どちらも4割を超えている
- ・「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が30.1%、女性が17.9%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、20代以外は、男性の方が女性より「言葉も内容も知っている」という回答割合が高くなっている。

【性別】 ■言葉も内容も知っている □言葉は聞いたことがあるが内容は知らない ■知らない ■無回答



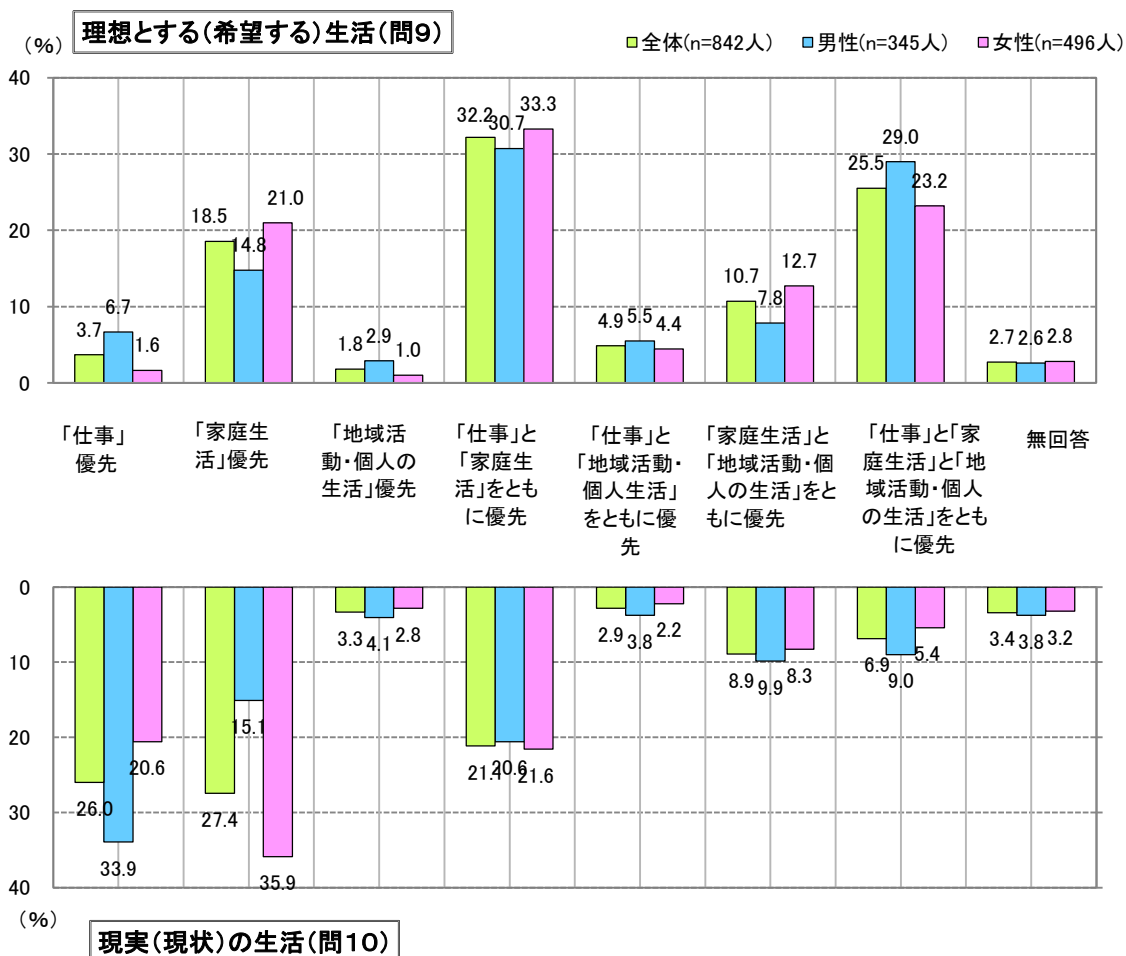
【世代別性別】



問 9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問 10 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体で見ると、問9の理想とする生活については「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多く、約3割（32.2%）となっている。次に、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（25.5%）、「『家庭生活』優先」（15.4%）の順に続いている。
- ・一方、問10の現実の生活では、「『家庭生活』優先」という回答が最も多く、約3割（27.4%）となっている。次いで、「『仕事』優先」（26.0%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（21.1%）の順となる。
- ・理想の生活では6番目であった「『仕事』優先」が、現実の生活では2番目に多い回答となっている。また、理想の生活で2番目に多かった「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、現実の生活では、5番目となっている。
- ・性別で見ると、理想の生活においては男女の回答に大きな差は見られず、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。しかし、現実の生活においては、男性は「『仕事』優先」、女性は「『家庭生活』優先」が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。

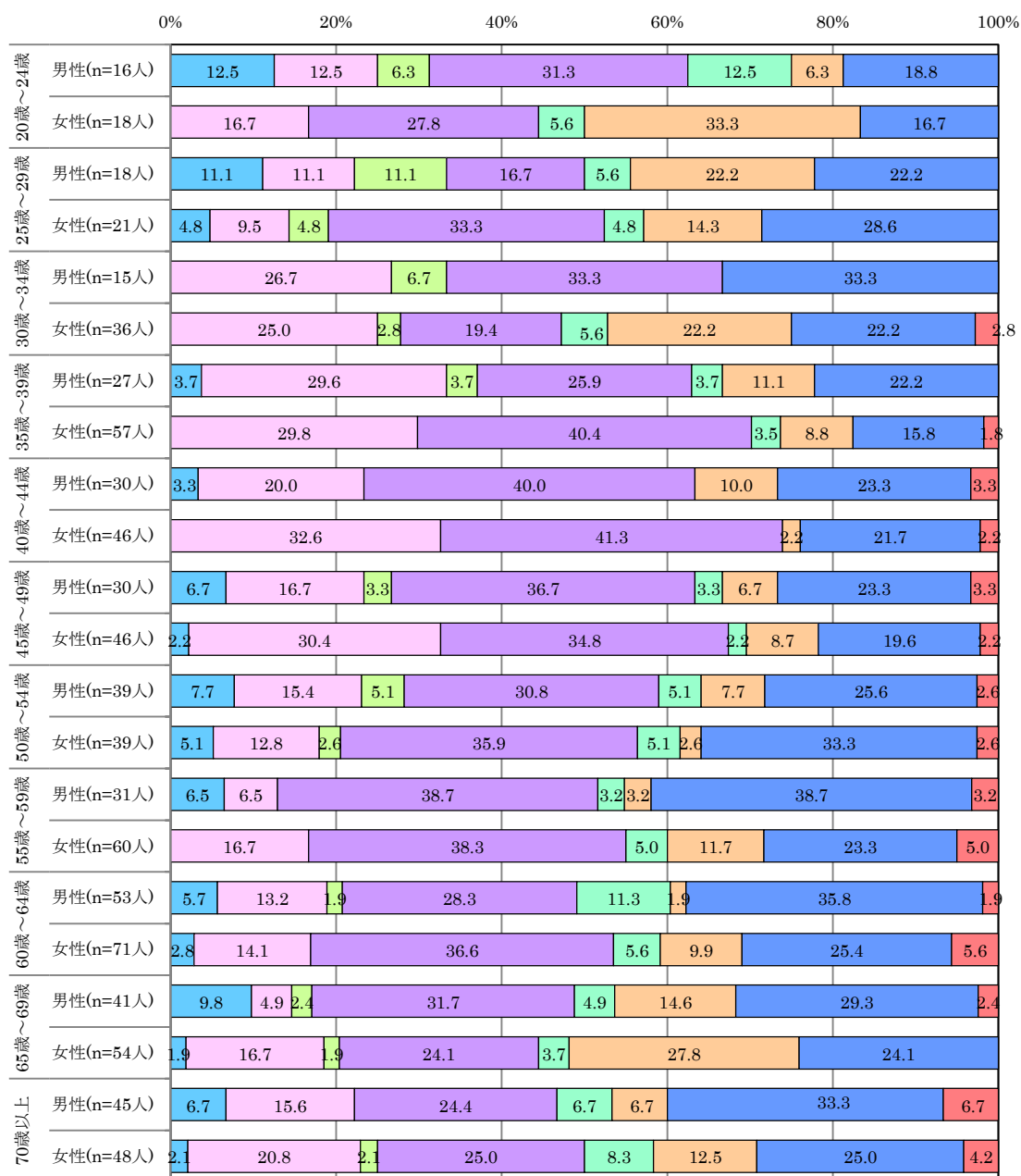


## 問9 理想とする（希望する）生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、40歳～59歳の年代では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が多くなっている。
- ・「『家庭生活』優先」という回答は、30歳～49歳までの年代でやや高い傾向がみられる。

### 【世代別性別】

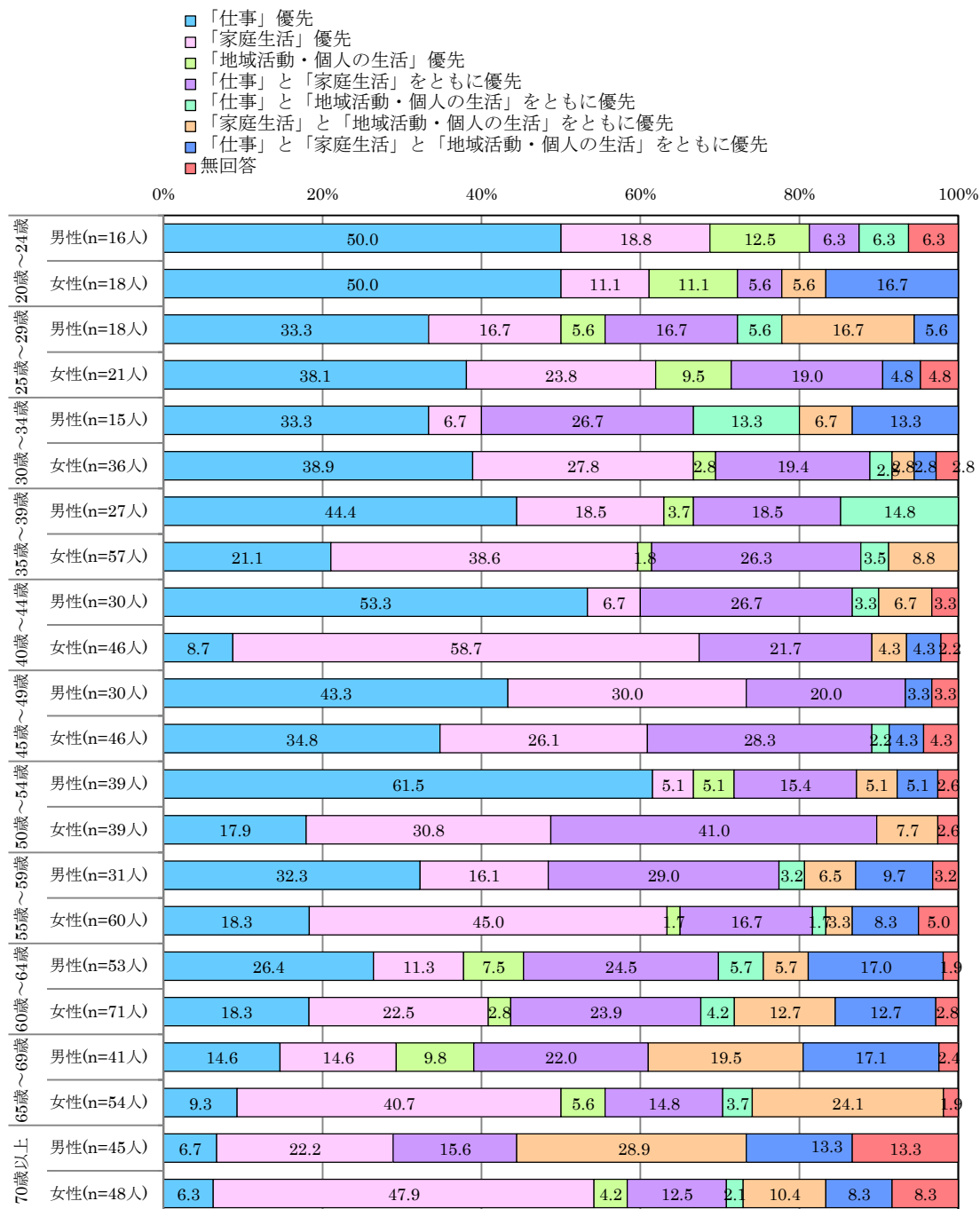
- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答



## 問10 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、男性は、20歳～64歳までの年代では、いずれも「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性も、20歳～34歳、45歳～49歳の年代では「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、65歳以上で増加している。

### 【世代別性別】

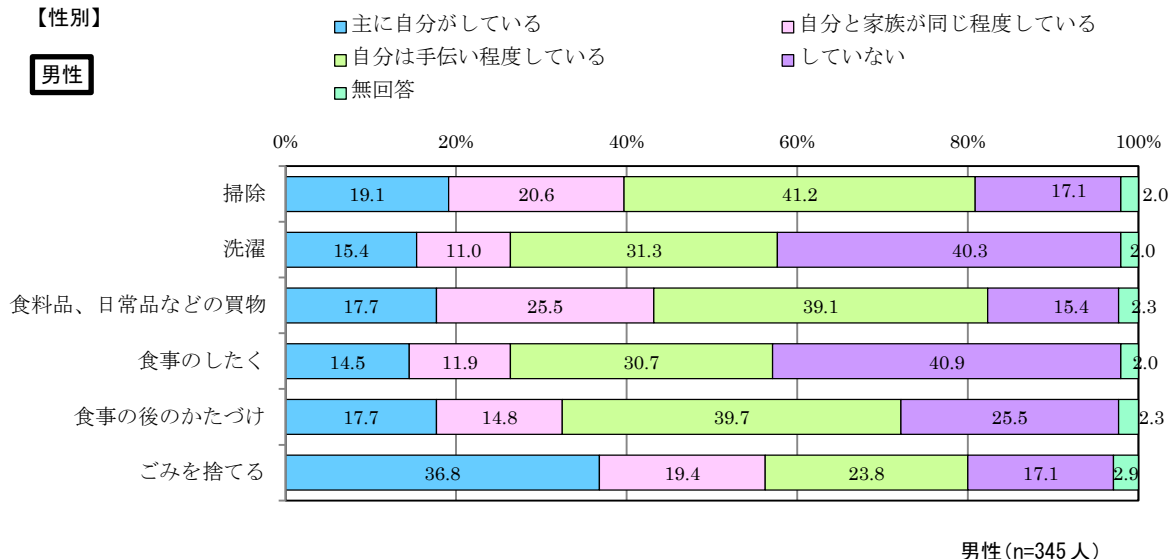


問 1 1 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

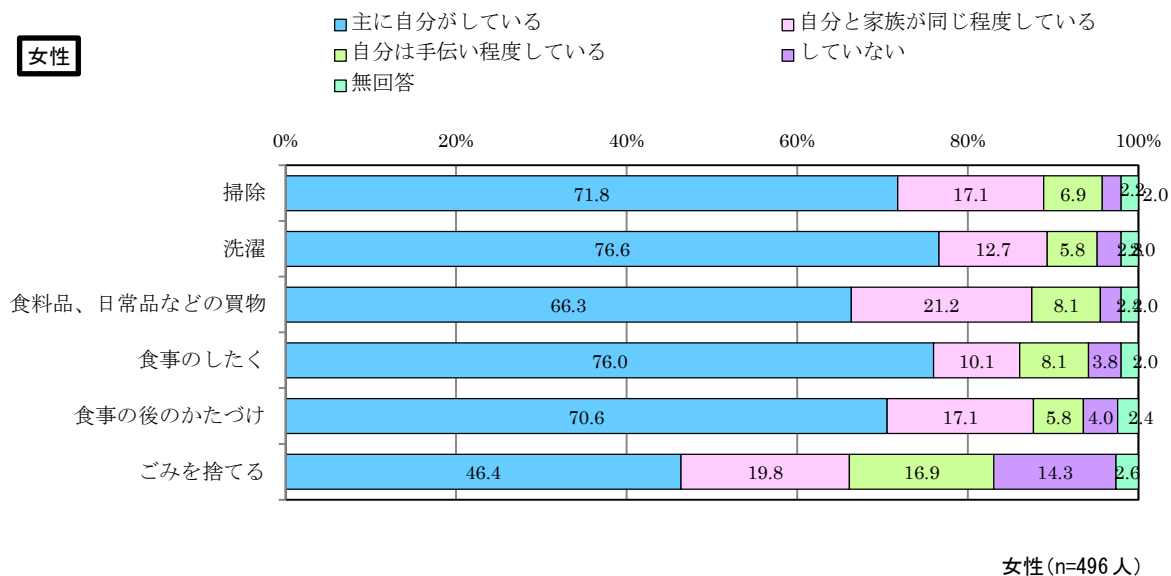
- ・全分野では、「主に自分がしている」という回答は、「洗濯」が最も多く、約5割（51.5%）となっている。次いで、「食事のしたく」（50.8%）、「掃除」（50.2%）と続いているが、「ごみを捨てる」以外はいずれも回答割合は約5割となっている。
- ・「主に自分がしている」と「自分と家族が同じ程度している」を合計すると、いずれも回答が6割以上となっている。
- ・一方で、「食事のしたく」や「洗濯」については、「していない」という回答が他の選択肢に比べ多くなっている。

【性別】

**男性**



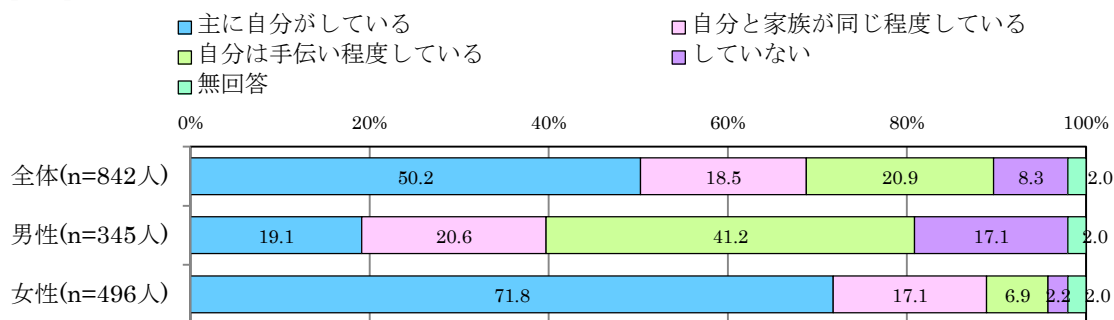
**女性**



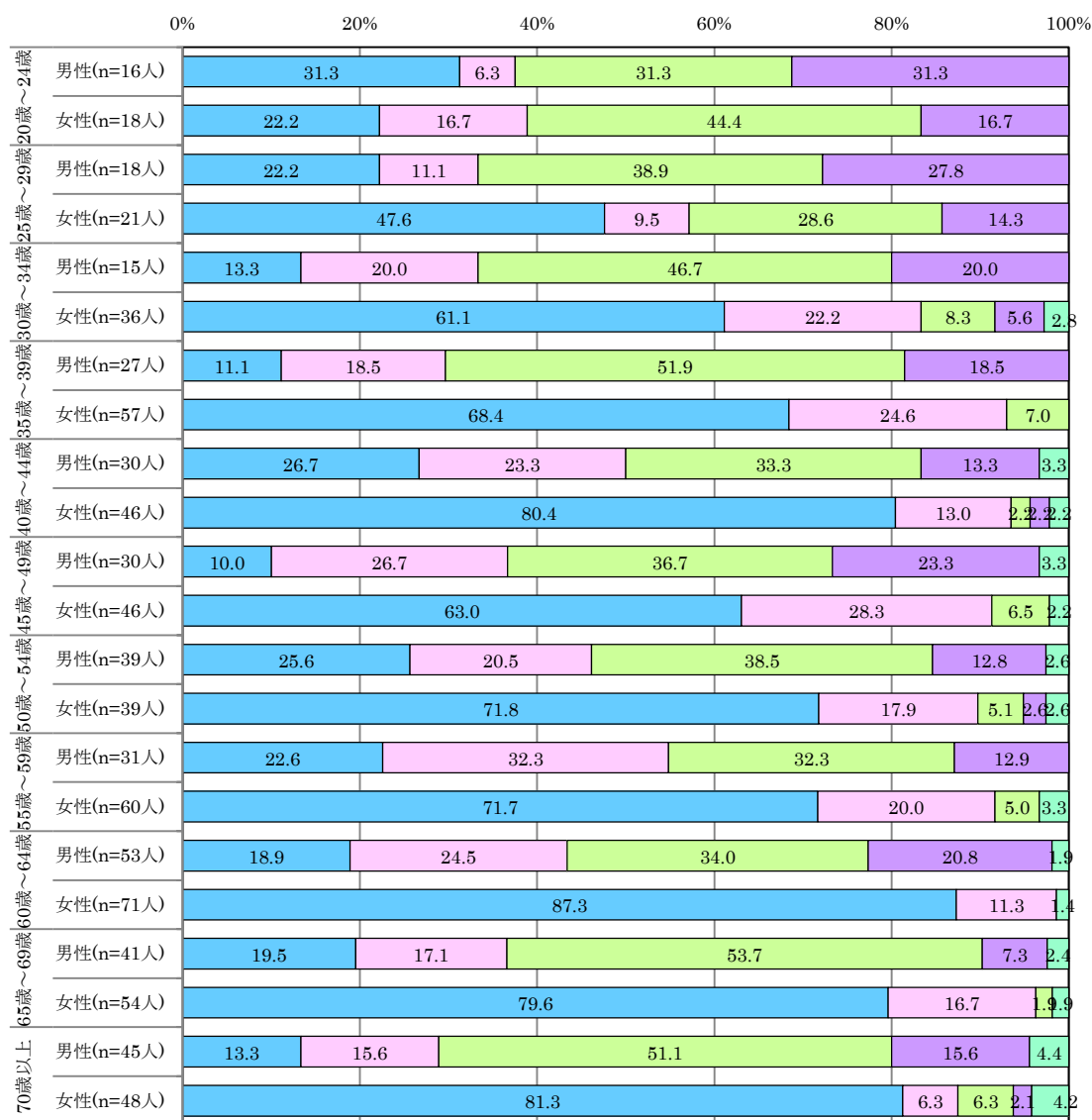
## 1. 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(71.8%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(41.2%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20代以外は、男性は年代が高くなるにつれ、「主に自分がしている」という回答割合が低くなっている。

### 【性別】



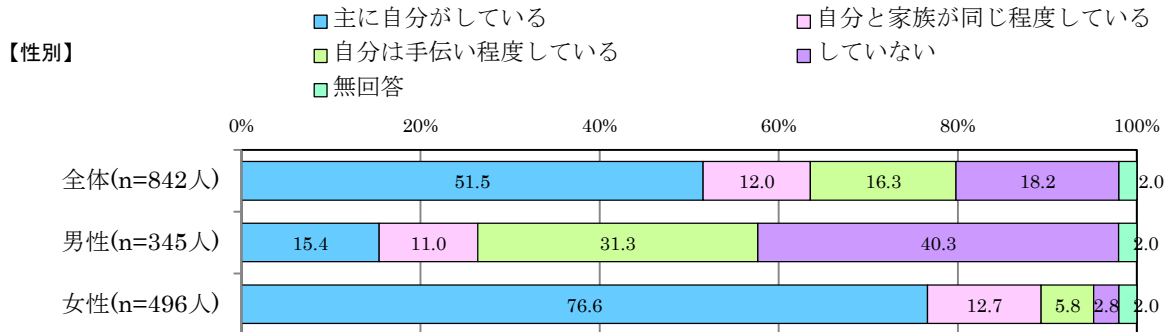
### 【世代別性別】



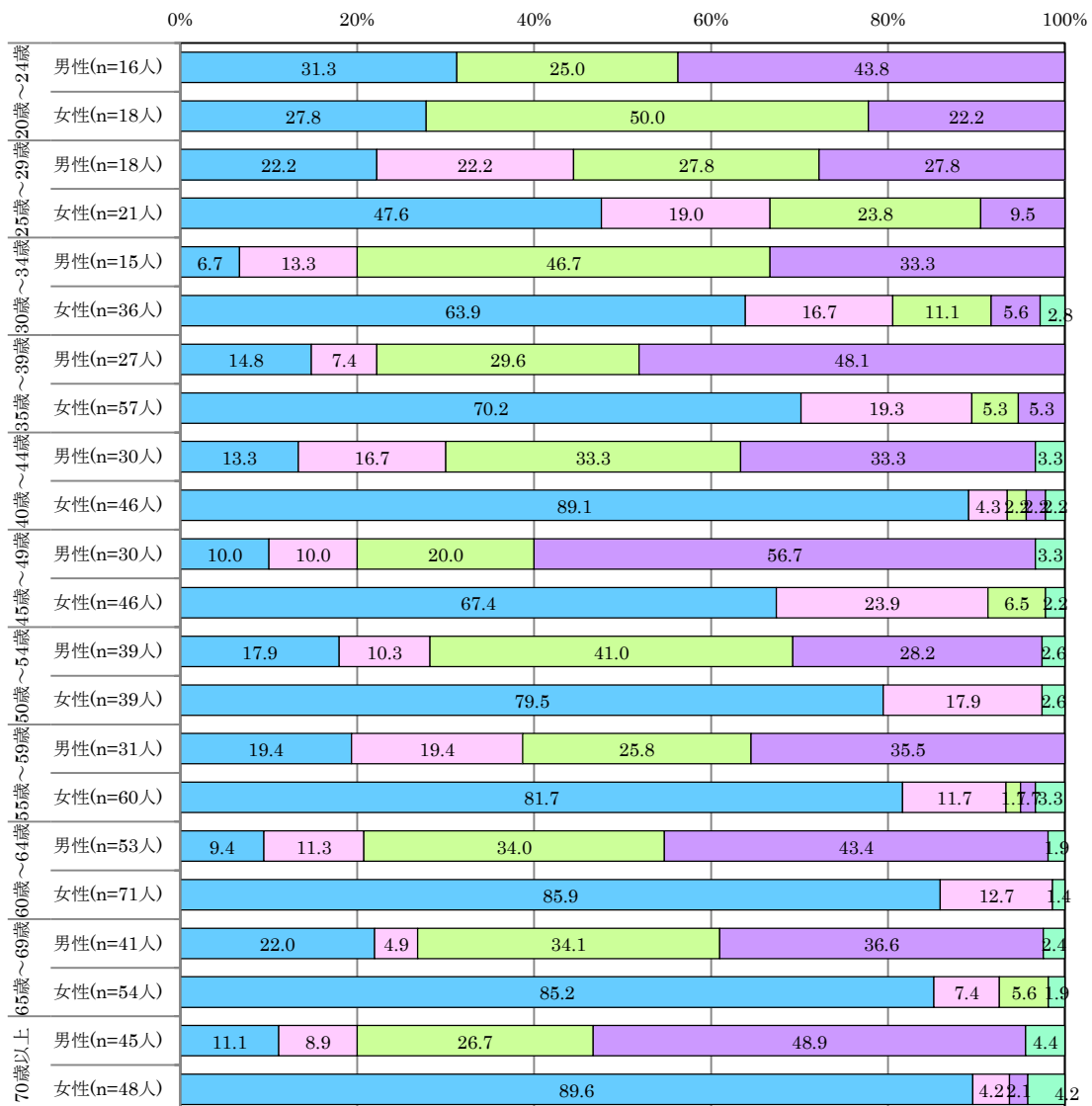


## 2. 洗濯

- ・性別で見ると、女性は「主に自分がしている」(76.6%)という回答が最も多く、男性は「していない」(40.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳、50歳～54歳以外の男性は、3割～5割の方が「していない」という回答割合になっている。

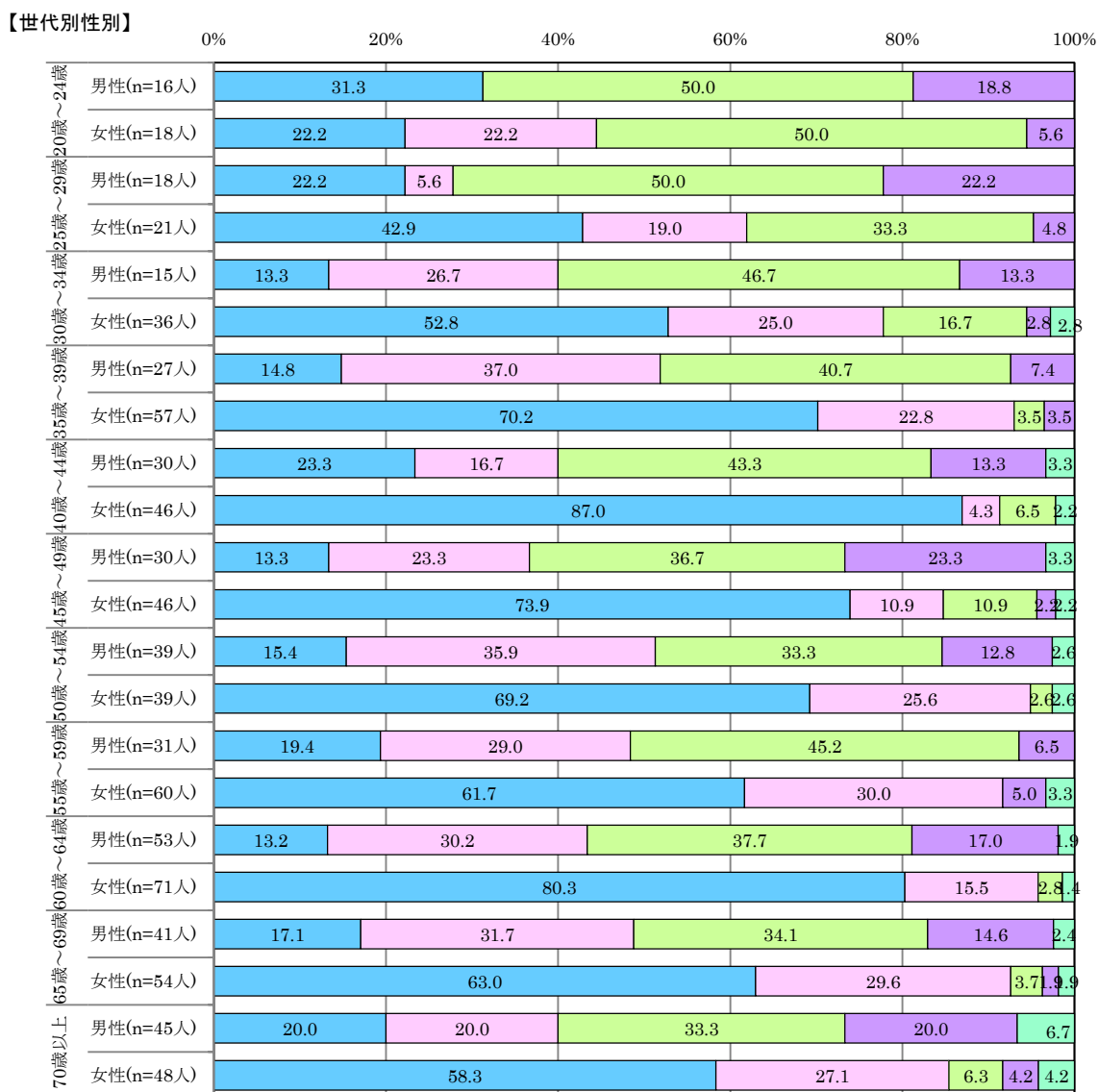
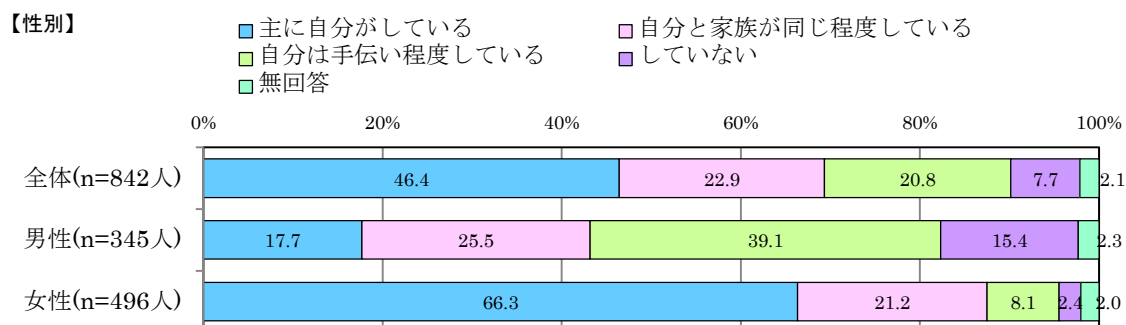


### 【世代別性別】



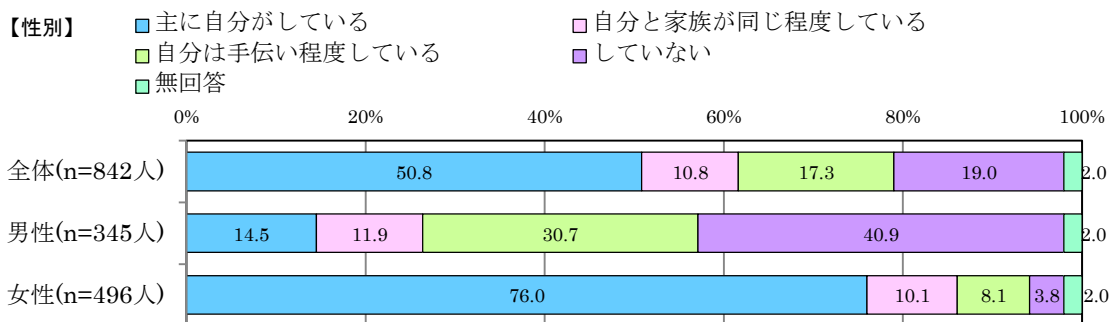
### 3. 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.6%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(39.1%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は50歳～54歳以外の年代で、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方、女性は20代で、「自分は手伝い程度している」という回答が3割を超えている。

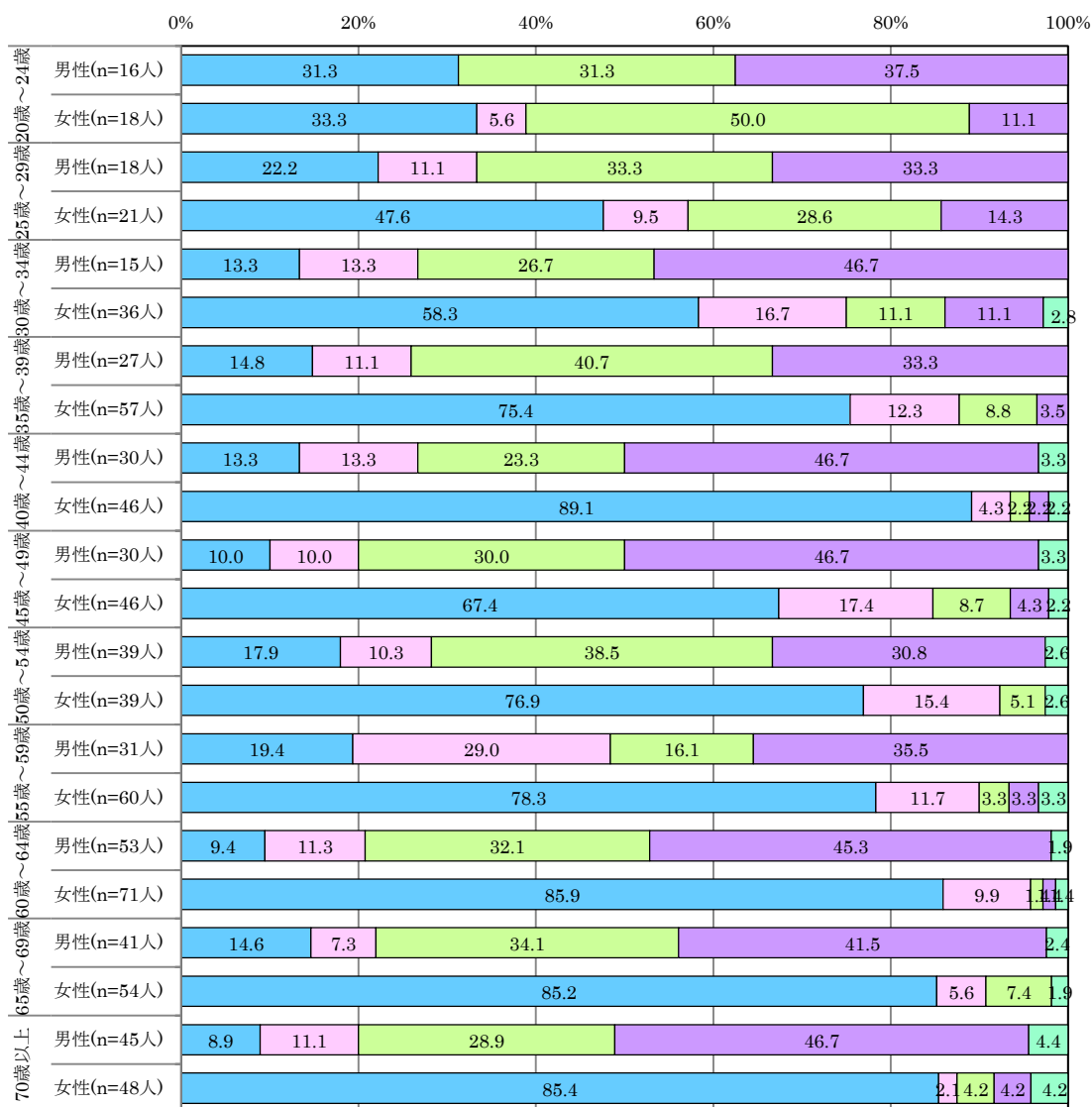


#### 4. 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(76.0%)という回答が最も多く、男性は「していない」(40.9%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、各年代の中では、男性が3割~5割「していない」という回答割合が高くなっている。

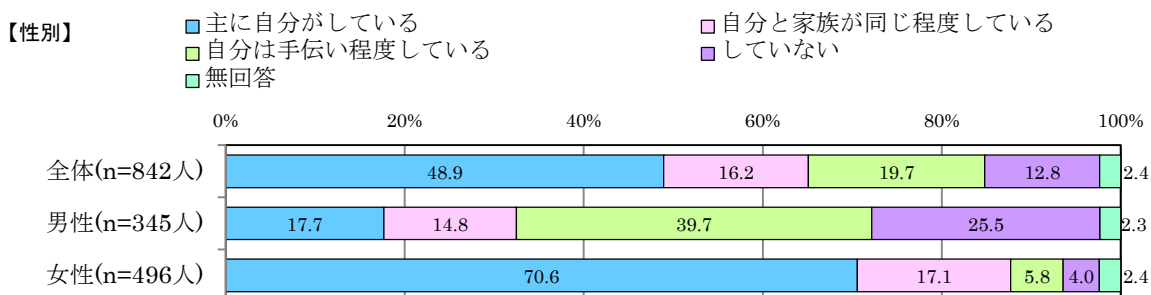


【世代別性別】

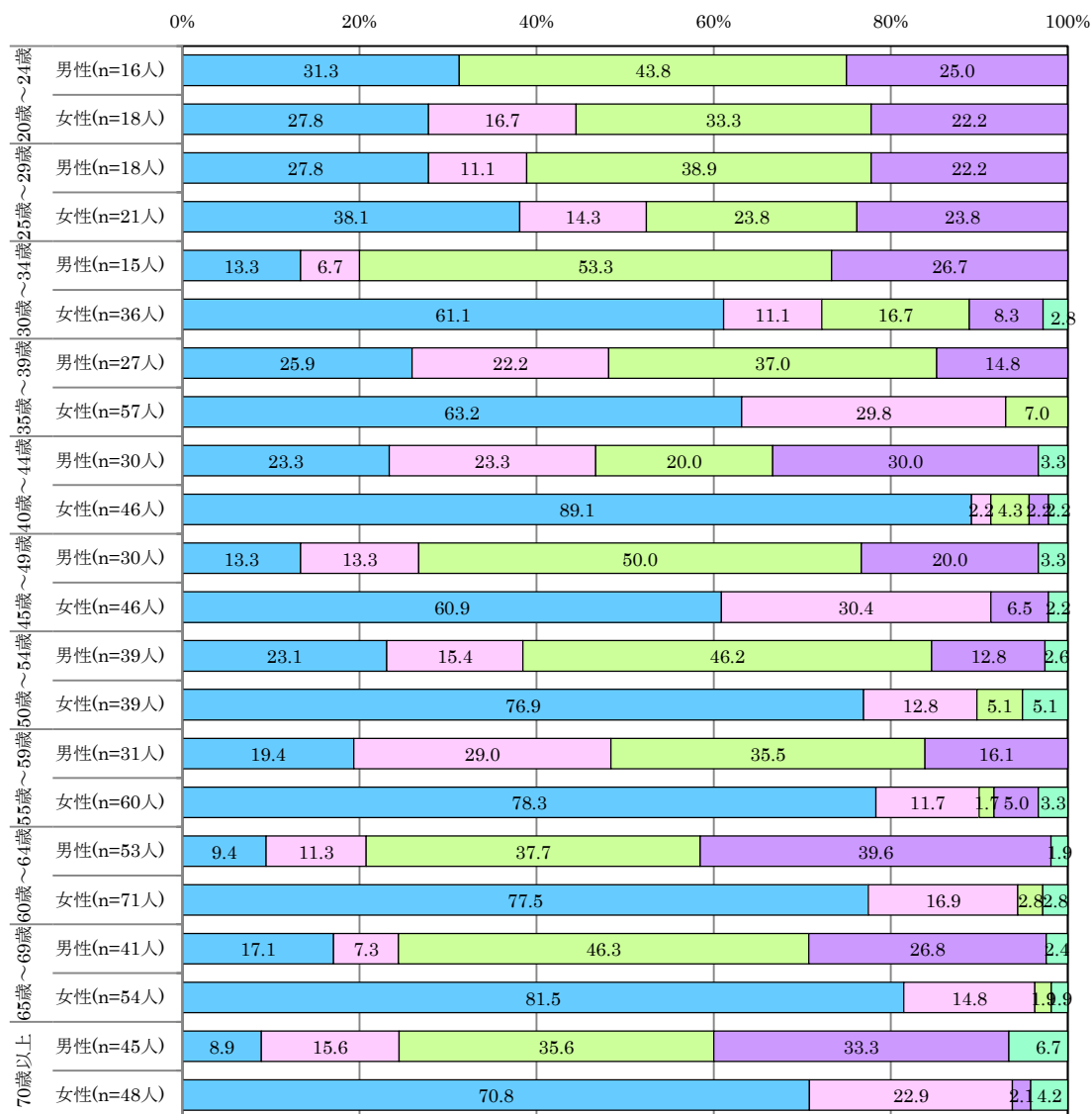


## 5. 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.6%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(39.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、食事の後かたづけについても、男性の中では、20歳～24歳が「主に自分がしている」という回答が最も多く、約3割(31.3%)となっている。



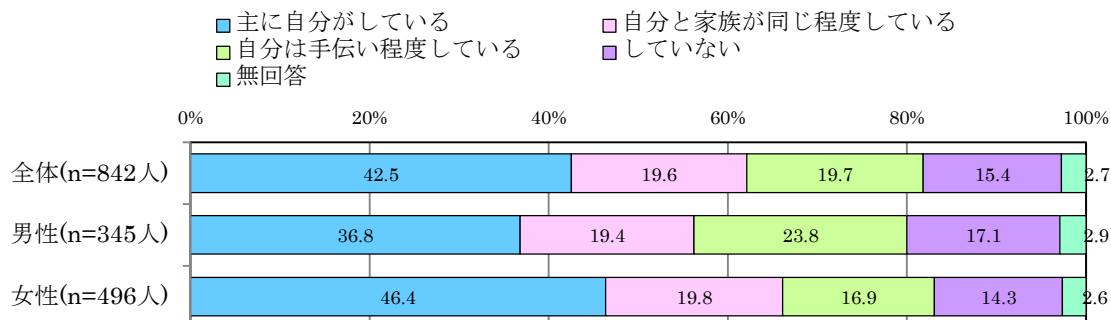
### 【世代別性別】



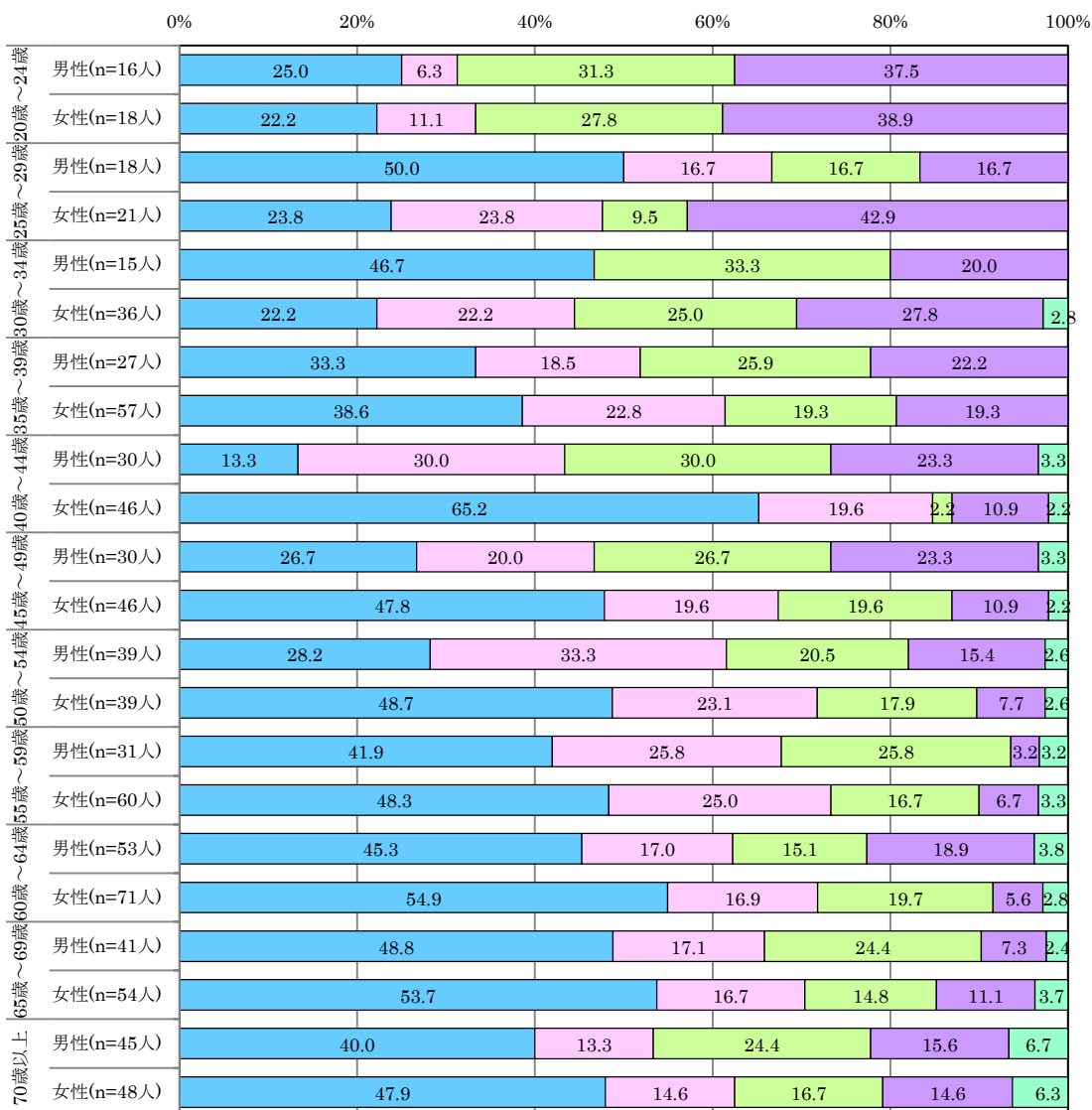
## 6. ごみを捨てる

- ・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は46.4%、男性は36.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性においては、「主に自分がしている」という回答が5割の回答となっている。一方、20歳～24歳の男性、25歳～29歳の女性は「していない」が4割を超えている。

### 【性別】

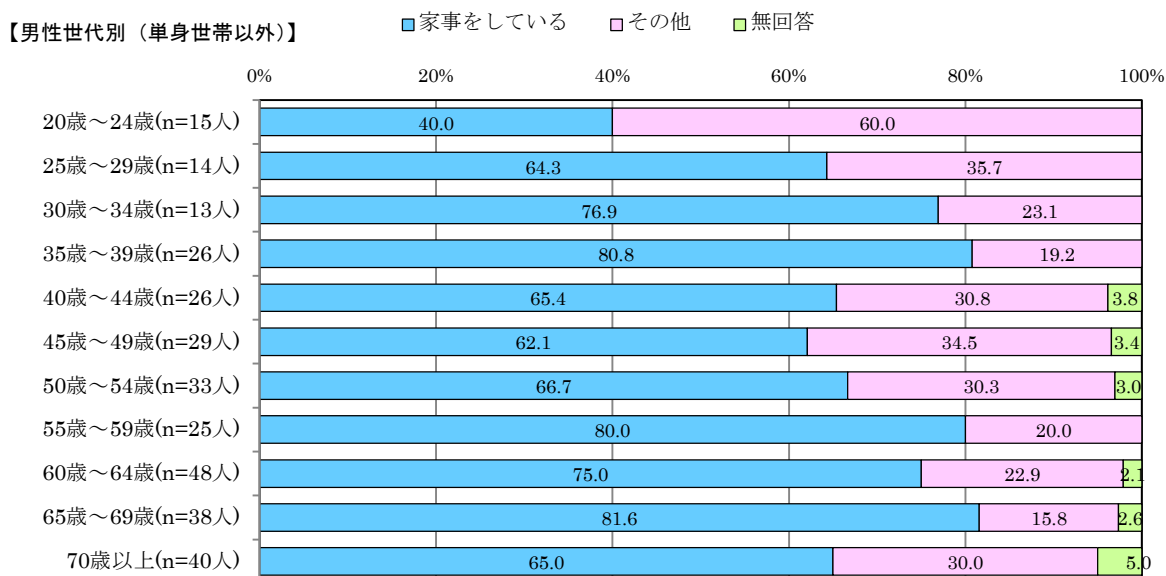
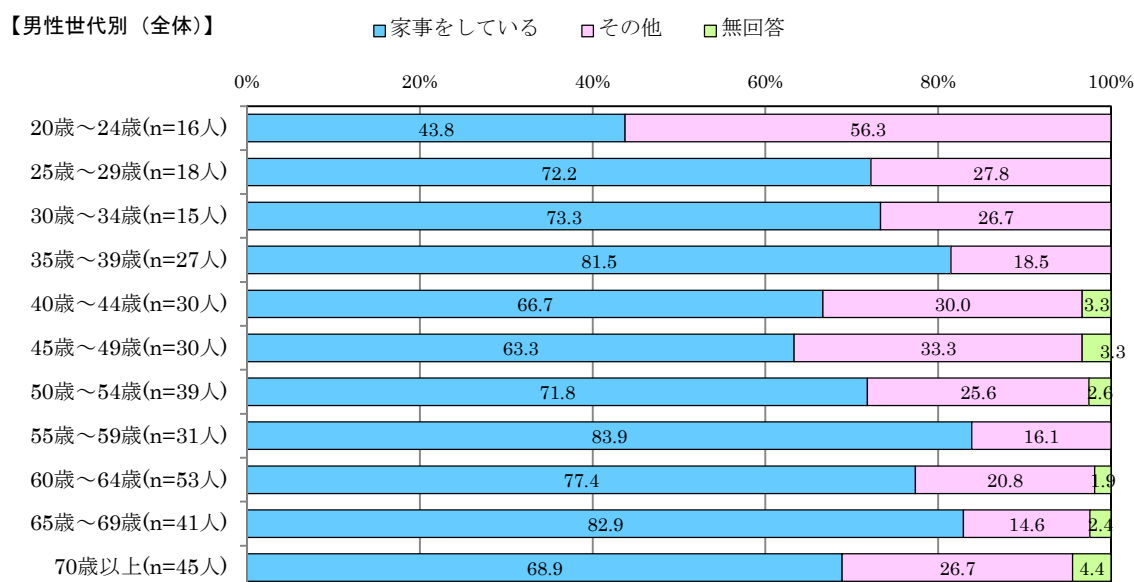
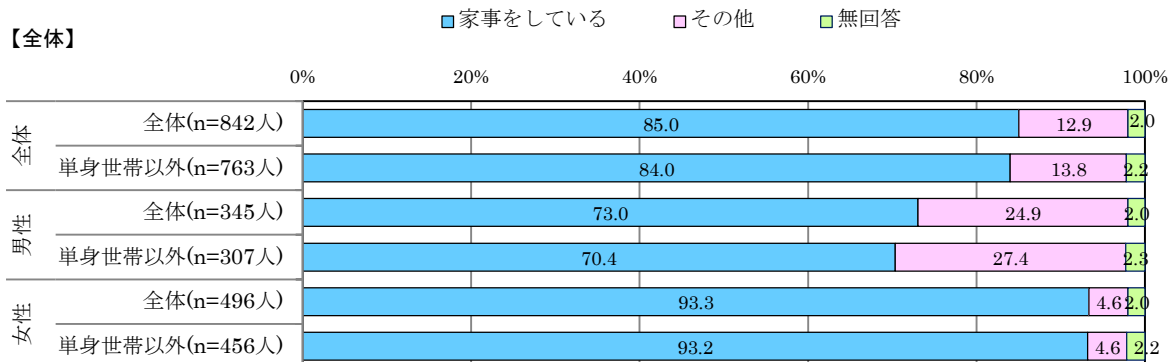


### 【世代別性別】



## <家事への参画度>

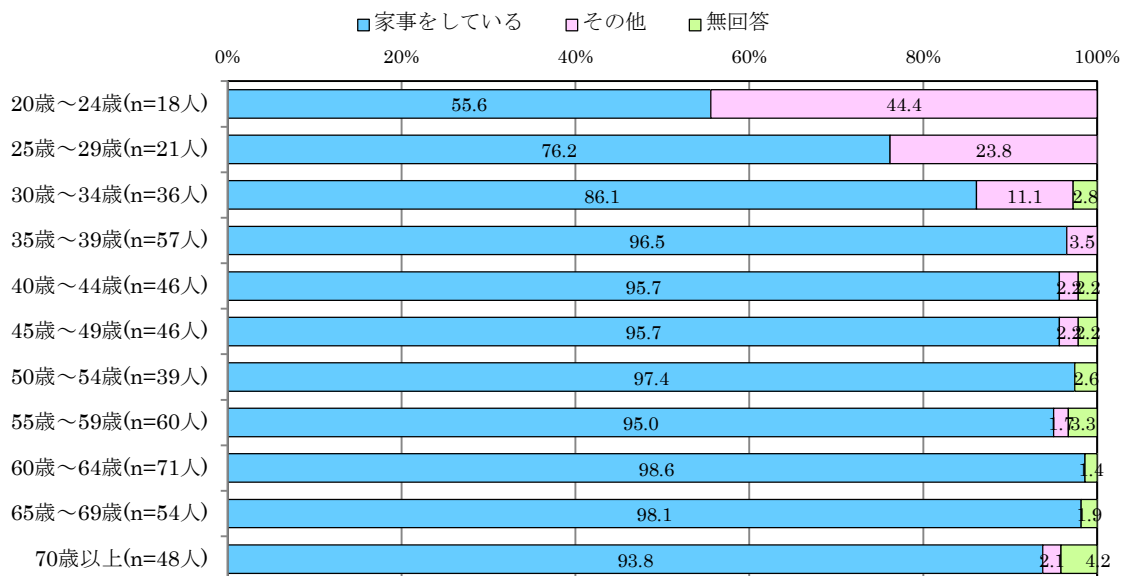
- ・問11の1～6の家事について、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」といづれか1つでも回答した方を「家事をしている」とすると、全体の85.0%がいづれかの「家事をしている」となる。「単身世帯以外」でみても、84.0%がいづれかの「家事をしている」となっている。



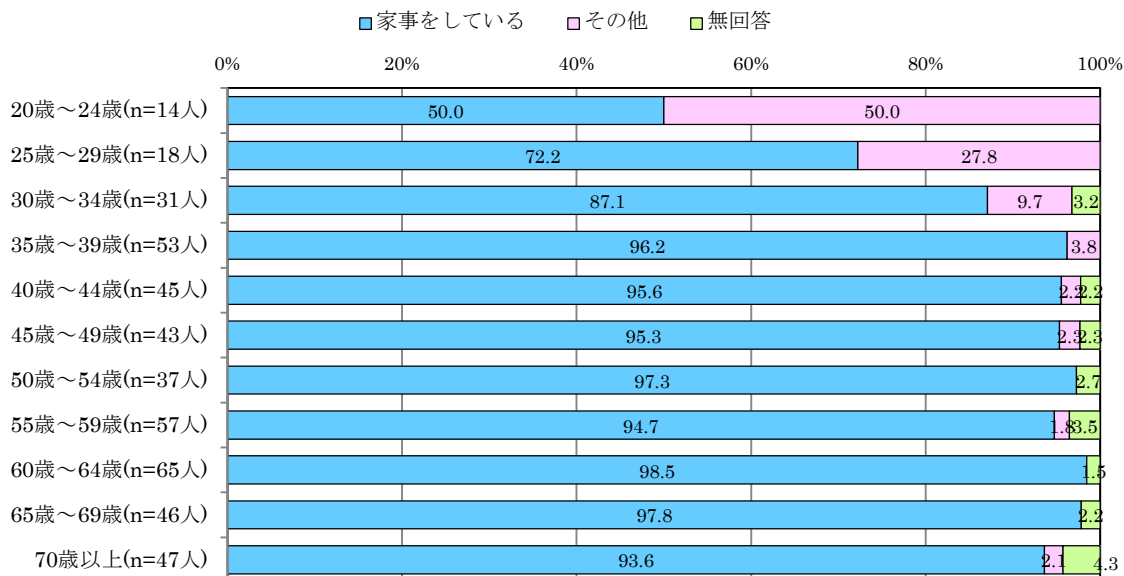
## <家事への参画度>

- ・性別でみると、男性では7割、女性は9割の方が「家事をしている」となっている。単身世帯以外でみると、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が若干低くなっている。

### 【女性世代別（全体）】



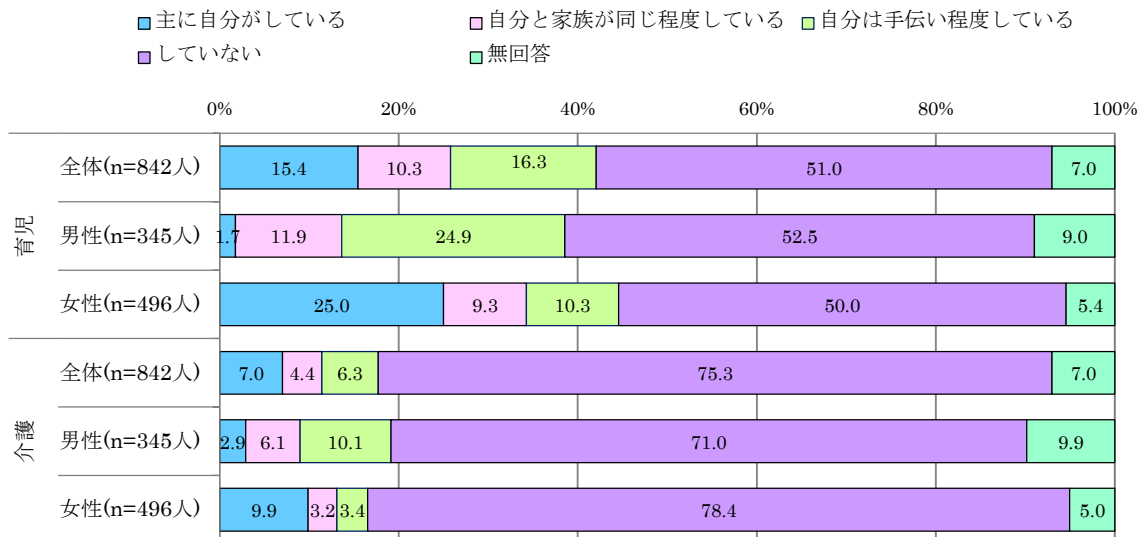
### 【女性世代別（単身世帯以外）】



問12 あなたは次にあげる育児・介護をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児、介護については、どちらも「していない」という回答が最も多い。回答割合は、育児が約5割（51.0%）、介護は約8割（75.3%）となっている。（育児、介護が必要な家族がいない回答者も含まれているため）。

【全分野】

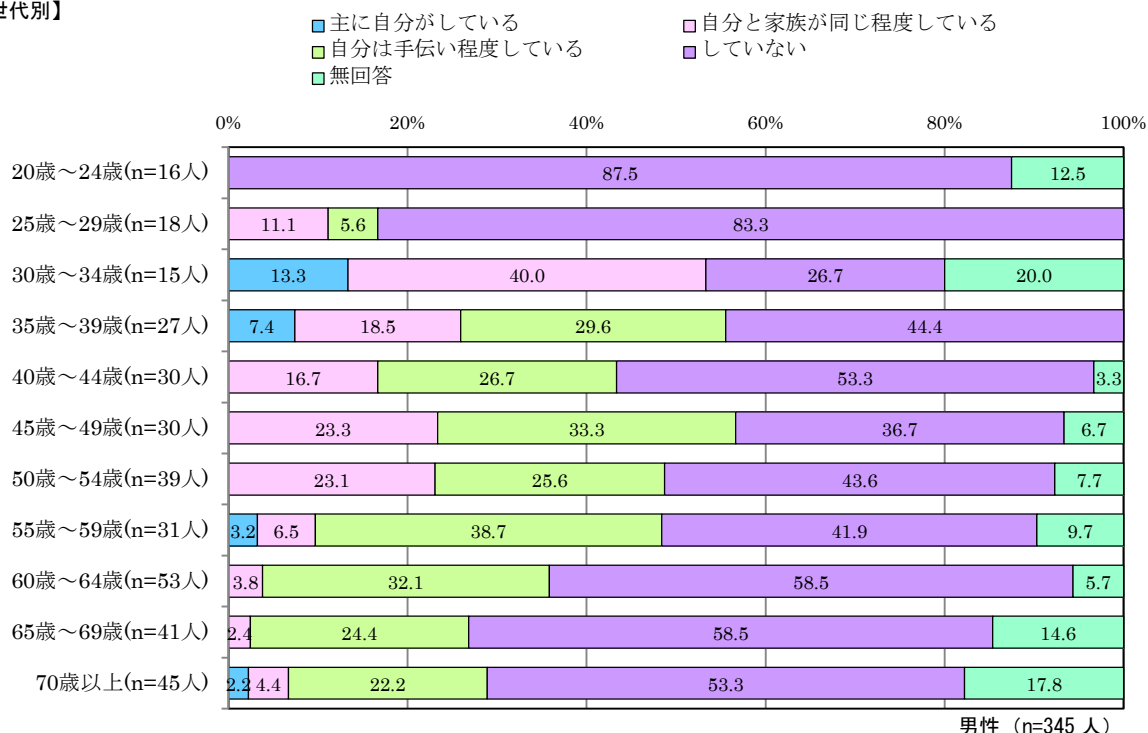




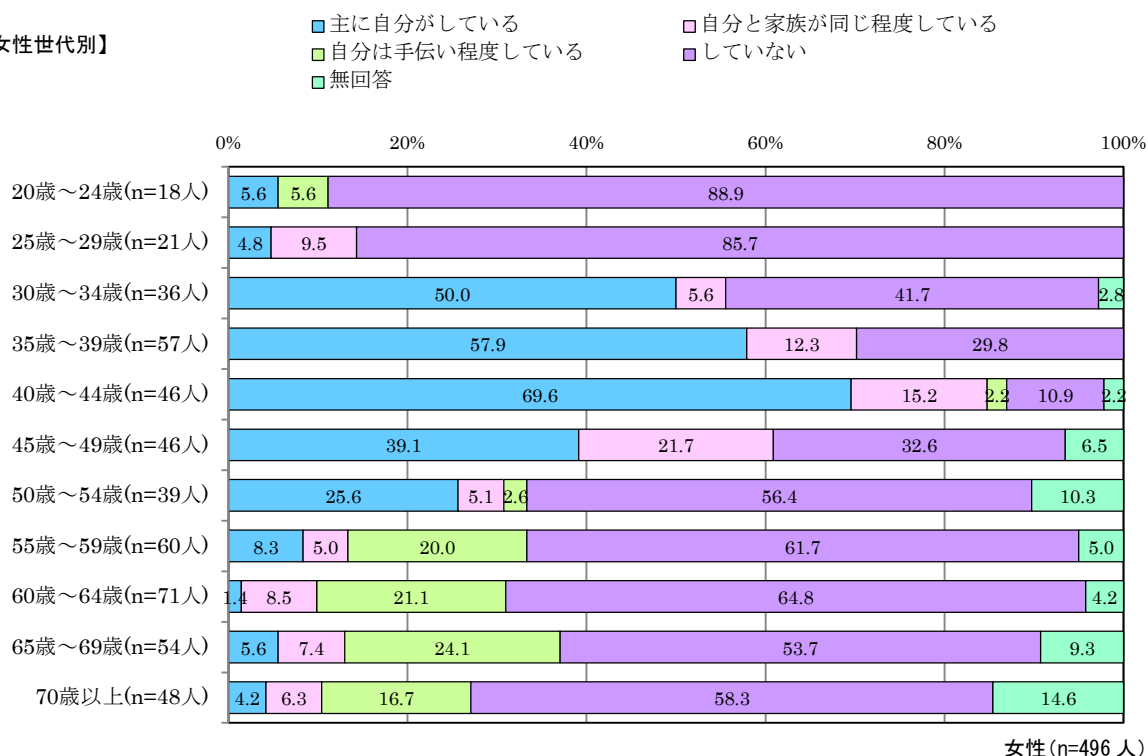
## 1. 育児

- ・男性の世代別でみると、30歳～34歳以外の年代ではいずれも「していない」という回答が最も多くなっている。また育児の機会が少ないであろう20代では「していない」という回答がほとんどとなっている。また、30歳～34歳では、「自分と家族が同じ手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。
- ・「主に自分がしている」という回答はどの年代においてもごく僅かであるが、「自分と家族が同じ程度している」という回答も、年齢が高くなるにつれ減少傾向にあるといえる。

【男性世代別】



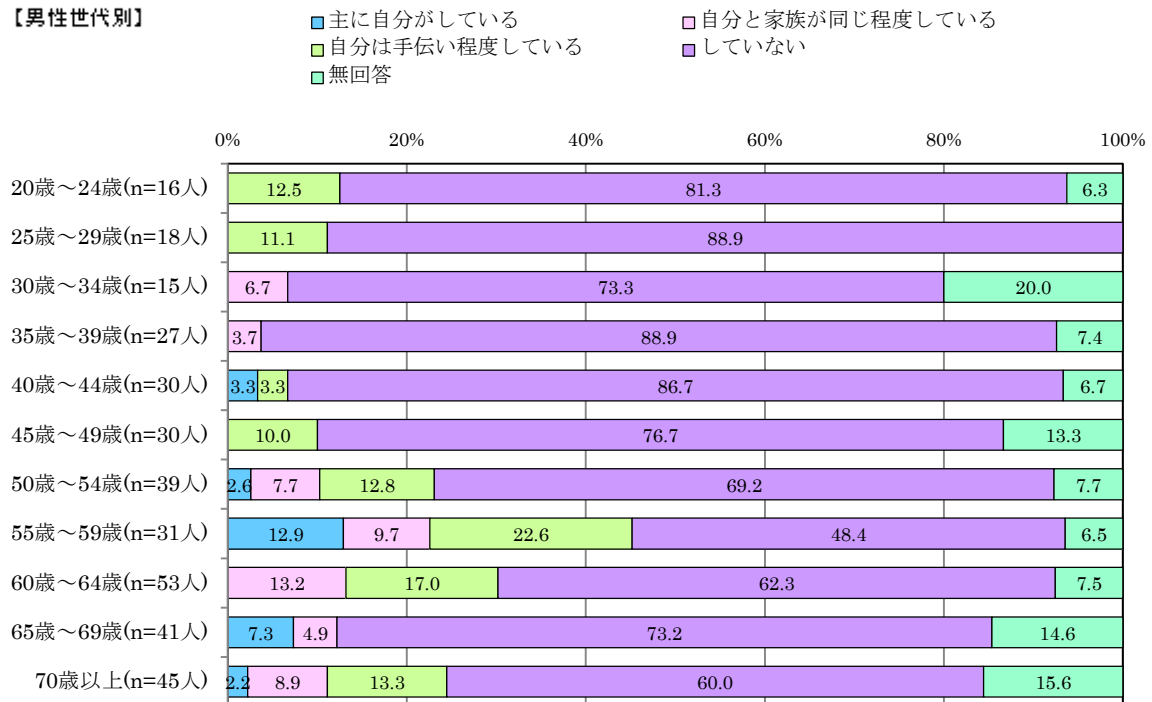
【女性世代別】



## 2. 介護

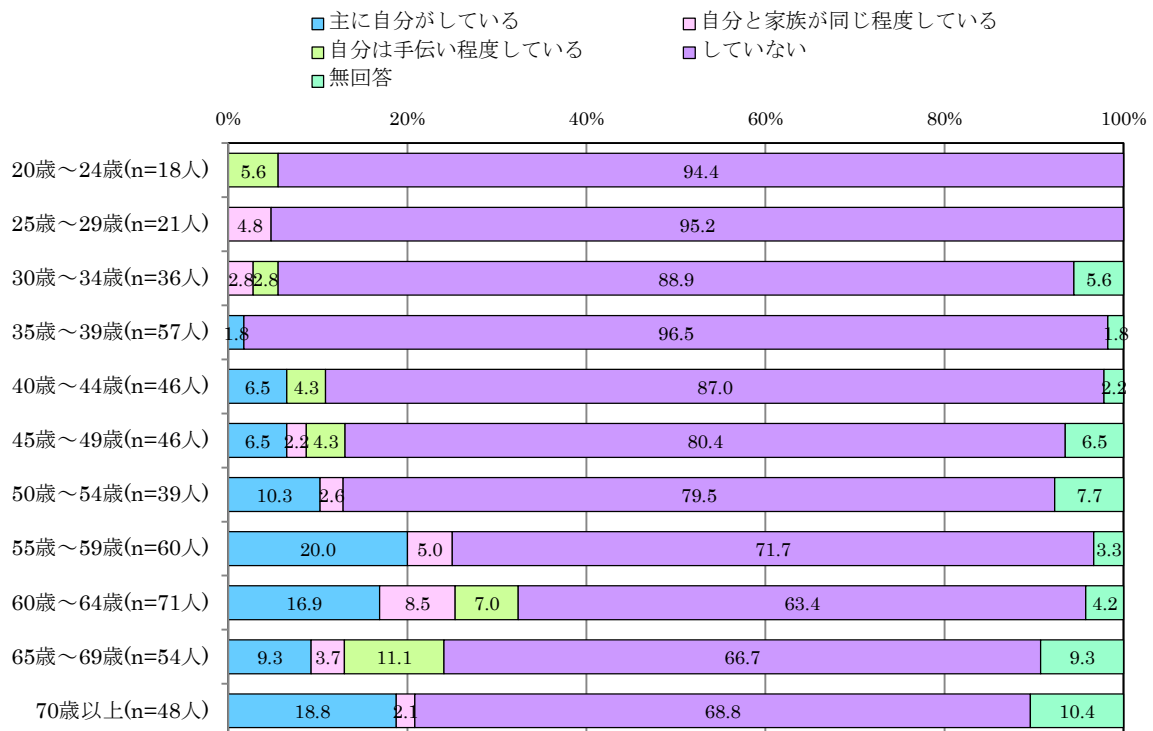
- ・男性の世代別でみると、どの年代においても「していない」が最も多い回答となっている。
- ・「主に自分がしている」という回答があるのは、40歳以上の年代となっている。

### 【男性世代別】



男性 (n=345人)

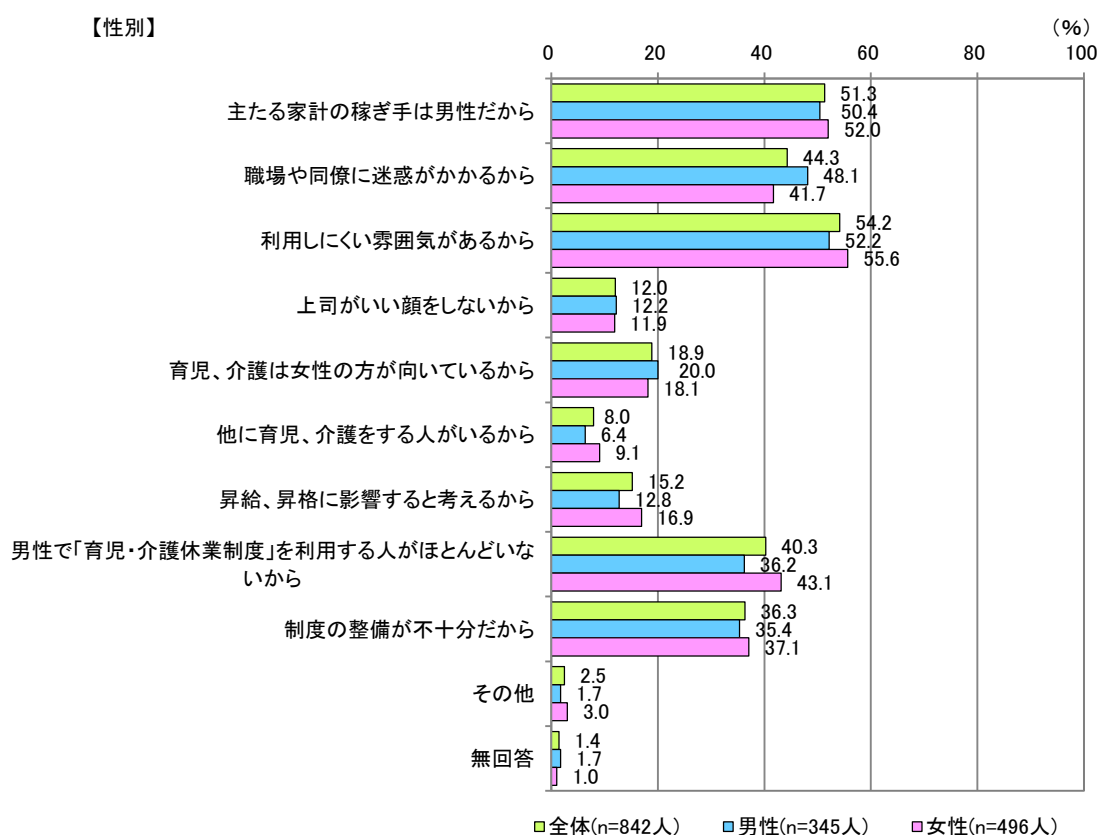
### 【女性世代別】



女性 (n=496人)

問13 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答割合が多いのは、「利用しにくい雰囲気があるから」(54.2%)で、5割を超えている。次いで、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(51.3%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(44.3%)、「男性で『育児・介護休業制度』を利用する人がほとんどいないから」(40.3%)、「制度の整備が不十分だから」(36.3%)の順となっている。
- ・性別でみると、男性では、「利用しにくい雰囲気があるから」(52.2%)が最も多く約5割となっている。次に、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(50.4%)と「職場や同僚に迷惑がかかるから」(48.1%)がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・女性では、男性同様「利用しにくい雰囲気があるから」(55.6%)が最も多くなっている。次いで、2番目に「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(52.0%)、3番目に「男性で『育児・介護休業制度』を利用する人がほとんどいないから」(43.1%)の順となる。

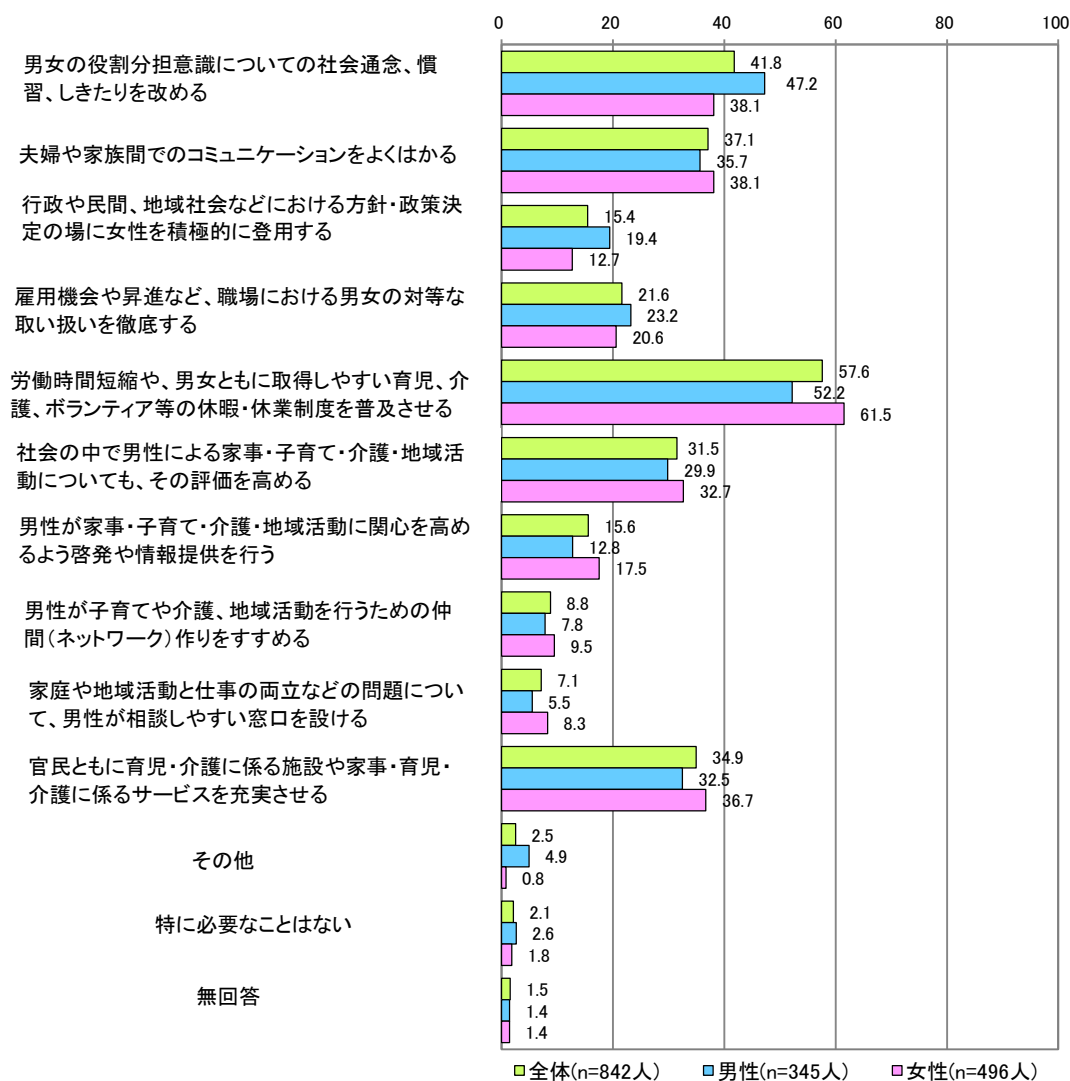


問14 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- ・全体では、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(57.6%)が最も多く、約6割となっている。次に、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(41.8%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」(37.1%)、「官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(34.9%)、の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(52.2%)が最も多く、約5割となる。次いで、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(47.2%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」(35.7%)、「官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(32.5%)の順となる。
- ・女性も、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(61.5%)と言う回答が最も多い。次に、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」と、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」が同じ38.1%となっている。

【性別】

(%)



---

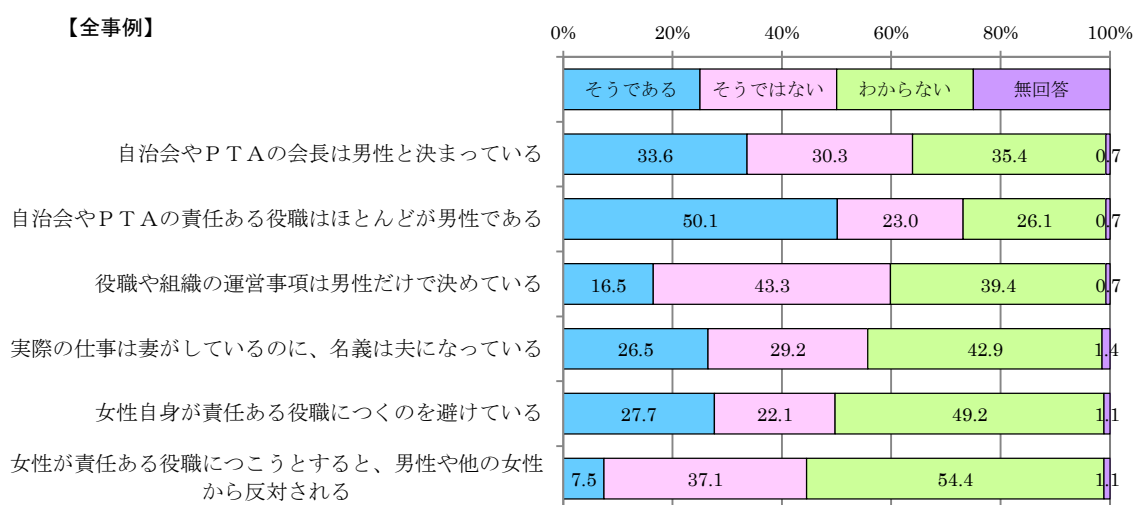
## 地域社会に関する問題

---



問15 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（50.1%）となっている。次に、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（33.6%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（27.7%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（43.3%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（37.1%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（30.3%）と続いている。

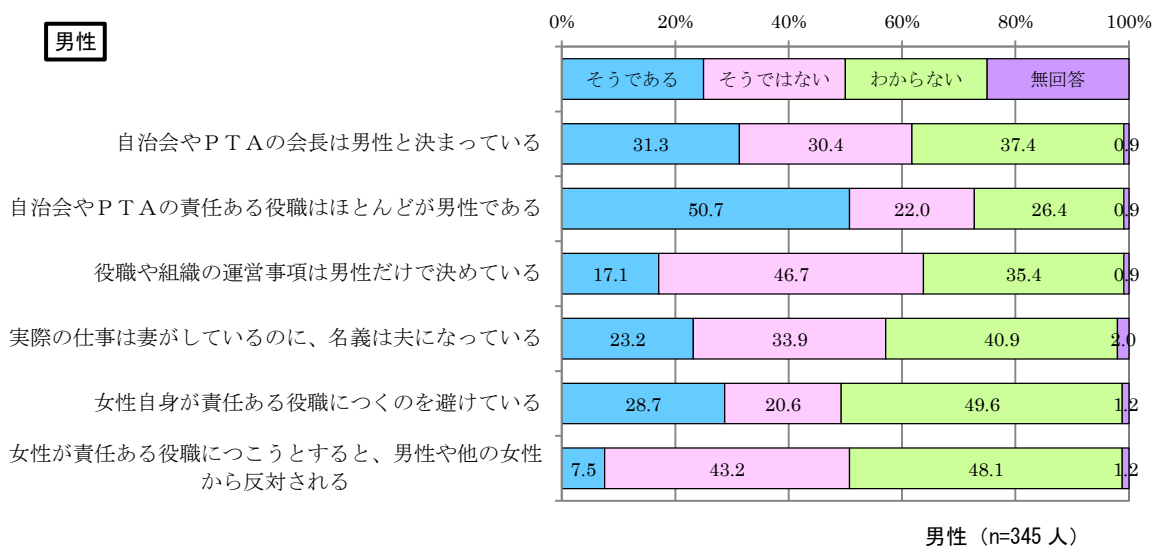


全体 (n=842 人)

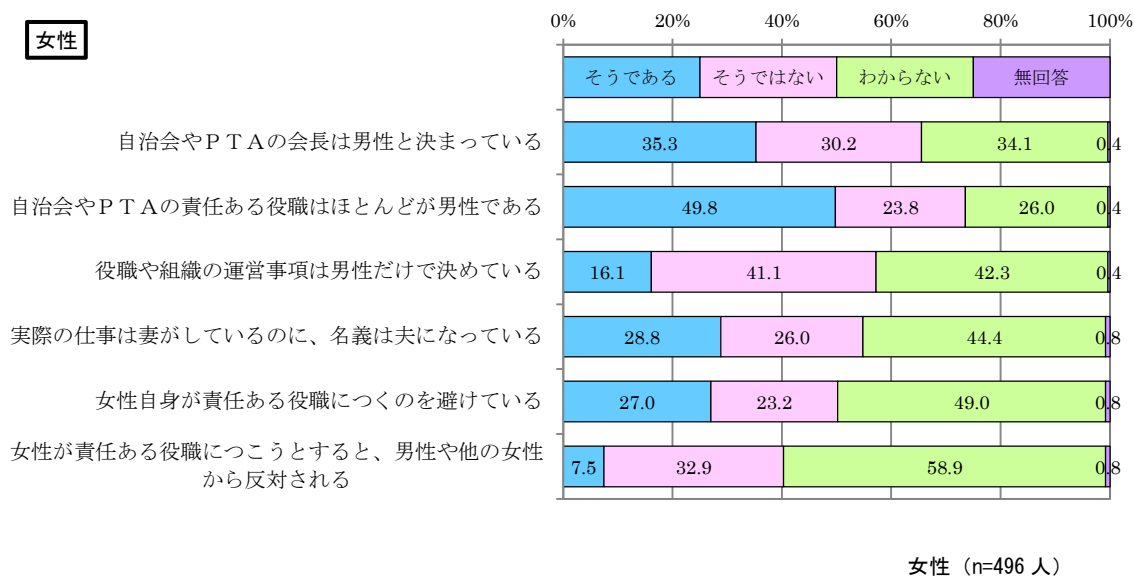
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

【性別】

**男性**



**女性**



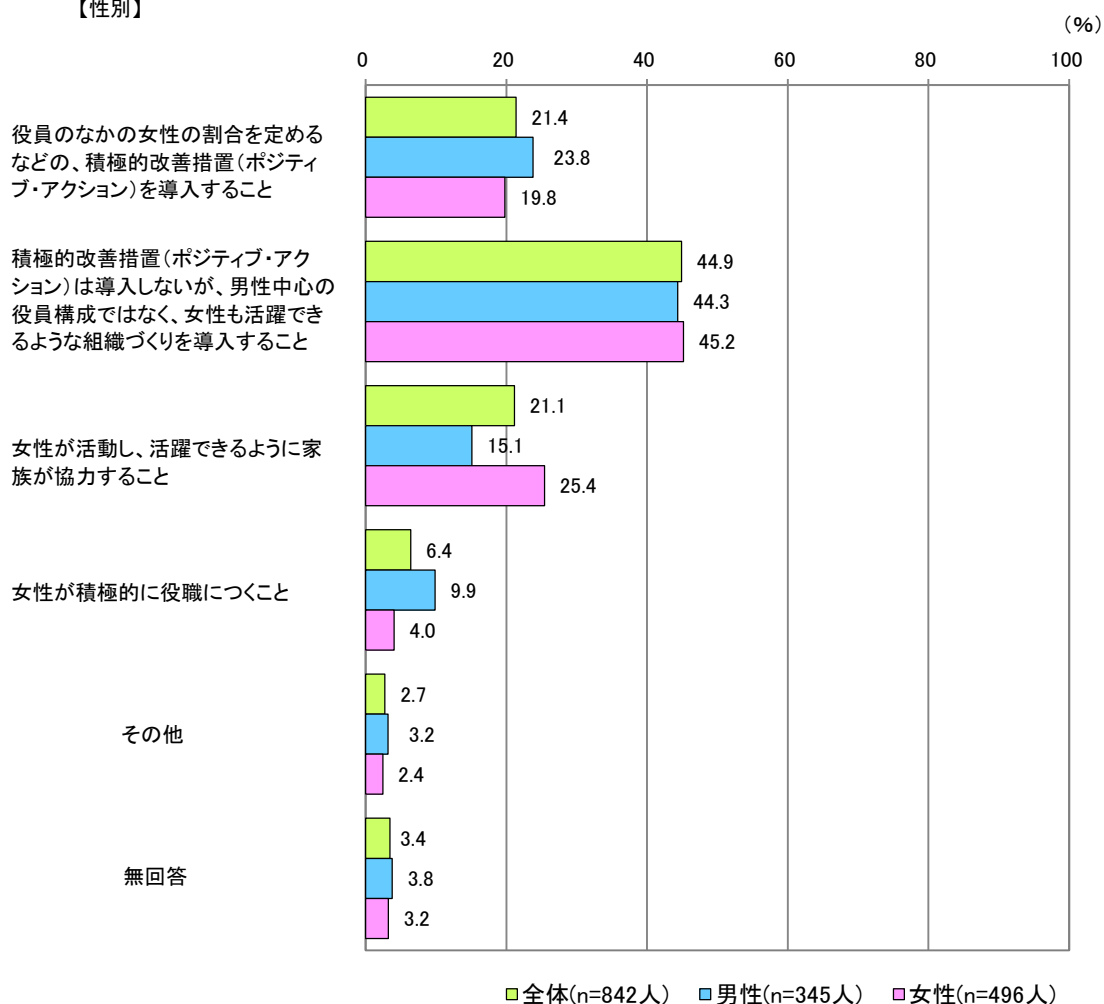


問16 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、4割（44.9%）を超えている。次に、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（21.4%）と「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（21.1%）がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・性別でみると、男女どちらも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、約4割となっている。次に、男性は、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」が続き、一方女性は、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」が2番目となる。

【性別】





---

## 男女の人権に関する問題

---

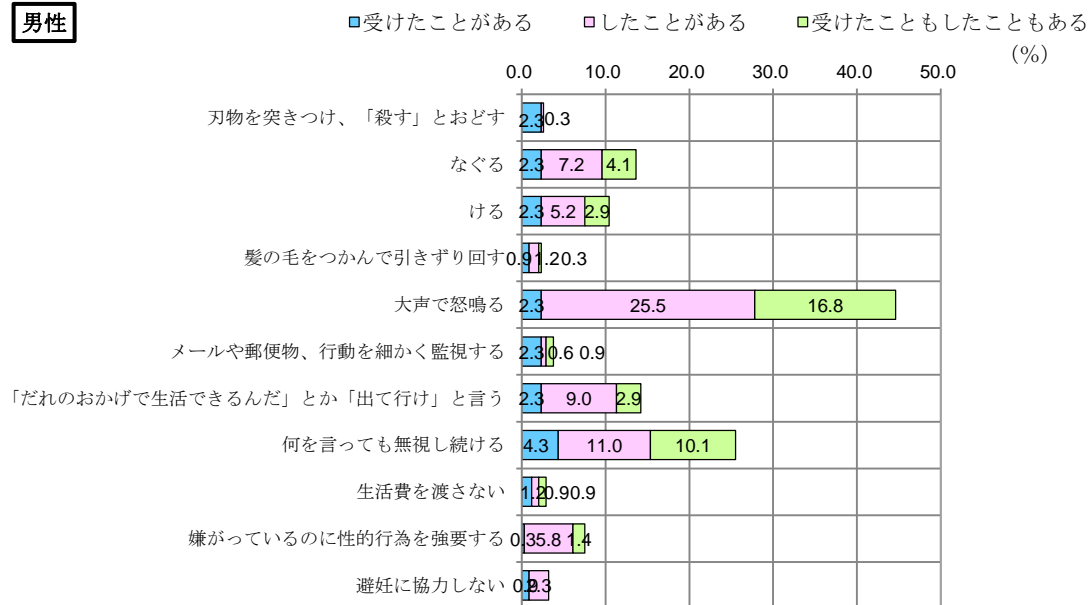


問17 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がどの行為においても大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「大声で怒鳴る」、「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

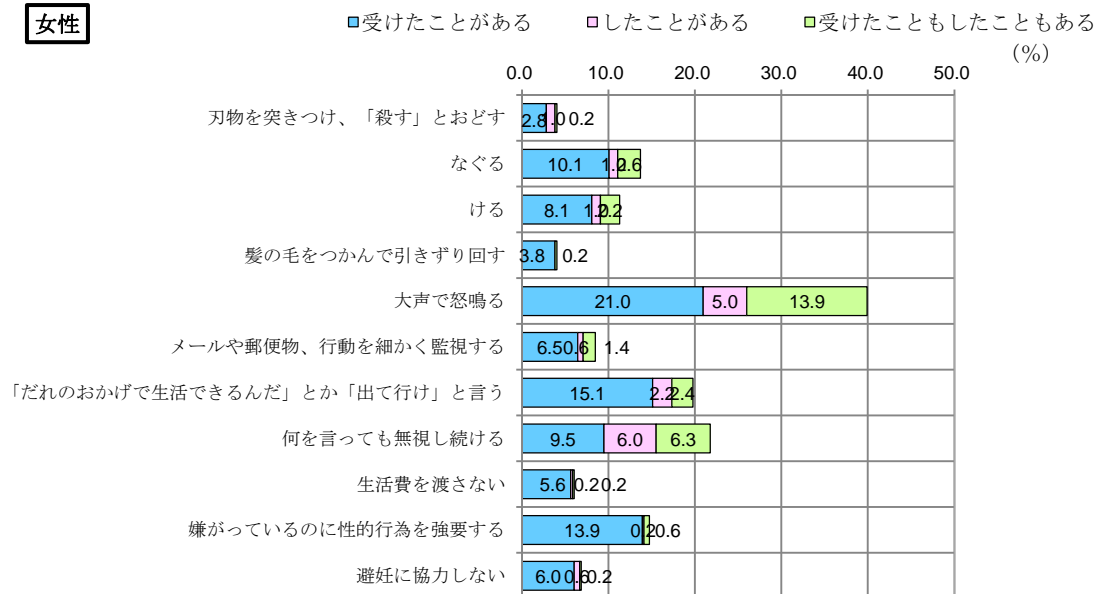
【性別】

**男性**



男性 (n=345 人)

**女性**



女性 (n=496 人)

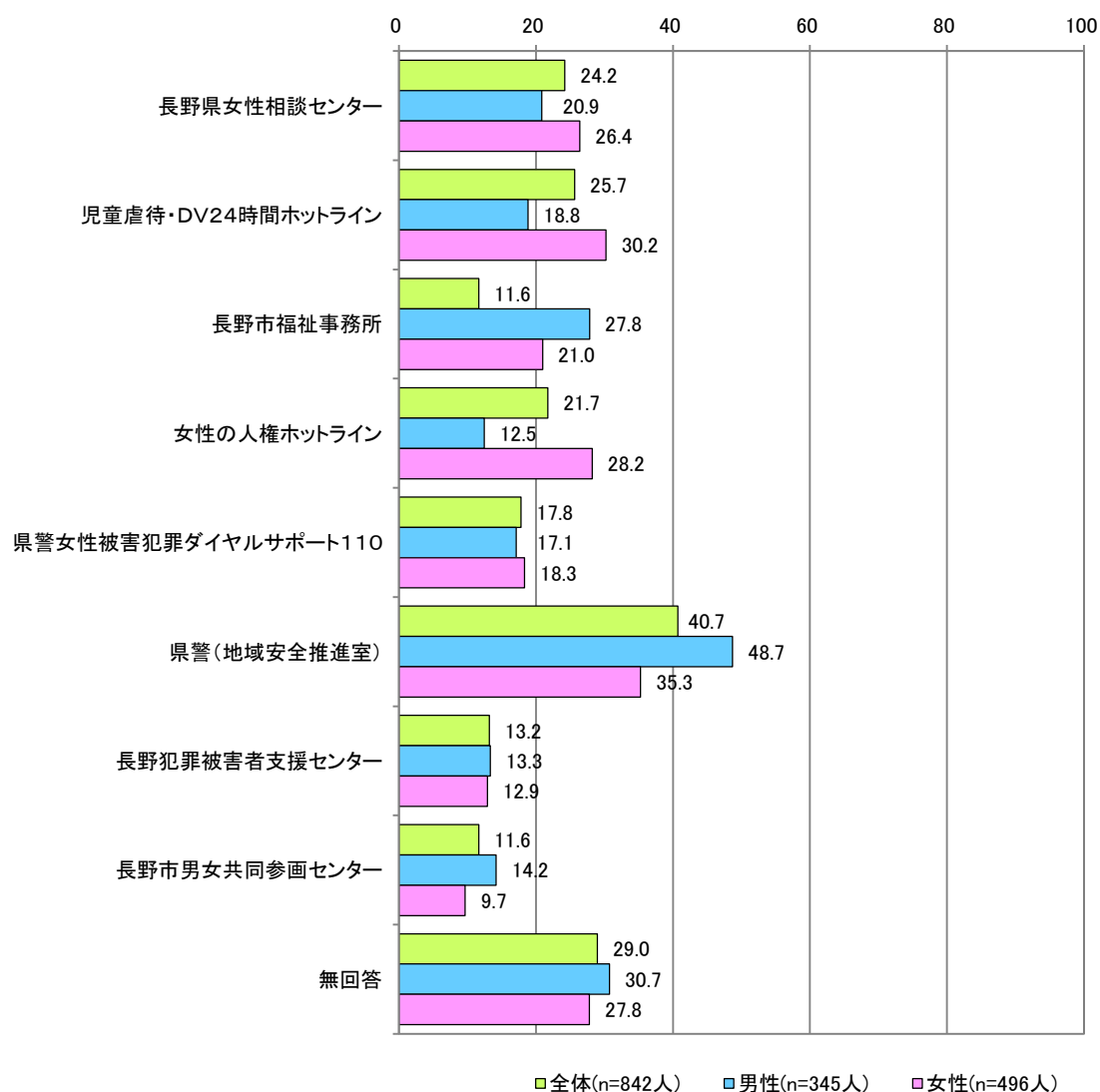
※無回答は男性で2.9%~3.5%、女性で1.8%~2.8%で、残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問18 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「県警（地域安全推進室）」（40.7%）で、約4割となっている。次いで、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（25.7%）、「長野県女性相談センター」（24.2%）、「女性の人権ホットライン」（21.7%）と続いている。
- ・性別で見ると、男性においては、「県警（地域安全推進室）」（48.7%）が約5割で最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（27.8%）、「長野県女性相談センター」（20.9%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（地域安全推進室）」（35.3%）と「児童虐待・DV24時間ホットライン」（30.2%）と続いている。女性の3番目に多い回答は、「女性の人権ホットライン」（28.2%）となっており、男性の回答とは認知度に差がある。

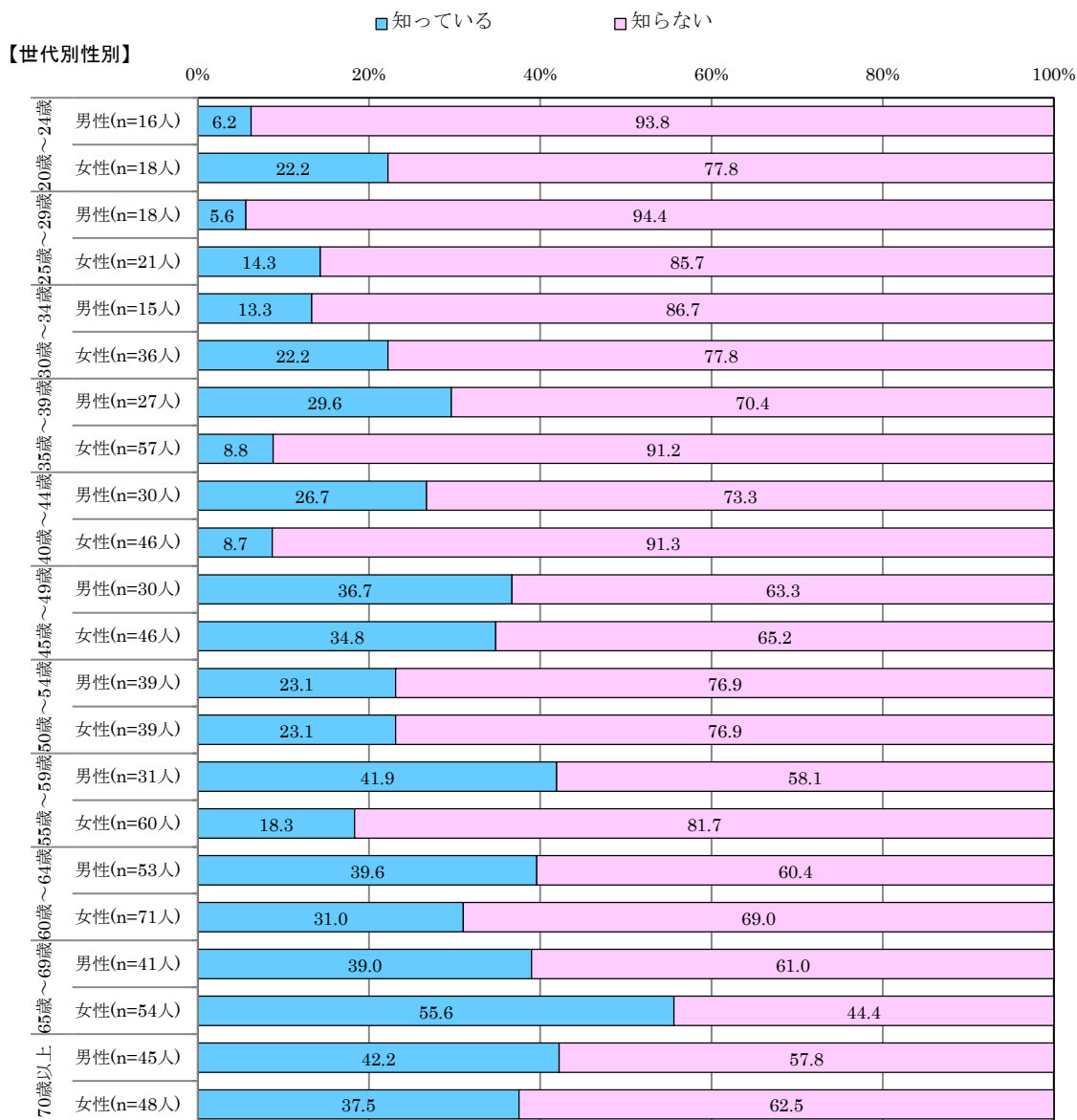
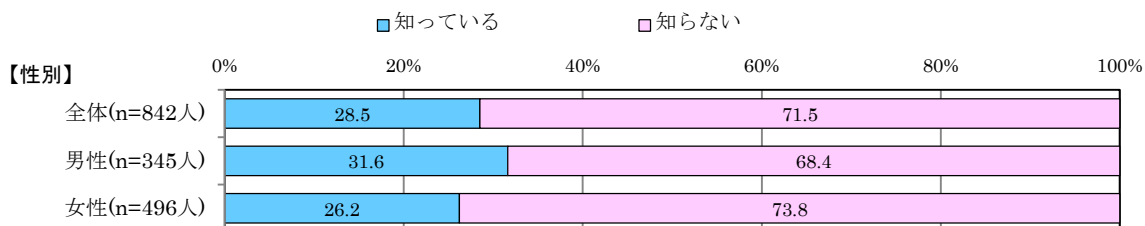
【性別】

(%)



## <DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

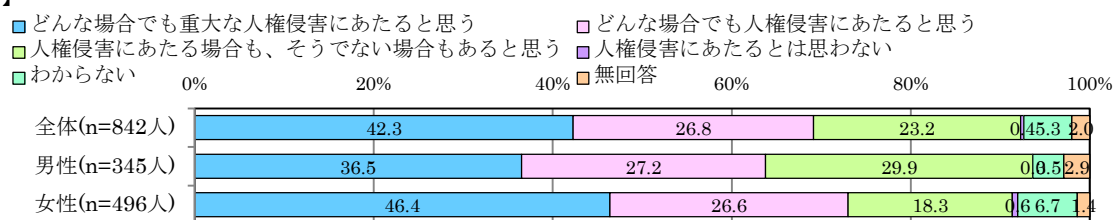
- ・問18において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」割合は、約3割（28.5%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」割合は、「男性」の方が「女性」よりやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、45歳～49歳、55歳～70歳代の年代において約4割の認知度となっている。50歳～54歳以外の年代で年齢が高くなるにつれ認知度も高くなっていく傾向があるといえる。一方、女性は65歳～69歳代で最も認知度が高くなっている。20代、30代はやや低くなっているが、そこから年齢が高くなるにつれ徐々に認知度も上がっていく傾向があるといえる。



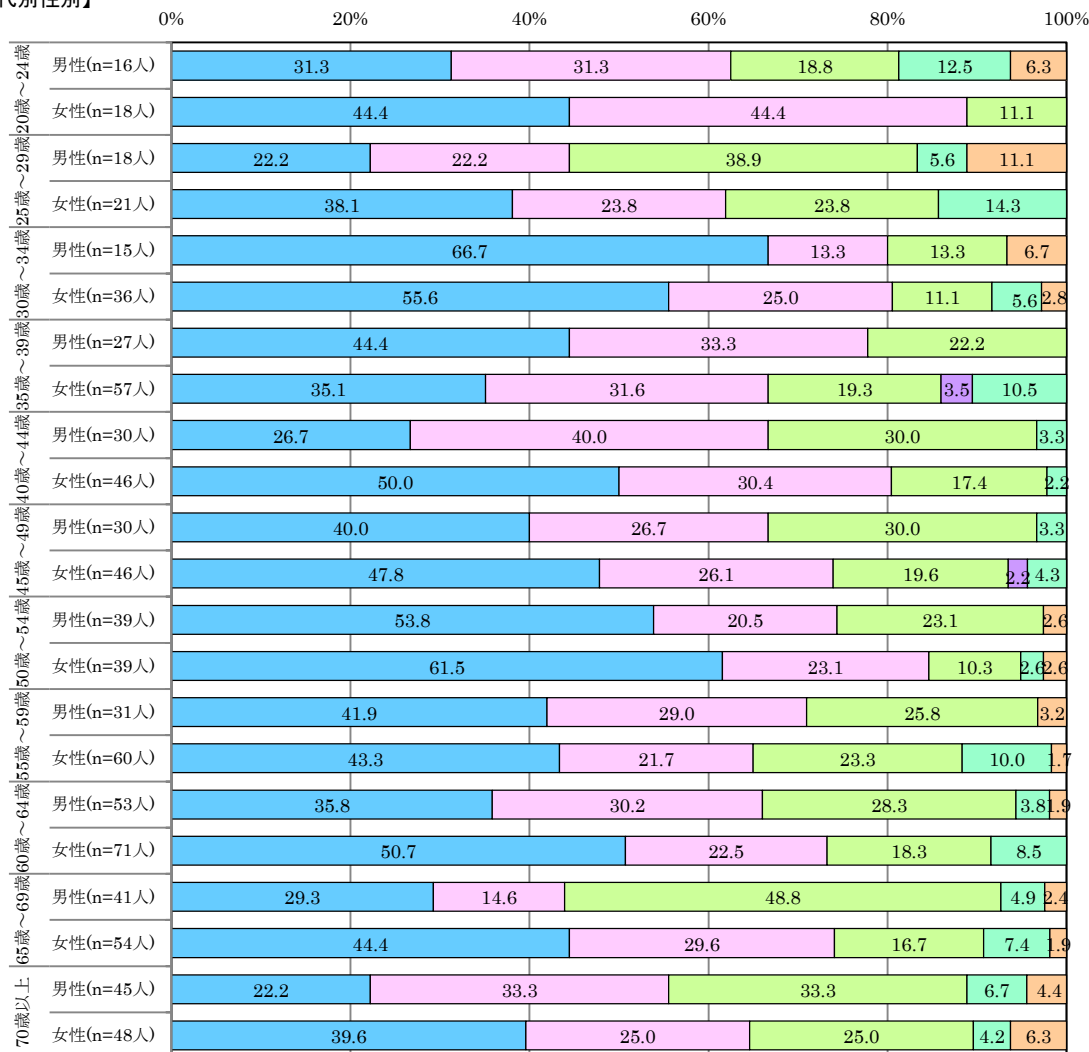
問19 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えにもっとも近いのは  
 どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（42.3%）が最も多い回答となっており、約4割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（26.8%）と「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（23.2%）がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・性別でみると、男性では「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答割合が女性より1割も少なく、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答が女性より1割多い。
- ・世代別性別でみると、全ての年代において、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答割合が、男性は女性より多くなっており、性別による差が見られる。

【性別】



【世代別性別】





---

## 男女共同参画施策に関する問題

---

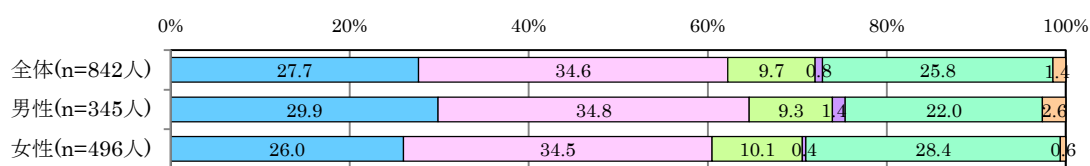


問20 平成24年7月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6人(15.4%)、住民自治協議会における女性役員の数と割合は517人(18.0%)となっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

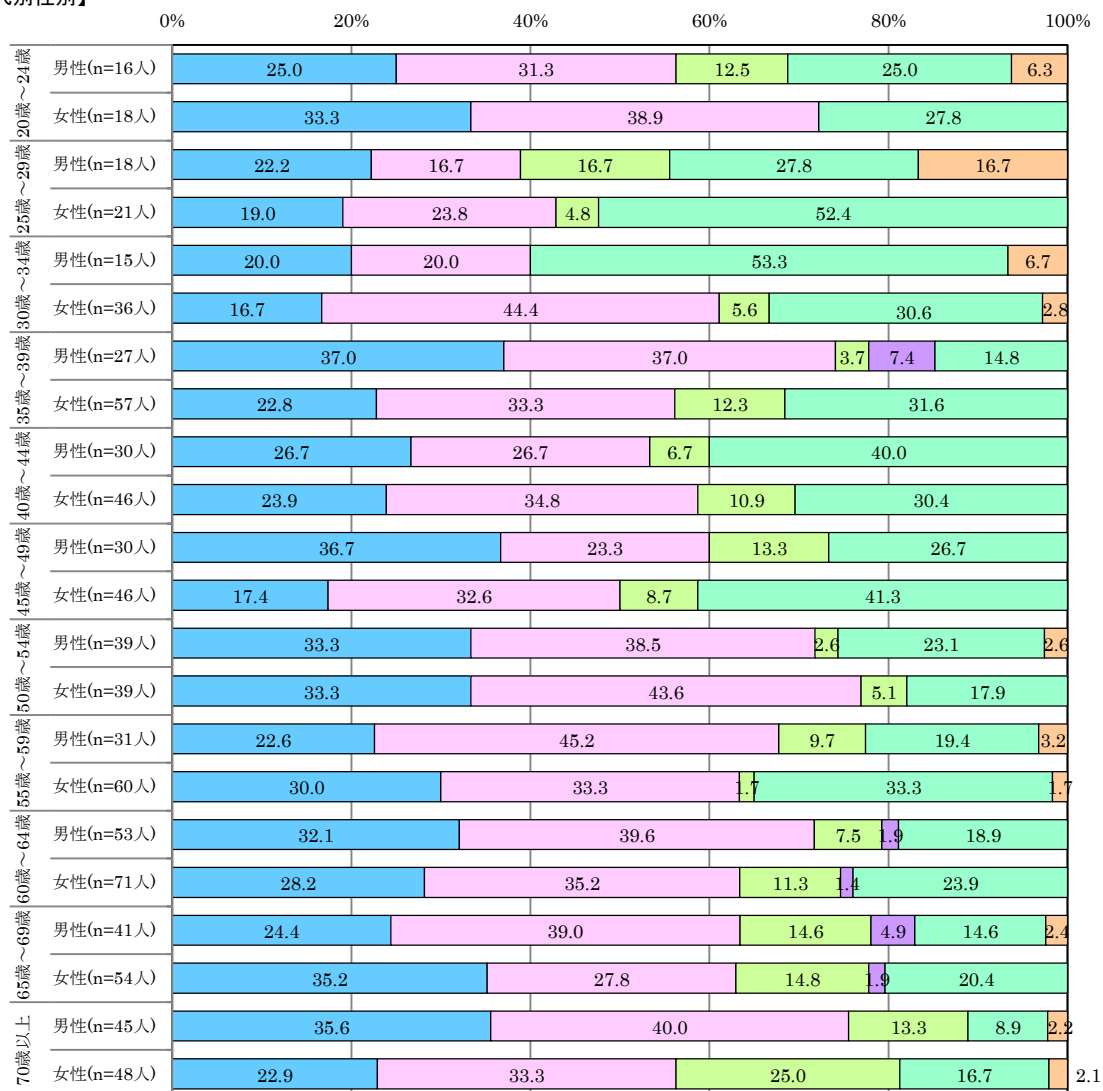
- ・全体でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」(27.7%)及び「現在より少し増えた方がよい」(34.6%)という回答割合の合計は、約6割(62.3%)となっている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性64.7%、女性60.5%で、男性の方がやや多い。
- ・世代別性別でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は、25歳～34歳の男性、25歳～29歳の女性で、やや低くなっている。

【性別】

■ 現在より大幅に増えた方がよい    ■ 現在より少し増えた方がよい    ■ 現状でよい  
 ■ 現状より少なくてよい    ■ わからない    ■ 無回答



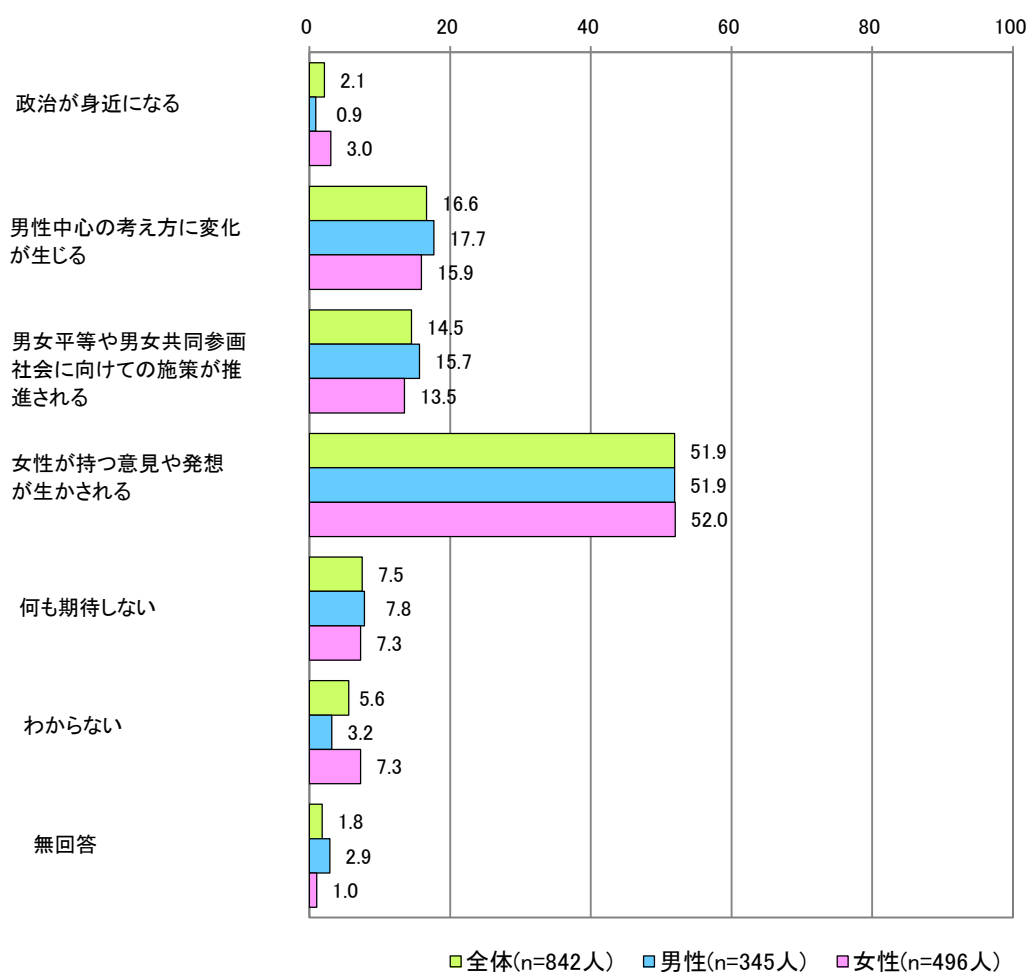
【世代別性別】



問2 1 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。  
次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- ・全体でみると、「女性が持つ意見や発想が活かされる」(51.9%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「男性中心の考え方に変化が生じる」(16.6%)、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」(14.5%)と続いている。
- ・性別でみると、男女による大きな差は見られないが、「政治が身近になる」という回答において、女性の回答割合が、男性よりもやや高くなっている。

【性別】 (%)

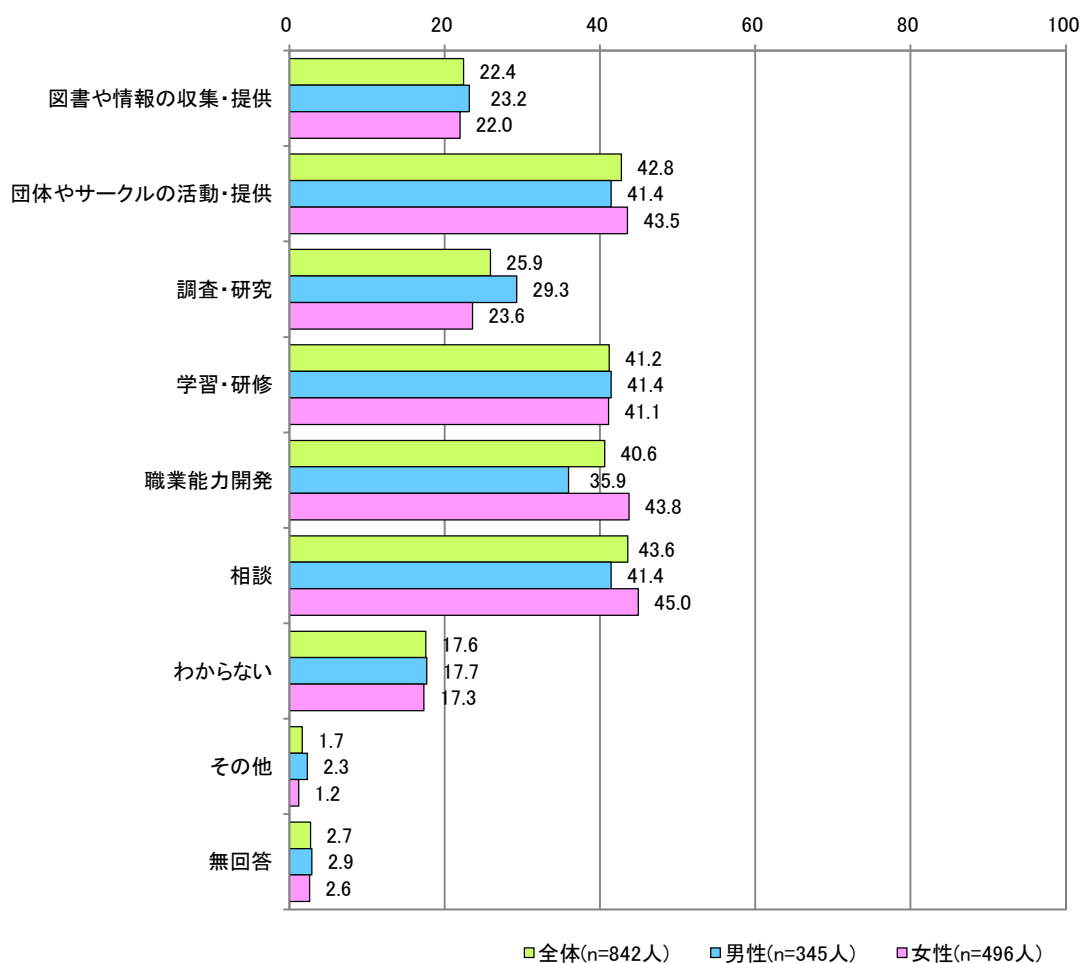


問2 2 男女共同参画社会を実現するための拠点施設（長野市男女共同参画センター）の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「相談」（43.6%）が最も多い回答となっている。次いで、「団体やサークルの活動・提供」（42.8%）、「学習・研修」（41.2%）の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は「団体やサークルの活動・提供」、「学習・研修」、「相談」（41.4%）は同じ割合となっている。
- ・一方、女性は「相談」（45.0%）、「職業能力開発」（43.8%）、「学習・研修」（43.5%）の順となる。「職業能力開発」について男性より女性が多くなっている。

(%)

【性別】

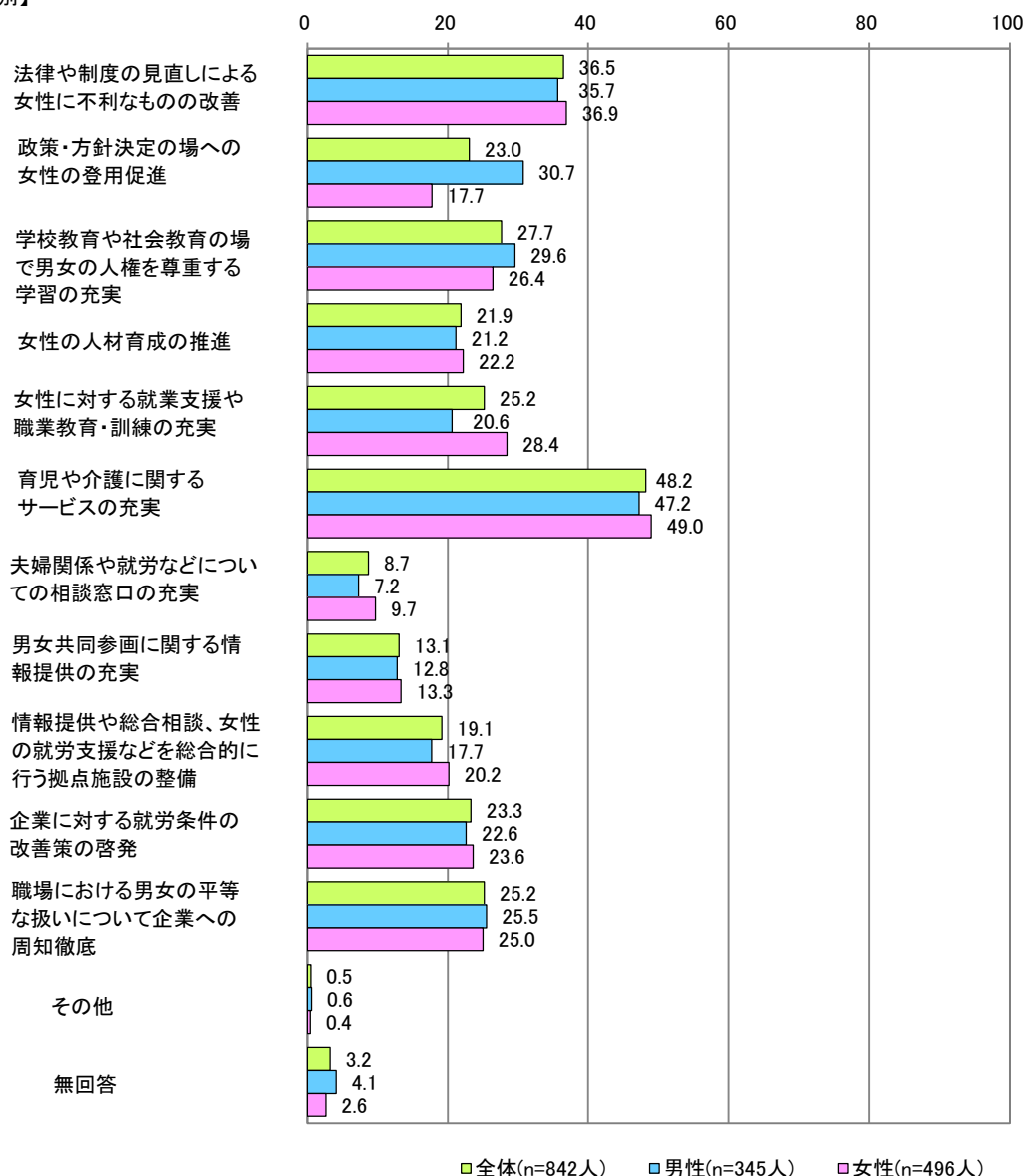


問23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(48.2%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(36.5%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(27.7%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(47.2%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(35.7%)、「政策・方針決定の場への女性の登用促進」(30.7%)となる。
- ・一方、女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(49.0%)が最も多くなっているが、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(36.9%)、「女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実」(28.4%)の順となる。

(%)

【性別】



---

## 資 料

---





---

## 単純集計

---



『男女共同参画に関する市民意識と実態調査』

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	842	42.1%

A. あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	345	41.0%
②女性	496	58.9%
無回答	1	0.1%
合計	842	100.0%

B. あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	34	4.0%
②25歳～29歳	39	4.6%
③30歳～34歳	51	6.1%
④35歳～39歳	84	10.0%
⑤40歳～44歳	76	9.0%
⑥45歳～49歳	76	9.0%
⑦50歳～54歳	78	9.3%
⑧55歳～59歳	91	10.8%
⑨60歳～64歳	124	14.7%
⑩65歳～69歳	95	11.3%
⑪70歳以上	93	11.0%
無回答	1	0.1%
合計	842	100.0%

C. あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回収率
①農林漁業の自営業主・家族従業者	36	4.3%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	26	3.1%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	11	1.3%
④会社役員・経営者	46	5.5%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	238	28.3%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	181	21.5%
⑦家事専業者	159	18.9%
⑧学生	9	1.1%
⑨無職	120	14.3%
⑩その他	14	1.7%
無回答	2	0.2%
合計	842	100.0%

D. あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	74	8.8%
②一世帯世帯(夫婦のみ)	208	24.7%
③二世帯世帯(親と子)	418	49.6%
④三世帯世帯(親と子と孫)	121	14.4%
⑤その他	16	1.9%
無回答	5	0.6%
合計	842	100.0%

E. あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	627	74.5%
②結婚していない	125	14.8%
③結婚していないがパートナーがいる	23	2.7%
④配偶者と離・死別した	66	7.8%
無回答	1	0.1%
合計	842	100.0%

F. Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。  
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	32	4.9%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	32	4.9%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	7	1.1%
④会社役員・経営者	42	6.5%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	218	33.5%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	128	19.7%
⑦家事専業者	60	9.2%
⑧学生	1	0.2%
⑨無職	107	16.5%
⑩その他	6	0.9%
無回答	17	2.6%
合計	650	100.0%

G. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	634	75.3%
②いない	201	23.9%
無回答	7	0.8%
合計	842	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1. あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	310	36.8%
②女性が優位	107	12.7%
③平等である	346	41.1%
④わからない	75	8.9%
無回答	4	0.5%
合計	842	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	136	16.2%
②女性が優位	49	5.8%
③平等である	390	46.3%
④わからない	255	30.3%
無回答	12	1.4%
合計	842	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	530	62.9%
②女性が優位	23	2.7%
③平等である	162	19.2%
④わからない	118	14.0%
無回答	9	1.1%
合計	842	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	501	59.5%
②女性が優位	29	3.4%
③平等である	182	21.6%
④わからない	113	13.4%
無回答	17	2.0%
合計	842	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	316	37.5%
②女性が優位	37	4.4%
③平等である	305	36.2%
④わからない	177	21.0%
無回答	7	0.8%
合計	842	100.0%

6 慣習・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	658	78.1%
②女性が優位	19	2.3%
③平等である	65	7.7%
④わからない	91	10.8%
無回答	9	1.1%
合計	842	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	591	70.2%
②女性が優位	4	0.5%
③平等である	114	13.5%
④わからない	126	15.0%
無回答	7	0.8%
合計	842	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	589	70.0%
②女性が優位	16	1.9%
③平等である	102	12.1%
④わからない	124	14.7%
無回答	11	1.3%
合計	842	100.0%

問2. 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	342	40.6%
②聞いたことがある	287	34.1%
③知らない	209	24.8%
無回答	4	0.5%
合計	842	100.0%

2 ジェンダー(社会的性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	203	24.1%
②聞いたことがある	206	24.5%
③知らない	428	50.8%
無回答	5	0.6%
合計	842	100.0%

3 女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	155	18.4%
②聞いたことがある	257	30.5%
③知らない	425	50.5%
無回答	5	0.6%
合計	842	100.0%

4 男女雇用機会均等法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	607	72.1%
②聞いたことがある	176	20.9%
③知らない	51	6.1%
無回答	8	1.0%
合計	842	100.0%

5 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	109	12.9%
②聞いたことがある	250	29.7%
③知らない	476	56.5%
無回答	7	0.8%
合計	842	100.0%

6 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	123	14.6%
②聞いたことがある	192	22.8%
③知らない	520	61.8%
無回答	7	0.8%
合計	842	100.0%

問3. あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	401	47.6%
②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	191	22.7%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	539	64.0%
④新たな発想や多様な価値観が活かされる社会	146	17.3%
⑤男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	649	77.1%
⑥男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	450	53.4%
⑦その他	10	1.2%
無回答	12	1.4%
対象数	842	-

問4. 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。  
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	40	4.8%
②どちらかといえば賛成	335	39.8%
③どちらかといえば反対	295	35.0%
④反対	161	19.1%
無回答	11	1.3%
合計	842	100.0%

問5. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。  
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	8	1.0%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	18	2.1%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	53	6.3%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	307	36.5%
⑤子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	375	44.5%
⑥その他	77	9.1%
無回答	4	0.5%
合計	842	100.0%

問6. 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがありますか。  
あなたにあてはまるものすべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①進学のとときにあった	71	8.4%
②就職のとときにあった	107	12.7%
③仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった	173	20.5%
④管理職へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	21	2.5%
⑤その他	24	2.9%
⑥特にない	540	64.1%
無回答	554	65.8%
対象数	842	-

労働に関することでおたずねします。

問7. 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことに関して、男女は平等になっていると思いますか  
(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1. 賃金

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	173	32.0%
女性の方が優遇されている	6	1.1%
平等である	232	42.9%
わからない	93	17.2%
無回答	37	6.8%
合計	541	100.0%

2. 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	225	41.6%
女性の方が優遇されている	10	1.8%
平等である	169	31.2%
わからない	97	17.9%
無回答	40	7.4%
合計	541	100.0%

3. 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	120	22.2%
女性の方が優遇されている	64	11.8%
平等である	243	44.9%
わからない	77	14.2%
無回答	37	6.8%
合計	541	100.0%

4. 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	115	21.3%
女性の方が優遇されている	8	1.5%
平等である	275	50.8%
わからない	104	19.2%
無回答	39	7.2%
合計	541	100.0%

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問8. あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	193	22.9%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	276	32.8%
③知らない	360	42.8%
無回答	13	1.5%
合計	842	100.0%



問9. 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	31	3.7%
②「家庭生活」優先	156	18.5%
③「地域活動・個人の生活」優先	15	1.8%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	271	32.2%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	41	4.9%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	90	10.7%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	215	25.5%
無回答	23	2.7%
合計	842	100.0%

問10. 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	219	26.0%
②「家庭生活」優先	231	27.4%
③「地域活動・個人の生活」優先	28	3.3%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	178	21.1%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	24	2.9%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	75	8.9%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	58	6.9%
無回答	29	3.4%
合計	842	100.0%

問11. あなたは次にあげる家事をしていますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1. 掃除

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	423	50.2%
自分と家族が同じ程度している	156	18.5%
自分は手伝い程度している	176	20.9%
していない	70	8.3%
無回答	17	2.0%
合計	842	100.0%

2. 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	434	51.5%
自分と家族が同じ程度している	101	12.0%
自分は手伝い程度している	137	16.3%
していない	153	18.2%
無回答	17	2.0%
合計	842	100.0%

3. 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	391	46.4%
自分と家族が同じ程度している	193	22.9%
自分は手伝い程度している	175	20.8%
していない	65	7.7%
無回答	18	2.1%
合計	842	100.0%

#### 4. 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	428	50.8%
自分と家族が同じ程度している	91	10.8%
自分は手伝い程度している	146	17.3%
していない	160	19.0%
無回答	17	2.0%
合計	842	100.0%

#### 5. 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	412	48.9%
自分と家族が同じ程度している	136	16.2%
自分は手伝い程度している	166	19.7%
していない	108	12.8%
無回答	20	2.4%
合計	842	100.0%

#### 6. ごみを捨てる

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	358	42.5%
自分と家族が同じ程度している	165	19.6%
自分は手伝い程度している	166	19.7%
していない	130	15.4%
無回答	23	2.7%
合計	842	100.0%

問12. あなたは次にあげる育児・介護をしていますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

##### 1. 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	130	15.4%
自分と家族が同じ程度している	87	10.3%
自分は手伝い程度している	137	16.3%
していない	429	51.0%
無回答	59	7.0%
合計	842	100.0%

##### 2. 介護

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	59	7.0%
自分と家族が同じ程度している	37	4.4%
自分は手伝い程度している	53	6.3%
していない	634	75.3%
無回答	59	7.0%
合計	842	100.0%

問13. 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。  
 主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	432	51.3%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	373	44.3%
③利用しにくい雰囲気があるから	456	54.2%
④上司がいい顔をしないから	101	12.0%
⑤育児、介護は女性の方が向いているから	159	18.9%
⑥他に育児、介護をする人がいるから	67	8.0%
⑦昇給、昇格に影響すると考えるから	128	15.2%
⑧男性で「育児・介護休業制度」を利用する人がほとんどいないから	339	40.3%
⑨制度の整備が不十分だから	306	36.3%
⑩その他	21	2.5%
無回答	13	1.5%
対象数	842	-

問14. 今後女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、  
 どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める	352	41.8%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる	312	37.1%
③行政や民間、地域社会などにおける方針・政策決定の場に女性を積極的に採用する	130	15.4%
④雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを徹底する	182	21.6%
⑤労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	485	57.6%
⑥社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についても、その評価を高める	265	31.5%
⑦男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	131	15.6%
⑧男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	74	8.8%
⑨家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	60	7.1%
⑩官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	294	34.9%
⑪その他	21	2.5%
⑫特に必要なことはない	18	2.1%
無回答	19	2.3%
対象数	842	-

**地域社会に関することでおたずねします。**

問15. あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において  
 次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	283	33.6%
②そうではない	255	30.3%
③わからない	298	35.4%
無回答	6	0.7%
合計	842	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	422	50.1%
②そうではない	194	23.0%
③わからない	220	26.1%
無回答	6	0.7%
合計	842	100.0%

3 役職や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	139	16.5%
②そうではない	365	43.3%
③わからない	332	39.4%
無回答	6	0.7%
合計	842	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	223	26.5%
②そうではない	246	29.2%
③わからない	361	42.9%
無回答	12	1.4%
合計	842	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくの避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	233	27.7%
②そうではない	186	22.1%
③わからない	414	49.2%
無回答	9	1.1%
合計	842	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	63	7.5%
②そうではない	312	37.1%
③わからない	458	54.4%
無回答	9	1.1%
合計	842	100.0%

問16. 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。  
あなたはどうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	180	21.4%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	378	44.9%
③女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	178	21.1%
④女性が積極的に役職につくこと	54	6.4%
⑤その他	23	2.7%
無回答	29	3.4%
合計	842	100.0%

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問17. 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVに当たる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	22	2.6%
② したことがある	6	0.7%
③ 受けたこともしたこともある	1	0.1%
④ 受けたこともしたこともない	791	93.9%
無回答	22	2.6%
合計	842	100.0%

2 なぐる

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	58	6.9%
② したことがある	31	3.7%
③ 受けたこともしたこともある	27	3.2%
④ 受けたこともしたこともない	707	84.0%
無回答	19	2.3%
合計	842	100.0%

3 ける

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	48	5.7%
② したことがある	24	2.9%
③ 受けたこともしたこともある	21	2.5%
④ 受けたこともしたこともない	728	86.5%
無回答	21	2.5%
合計	842	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	22	2.6%
② したことがある	4	0.5%
③ 受けたこともしたこともある	2	0.2%
④ 受けたこともしたこともない	792	94.1%
無回答	22	2.6%
合計	842	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	112	13.3%
② したことがある	113	13.4%
③ 受けたこともしたこともある	128	15.2%
④ 受けたこともしたこともない	469	55.7%
無回答	20	2.4%
合計	842	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	40	4.8%
②したことがある	5	0.6%
③受けたこともしたこともある	10	1.2%
④受けたこともしたこともない	765	90.9%
無回答	22	2.6%
合計	842	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出ていけ」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	83	9.9%
②したことがある	42	5.0%
③受けたこともしたこともある	22	2.6%
④受けたこともしたこともない	671	79.7%
無回答	24	2.9%
合計	842	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	62	7.4%
②したことがある	68	8.1%
③受けたこともしたこともある	66	7.8%
④受けたこともしたこともない	625	74.2%
無回答	21	2.5%
合計	842	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	32	3.8%
②したことがある	4	0.5%
③受けたこともしたこともある	4	0.5%
④受けたこともしたこともない	779	92.5%
無回答	23	2.7%
合計	842	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	70	8.3%
②したことがある	21	2.5%
③受けたこともしたこともある	9	1.1%
④受けたこともしたこともない	721	85.6%
無回答	21	2.5%
合計	842	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	33	3.9%
②したことがある	12	1.4%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	770	91.4%
無回答	26	3.1%
合計	842	100.0%

問18. あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	204	24.2%
②児童虐待・DV24時間ホットライン	216	25.7%
③長野市福祉事務所(長野市役所保育家庭支援課内、篠ノ井支所)	200	23.8%
④女性の人権ホットライン	183	21.7%
⑤県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110	150	17.8%
⑥県警(地域安全推進室)	343	40.7%
⑦長野犯罪被害者支援センター	111	13.2%
⑧長野市男女共同参画センター	98	11.6%
無回答	244	29.0%
対象数	842	-

問19. DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	356	42.3%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	226	26.8%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	195	23.2%
④人権侵害にあたるとは思わない	3	0.4%
⑤わからない	45	5.3%
無回答	17	2.0%
合計	842	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問20. 平成24年7月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6人(15.4%)、住民自治協議会における女性役員の数と割合は517人(18.0%)となっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	233	27.7%
②現在より少し増えた方がよい	291	34.6%
③現状でよい	82	9.7%
④現状より少なくてよい	7	0.8%
⑤わからない	217	25.8%
無回答	12	1.4%
合計	842	100.0%

問21. あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①政治が身近になる	18	2.1%
②男性中心の考え方に変化が生じる	140	16.6%
③男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される	122	14.5%
④女性が持つ意見や発想が生かされる	437	51.9%
⑤何も期待しない	63	7.5%
⑥わからない	47	5.6%
無回答	15	1.8%
合計	842	100.0%

問22. 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①図書や情報の収集・提供	189	22.4%
②団体やサークルの活動・提供	360	42.8%
③調査・研究	218	25.9%
④学習・研修	347	41.2%
⑤職業能力開発	342	40.6%
⑥相談	367	43.6%
⑦わからない	148	17.6%
⑧その他	14	1.7%
無回答	23	2.7%
対象数	842	-

問23. 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	307	36.5%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	194	23.0%
③学校教育や社会社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	233	27.7%
④女性の人材育成の推進	184	21.9%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	212	25.2%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	406	48.2%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	73	8.7%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	110	13.1%
⑨情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備	161	19.1%
⑩企業に対する就労条件の改善策の啓発	196	23.3%
⑪職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底	212	25.2%
⑫その他	4	0.5%
無回答	27	3.2%
対象数	842	-

問24. 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
文章回答あり	156	18.5%
文章回答無し	686	81.5%
合計	842	100.0%



---

---

## 自由意見

---

---



## 問24 「男女共同参画」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
女性	20歳～24歳	非正規雇用者	以前就職活動していた際、「女性はちょっと…」という理由で断られた事があります。確かに男性向きの職場を希望しているのは確かなのですが、もうちょっと、女性でもそういう仕事に就けるような社会だったらいいのになあと、今もつくづく思っています。昔に比べたら、今の社会はとて良くなつたかもしれませんが、(今の社会でいう)男性向きの仕事がしたい私はまだまだだと思ひます。
女性	20歳～24歳	学生	いくら制度や法律を作つても、結局はその制度を利用しづらひ現実があると思う。特に男性の育児休暇については、強制的に取らせるくらいでないと、取得率は広まていかないと思う。数十年間かけて、女性が家庭から出て働ける環境が作られてきたのだから、今後は数十年かかるだろうが、男性が育児に当たり前に関われる社会を作つていくべきだと思ひます。
男性	20歳～24歳	会社役員・経営者	そもそもこのアンケートが女性中心に考え過ぎである。確かに今まで、男性中心で今後改善しようという意図は分かるが、今となつては電車の女性専用車両や宿泊施設などで男性が肩身の狭い思いをしている。2種類の性別しかないのに、そのどちらかが今回のような政策を考えているのが無理であろう。
男性	20歳～24歳	非正規雇用者	女性も男性も平等になるようにしてほしい。ある一部分だけが優位な状態ではなく、平等(ある程度)にするべき。またまだ男性の優位な面もあると思ひるので、徐々に改善してください。
男性	20歳～24歳	学生	教育現場においては、女子生徒の方が男性教師に甘やかされている傾向があり、平等と言えるのか疑問。私の考える「男女共同」とは、「男女が互いに性差を認め、違いを理解した上での平等な役割の分担」である。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	以前は男性職といわれた職に、女性が参入したりして、社会全体ではいい事だと思ひます。ただ、上記の者の一人として、必ずしもそうである事が必要ではないと感じます。体力的にもキツク、家庭よりも仕事優先になり、少子化には必ず影響があると思ひます。家庭がある(小さい子どもをもつ)ということについては、子育ての制度が充実してきているとは感じるが、その前の段階にある者であれば、制度としては不十分と思ひます(家庭がない者であれば、仕事のみ優先になる)。
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	男性と女性では、性別が違ふ時点で絶対的な差があり(体格、思考回路など)、全てを平等にする、というのは少し乱暴なように思ひます。大事な事は、男性の特性、女性の特性をそれぞれ理解し、活かしながらお互いが生きやすい制度、社会を築いていくことだと思ひます。
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	この長いアンケートが本当に役に立つのか、どの様にいかされるのか、正直期待出来ませんが、無駄にしてほしくはないです。(女の私から言うと、)仕事に関して言うと、今はとても不景気で子育てをしたくても生活の為、子どもが小さいうちから働いている方がほとんどです。仕事がしたい人はできる環境が必要だし、周囲のサポートも必要です。地域でサービスを増やす必要がある。また出来るだけ長く子どもといたいと願う、母親達のためにも、短時間の仕事のサポートを増やしてほしいです。男性ももっと沢山子育てを手伝える環境を作つてほしい。
女性	25歳～29歳	学生	なぜこのアンケートが私に来たのかわかりません。(適切であるのかが疑問です。あと、アンケート内容も理解の難しいものもありました)。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	男女平等と言ひ過ぎて、本当に男女平等になるのか疑問。何が男女平等じゃないのかわかりたい。長野は保育園、幼稚園が少ないと思ひます。だから嫁さんたちは外に働かぬ出来ない。男女平等というものに多くの人が勘違いしていると思ひます。多少の男女に差別感があった方が社会は上手くいくと思ひます。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	女性の登用等、一定の割合を義務化すると共に、男性の育児休暇取得を義務化するなど、男性側の立場を女性側に近づけていく施策を進めていただきたい。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	25歳～29歳	非正規雇用者	男性が育児休暇を取得するのは、今の現状では不可能である。なぜなら、職場では男性が育児休暇を取得することについて、理解してくれないため、形だけの物になっている。長野県は子どもの休み（夏休み）などが他県と比べて、極端に少ない為、子どもが家にいる時間は少ないが、大人の休みも少ないので子どもの相手をする時間もない。となると、家事をやる女性が子育てをすることになり、結局は現状と何も変わらないと思う。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	子育て中の期間の仕事の仕方がポイントになってくると思いますので、職場・社会・保育園の理解や制度や政策等がより充実していくことを希望しています。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	女性が不利。仕事してるだけで男性がエライとか、差別だ。女性ばかり苦労してる。仕事はあたりまえ。家庭のことだけで、疲れるのに。さらに仕事。もっと平等になってほしい。なのに、女はエラクれない世の中。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	私は結婚して、子どもを産んでも正職員として仕事がしたいと思っているので、産休や育休を2回でも3回でもとってもスムーズに復職できる環境ができればいいです。規則上では制度はあっても、皆がつかっていないとつかいづらいので、どんどん職場の人が活用して、当たり前の環境になればよいです。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	我が家は私が大黒柱で、仕事も総合職です。子を産んで児童手当の手続き等役所でも、何度も確認をとり直され、2人目の時は出産8日後にもかかわらず市役所に行きました。公務員の方々から意識改革必要ではないですか？また、会社には次世代育成の担当もしていますが、いくら制度や法律をつくっても、結局大変な思いをするのは現場であり、そのために調整に入ったり説明に行くことが多々あります。なので、むやみに制度を作られても対応がおいつかず、また実況と沿っていないものもあるので、もっと現場をみて現場の声を聞いてほしいです。さらに私は結局職場ではパイオニアになっていきますが、ロールモデルとなる人材も長野ではいなく、かなり苦労しました。そういう時のサポートをしてくれる窓口がほしかったです。今の会社は男性と同様の仕事もし、経営に関わっているので希望はありませんが、他の企業ではまだまだそういった窓口は必要と思います（今の会社は私が窓口をしています）。またそういう時で、1つの会社ではなく、市内のワーキングマザーの集いのようなことができるのも、公の組織だからこそできることではないでしょうか（ちなみにこの2年で12人、育休者がありました。他、男性1人の育休も有）。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	企業での雇用の男女差別について、おそらく年々差別は減っていると思いますが、若い企業の方が差別は少ないのではないのでしょうか？昔ながらの考え、というものが一番の壁だと思います。そのためには、教育が大事だと思います。また、情報発信も重要だと思いますが、充分伝わっていないのではないのでしょうか。ゴミの収集カレンダーや、健康カレンダーのような、分かりやすい一覧表で、共同参画に関する施設についてまとめてあると分かりやすいと思います（もう配布されていたら済みません）。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	男女共同参画＝男女平等とは違うと思います。女性にしかできないこと。男性にしかできないことも理解した上で、同じ能力があるならば、同じチャンスを受け、実現できる社会になれば良いと思う。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	男女分け隔てなく平等という社会づくりは、私がまだ学生時代の頃からすすめられていましたが、未だに根本的には男性優位が根強いと思います。仕事上でも”女性に大きな仕事出来るのか” ”男性が担当の方が良い”といった言葉や”これだから女性はすぐ感情的になる”といった上司の目線も感じた事があります。難しい課題ではありますが、制度だけでなく、”男女共同参画”というものが、人の心にまで浸透していく事を望んでいます。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	男女共同参画のアンケートに答えていても、実際どういった活動をしているのかがわからなかった。私は子育ての中で仕事をしています。旦那さんは子育てには協力的ですが、「家事は手伝ってやる」といった態度で「分担してやろう」と話しても「家事は私の仕事で、それを手伝ってやってる」といったように話してくるし、私も仕事をしていても、子どもが熱を出したら私が早退したり、休みをとったりとまだまだ男女差の考えの違いがあると思う。このような活動をもっと広めてもらい、子育てにも色々な方法や考え方を私達に伝えてほしい。
女性	30歳～34歳	家事専業者	すべて対等にするのは難しいと感じています。女性が努力して男性と対等に、平等になるうとするのではなく、男性が色々な場面で協力してくれることが重要になってくると思うので、むしろ男性向けに指導をお願いしたいです。育児や、子どもの教育、介護や地域活動に男性が参加できるように、仕事での拘束時間を短縮できるような対策を考えてほしい。
女性	30歳～34歳	家事専業者	ただただ女性が、出て行けるのではなく、そうするまでに必要な環境が作れるような社会にしてほしい。育児や動物のめんどろ、家族のめんどろなど、出たくても出れないことが多いと思う。
女性	30歳～34歳	家事専業者	男女共同参画について市が行っている現状をあまり知らない事に気づきました。女性の人権が守られる事は良い事と思います。活動内容の提供がもっとされれば良いと思います。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	「男女共同参画」社会とは、男女それぞれの違いをお互いが理解した上で、仕事でも家庭でも個人でもあり、心豊かに生活できる社会であると考えています。単に、女性の権利向上だけでは達成できないと思うので、時代に合ったあるいは、未来にどのようなことを期待するかにより、柔軟的に施策を実施していくべきです。抽象的ですが、期待しております。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	育休が取得可能な恵まれた環境にありますが、復帰後の育児・家庭・仕事の両立には正直不安があります。労働時間短縮制度があっても、実際使っている人は冷たい目でみられています。その様な思いまでして働くというのは本当に大変です。女性だけがなぜそのような思いをしなければならないのでしょうか。アンケートが活かされる事を望みます。乱文失礼しました。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	子育て中の母です。法整備だけでなく、父親自身も周囲（職場等）に働きかけていかないと状況は変わらないと思います。自分だけ早く帰れないなど、残業が常態化している職場が多いと感じますが、上司や先輩が時間内に効率よく仕事をこなし、退社するモデルになってくれるとありがたいです。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	昨年もこのアンケートに答えましたが、なかなかこのアンケートがどのように活かされているのか分かりません。少しずつでも市民に分かる形で、男女共同参画社会施策を進めてほしいと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	私は今、五人の子どもがいます。今年の6月に5番目が生まれて、11月から職場復帰します。男女共同参画とは関係が無くなってしましますが、やっぱり赤ちゃんは、お母さんが育てて、お父さんがしっかり働いてくれた方が私は安心です。一応私は今の職場で産休をいただいています。ですが、パートだと（4番目の時）産休が無く、福利厚生もなく、保障が無いので、確かに社会に対して不満がありました。子どもをせめて保育園に通えるぐらいまでは家で育児をしたいなと思って、実際は経済的にも厳しく、私も働かざるをえない状況です。なので、パートの人でも安心して育児が出来る法律制度が出来たらと思います。それには、女性（子育てした事がある）が、政治の方に活躍しないと、男性じゃ分らないから、子育てが良くなれないと思います。今年から扶養控除が無くなって、市県民税が大幅に増え、説明が「子ども手当、それ以上もらっているから」的な事を言われましたが、そういう事があるから、母親が家計を助けるために働いているのに、その積み重ねが、子どもと母親を離してるんじゃないかと思えます。うちは、DVじゃないけど、やはり避妊を嫌がります。女性が避妊手術は、費用も体の負担もかかるとお医者さんが言っていました。男性がパイプカットした方が、費用も体の負担も少ないと言うので、市でも国でも、3人以上子どもがいるうちは、補助して、避妊の仕方どうか考えてほしいです。不妊治療も大事ですが、避妊の方も具体的な治療を進めて下さい。墮胎なんて考えるのもつらいですから。女性も政治にもっと活躍できるのを祈っています。今回選んでいただいたので、意見が記入できました。ありがとうございました。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	現在の生活の中で、女性が男性より低く扱われていると思うことは特にありません。ただ、子育て、介護、地域活動（祭り、よりあい、草むしり）などは、「男性＝仕事、女性＝家庭を守る」といった考えにとらわれ、妻にまかせっきりの男性が多いことは確かです。女性が積極的に社会に出るには、①子どもを安く預かってくれる場所②単時間のパートでも雇用してくれるような職場③互いの情報交換など、意見を言える場所が必要だと思います。いきなり法を見直せとか、公の場にたくさん参加しろとか言わず、一般的な生活レベルの所から徐々に改善していくといいと思います。とにかく子が育てやすい環境、それを助ける支援を希望します。1人を育てるのにお金と手間がかかりすぎる世の中で、女性が活躍する以前の問題です。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	個人的には男性は外で働き、女性は子どものそばにいるのが望ましいと思う。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	育児や家事は、男性はしなくてもいいというまわりの目がとてもあると思う。夫にやらせている嫁は・・・と思っている人が多い。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	以前に働いていた病院で、子どもの発熱のため休みをもらった所、その事を理由に正社員からパートになるよう言われた。結局やめる事になりましたが、未だに子育てをしながら働いている女性の立場は弱いものだと痛感しくやしかったです。男性もそうですが、子育てのしやすい社会に早くなってほしいです。小さな子どもがいる女性でも働きやすい社会を！！
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	小さな子どもを持つ女性の職場からの対応が冷たい。仕事も女性がやめざるをえない状況にある。どんな仕事の形態（パートや嘱託）でも、同じ子どもを持っているのだから、福利厚生は平等にすべきだと強く思います。これは介護に関しても言える事です。パートや嘱託なら、家に入って子育て介護すればいいという考えの人がいましたが、生活する為にどうしても働きに出ないとならない状況の人もいるのです。こういったアンケートを毎年やっているようですが、未だに改善などされていない！公費のムダと言ってもいいのではないですか？形だけのアンケートなのでは？

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	家事専業者	子どもがいるとなかなか自由に歩けない。預けるのもお金がかかるし、場所も少ない。じゃんけんぼんのような子どもを遊ばせる場所を増やしてほしい。少額で預けられる場も増やしてほしい。今もとなりで子どもが大声で泣き、このアンケートを投げずてしています。子どもは可愛いですが、毎日これで子どもの相手だけで一日が終わります。あと、去年もこのアンケートがきました。本当に抽選ですか？去年と一緒じゃないですか？
女性	35歳～39歳	家事専業者	今まで昇進や昇格を求めてこなかったのも、男女の違いによる不満は特に感じた事はありません。むしろ、全く同じ条件になった時に就労条件が厳しくなるのではないかと不安に感じます。女性が政策・方針決定の場にもう少し増えた方がいいと思うのですが、国会議員でも女性議員は残念な方が多いので増やすべき！とは言いたくないです。自分が考える女性の意見とはかけ離れている。理性的でないなど。
女性	35歳～39歳	無職	まず、政治家・行政の古い考え方を変えなければ、何も改善しないし、政治の世界も、男女うんぬんよりも、定年制をつけて、もっと若い世代が活躍出来るようにしないと考え方が古すぎたまま、何も変わらない。女性が仕事につくのは悪い事ではないが、育児中に仕事をする家事・育児がおろそかになり、今問題である食育が、ますます悪化していく、いくら夫が協力しても母親にしか出来ない事もある。なので子どもが産まれるまではバリバリ仕事をして、子どもが産まれて4才頃までは、きちんと家庭で育児が出来る環境を整える必要がある。正社員で妊娠・出産した場合、本人が希望すればきちんと復帰でき、子育ても出来るように、3年間は必ず育休がとれて、小学校に入学までは時短勤務が出来るよう徹底していかないと何も変わらない。男は仕事・女性は家庭も大切でも、男性の収入が低く、女性が働かざるをえない場合も多い。女性が家庭を守り、子どもを育てられるように、男性社員の所得の安定も必要。女性が育児中に、社会復帰する事で、子どもがさみしい思いをし、甘えたい時に甘えられない事で、将来少年犯罪がますます増加していくと思う。園に上がり、小学校入学する様になればイヤでも親から離れていく。それまでの間は、母親がおもいっきり育児できる様にすべてが変わらないといけない。年配の男性だけでは知識ばかりがあっても全くわからない事が多いので、行政も若い男女との世代交代が必要。とにかく、行政が変わってもらい必要がある！！DV、児童虐待がなくなる様な社会をつくってほしいです。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	遺族年金、遺族基礎年金、寡婦年金それぞれ支給要件が決まっていますが、基本どの年金をとっても、父（夫）が残された場合は支給がなかったり、併給調整ということで年金との調整が行われ、結果的に支給されないなど、法的にまだまだ昔の名残り、女性優位という部分が感じられる。正直、まだ小学生の子を持つ親として、もし万が一、自分が亡くなった場合を考えると、上記の法を尊重して欲しいと感じられるが、単身の方など、家族構成によってもやはり考え方は変わってくるのではないかと思います。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	男性が育児休業などをするのは、職場の事や自分自身のことを考えると非常にハードルが高い。例えば「男性育休取得率〇%以上」の企業にインセンティブを与えるなどの施策があるといいきっかけになるのではないかと。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	女性に対する支援も重要ですが、男性に対しても配慮が必要。例えば、園児がいた場合、女性は定時当たり前だが、男性は残業当たり前です。これでは、女性「子育て」的になるのは仕方ない。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	35歳～39歳	正規雇用者	人には個性差が歴然とあります。もちろん男女もそうです。その個性独自の役割というものもあると思いますし、これを無視することはできないと考えます。日本国内では、欧米化が進み、日本の持つ歴史や風土などが軽視されているのではないのでしょうか。男女がそれぞれ得意とするものを伸ばし、苦手なものをフォローしあえるようになれる社会が必要では？女性の社会進出はすばらしい事であると同時に、日本らしさ（父親が稼ぎ、母親が子ども達の世話や家庭を守る）を、忘れないよう自治体にはお願いしたい。「ALWAYS 三丁目の夕日」という映画があります。時代背景は違いますが、改めて考えさせられる内容です。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	アンケートに答えさせて頂きましたが、「男女共同参画」の具体的な取り組みをほとんど把握していない状況です。このことをより知ることのできる広告、周知活動があれば良いと思います。まずは、多くの人に意識させ、考えさせるところまで持っていくことが大切だと思います。
男性	35歳～39歳	非正規雇用者	「共同参画」という表現は聞こえはいいが、片や「女性専用車両」に始まる女性専用サービスが主張されすぎていると思われる。「専用」を唱ってしまった時点で共同ではない。育児については、十月十日寄り添う女性の方が先天的な潜在能力の優位さを感じるし、人生のその時その時に応じた変化に対応できるのも女性の方が優れていると思う。この生活スタイルの延長で、地域活動などは女性のコミュニティの方が横の繋がりが確立されていると思われ、ポジティブアクションにて改善すべきである。地域別運動会などは、各小学校行事と合併するなどした方がよい。特定種目に興味がある子どもたちの参加は難しく、40年同じ仕事をした男性に改革を求めても、慣習が勝ってしまうだろう。団塊の世代とは根本的に社会が変わっている。若い世代と子育てのしやすい社会整備が、政治改革とともに進み、各問題に直面している現役世代により解決されていく世の中になることを祈る。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	男女対等・平等はよくきく話ですが、私自身不平等で困ったことがあります。むしろ女性だから転勤せずにすんだことでもあります。男性と全て同じがいいとは思いません。私の勤める会社は育児（2回取得）・介護休暇、短時間勤務（実施中）・生理休暇（取得したことはありません）など、女性だから取得しやすいことでもあります。男性でも育児休暇など取得したいのに取得できないのか、女性でも取得する必要がないのか、結局のところ男・女ではなく個人だと思います。女性に不利な法律や制度とは具体的にどのようなことですか？マタニティマーク（専用駐車場）はほとんど使用していませんでしたが、良いと思います。男性と同じ条件で働きたい女性、子育て中心で働く人、女性と同じ条件でも子育て中心で働きたい男性などが居るように制度も多様化するべきだと思います。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	いつ頃この結果がどのように出されるのか明記してほしかった。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	今回のアンケートが届くまで、「男女共同参画」という言葉は全く知りませんでした。相談、支援センターも知らない窓口が数多くあり、実際相談する時困ってしまうのではないかと思います。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	たいへん多忙でまさに、「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」のバランスも難しい日々を送る中、8枚にも及ぶこのアンケートに回答する時間を作る事もしんどいほどでした。ゆうべ、一昨日とAM3時までかかって子どもの図書袋を作成していた為、特に・・・夫には頼めない仕事のひとつです。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	「男女共同参画」となれば一番良いかと思いますが、実際子どもが小さかったりすると、何もかも同等というのは無理があると思います。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	特に女性ももっと社会に進出すべきとはあまり思わない。身近にいる女性は、中途半端な仕事の仕方、何かあれば家庭や子育てを理由に言い訳をするような方が多いので、余計そう思うのかもしれない。



性別	年齢	職業	記入内容
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	年配の重役についている方に、女性への軽視した態度や言葉の発言などが見られた時に男女平等な社会ではないと思ってしまう。男女の役割が違う事を認め合う中でそれぞれの立場を尊重できる社会が基本だと思う。意識改革が必要なのでは・・・。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	中・高生が居る家庭は、主人の給料から引かれる税金が多すぎて、部活動や塾にかかる費用が足りない為。女性は睡眠時間を削ってまで家事、子どもの送迎、仕事をしているので私は、そのせいで昨年から体調を崩し、病院へ通院しながらも働かざるを得ないのが現状です。職場では、当日欠勤の連絡をすると、給料から罰金として1回につき1000円引かれてしまったり、ガソリン代も1/4しかもらえなくて、ほぼ自己負担で「それが嫌なら代わりの者はいくらでも居るから辞めて下さい」と言われます。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	なかなか難しい問題だと思います。なぜなら、女性は出産の後も授乳など女性にしかできない事がたくさんあるからです。男性の育児休暇が認められたとはいえまだまだ取りにくい環境にあり、子育て中も仕事を休んで通院や、参観日に行くお父さんはほとんどいません。企業も上司は世代が違い、男性が育児休暇を取る事に理解を示す姿勢は見られないと聞きます。それだけではなく、家事全般を奥さんに任せきりの男性がほとんどだと思います。子育て中の母親が一番望んでいるのは、子どもにかかりきりで家事が思うように進まない時、さりげなく手伝い率先して雑用を引き受けてくれるパートナーの存在です。更に、地域の中でそれができるようになると、良い社会になると思います。これからの教育の中では家庭の雑用を教えて、男女関係なく掃除料理etc1人で何なくこなせること、女性の出産の大変さをもっと学ぶべきだと思います。まだ日本はかなり遅れていると思います。
女性	40歳～44歳	家事専業者	男性も育児休業が取れやすい職場が増えればよいと思います。法律ではよくても、実際に取れている企業が少ないと思います。高齢者の家庭では、介護を娘さんが介護者になっているお宅が多いのですが、男性も介護が安心してできる社会にできればと思います。（例介護休業法の制定とか）ができればよいと思います。
女性	40歳～44歳	家事専業者	この様な事に税金が使われているのかと思うと、他にもっとやって欲しい事があるなあと感じてしまった。それをふまえて、この参画を考えると、育児、介護される側ではなく、する側の大変な現状を知り、保障・補償して欲しいと思います。育児・介護により働きたくても働けない男女が沢山います！！
女性	40歳～44歳	家事専業者	出産育児休暇をへて、仕事に復帰しましたが、職場での子育てしながらの仕事をしている大変さの理解不足（人間関係がギクシャク）と、主人の非協力（育児、家事を手伝えない労働時間と性格）で結局、私自身体調をこわし、今、休職しています。（復帰は厳しいと考えています）。今考えてみると、育児しながら子育てするには、職場の理解が必要だし（私、夫の職場共々）、何よりも夫の支えが必要だったと思います。でも、性格的に妻が大変でも動かないタイプ。これは主人の母親の子育てにさかのぼると思うと、今現在子育てしている親御さんたちへの男女平等の理念を伝えつつ、子育ての中で未来の”親”になるべく今の子どもの将来の姿を見据えた子育てをしていくことが、大切なのかと思います。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	男女共同参画の定義は難しいことだと思う。理想かも知れないが、皆の意識がどれだけそれを求めているのか疑問。女性の中にも「私は女性だから」という意識が強くある。でもそれは悪いことではないと考える。それぞれのポジションでしっかりとやっていけばよい。我が家はそれぞれが役割を認識しとてもうまくいっている。もちろんそういう女性を選んだから。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	40歳～44歳	正規雇用者	現在、住民自治協議会の理事として参加していますが、その役職の決定の仕方強制であり、自分（家族含）の意志ではありません。社会参加を促すにしても、このような事ではダメだと思います。それに、住民自治の名のもとに、本来の市の行政が行うべき事柄を丸投げしているように感じています。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	独身の為、現実をよく理解できていない面がありますが、もっと穏やかな社会になれば良いと思います。
男性	40歳～44歳	無職	是非とももっと公の場で討論すべきである。各地区で。
男性	40歳～44歳	その他	①問17に補足します。問17の設問10、11についてだが、当時の恋人が結婚をあせっていたのか、性行為を避妊なしで強要される事が数回あった。女性からこういう事をされるとは思っていなかったので、少し驚いた記憶がある（その方とはすぐに別れたが）。②問20に補足します。回答は5にした。だが、議員の数、役員の数、共に増えた方がいいと思う。ただ、女性の方で尻込みしてしまう方も少しはいるのではないかと、思う。積極的に参加する女性が増えるのならば、議員も役員も女性の割合が多くなるのはいいだろう。ただ、引っ込んでしまう方を無理に引っ張り出し、担ぎ出すのもどうか？と思い、回答は5にさせていただきました。
女性	45歳～49歳	自営業（農・林・漁業以外）	現在、男女平等と大人は騒いでいますが、子ども達にとっては、男女平等の親は必要ではないと思います。昔のように、男性が強すぎるのも良くありませんが、父親を父親と教えない母親は、将来、子どもにバカにされているのが現状です。今の子どもに必要なのは、一家の主は、だれかと言う事を教えるべきではないでしょうか。社会と家庭は違うので、社会での男女平等はOKですが、家庭内の平等は必要ないと思いますヨ。家のように、年寄り、私達、息子夫婦、孫、息子兄弟は現在仲良く過ごしています。
女性	45歳～49歳	会社役員・経営者	「男女共同参画」とは“建前”、“便宜上”になっているのではありませんか？実際の中身はどうなのでしょう。個人の尊厳あつての共同参画でなければ。
女性	45歳～49歳	会社役員・経営者	男女が何から何まで平等というのは、少し私の考えとは合いません。男女それぞれ向き、不向きはあると思います。ただ、それを男だから女だからと決めてしまうのは違うと思う。男性でも主夫が向いている人もいれば、いろいろなので。そういう意味での男女平等は賛成です。
女性	45歳～49歳	会社役員・経営者	もっと表に出てください、誰もが皆「男女」の存在がわかる様な活動をして下さい。私は離婚して13年一人で三人の子どもを育て昼・夜働いてきました。長野は知らない土地でしたので淋しくすごすこともありました。今は大丈夫ですが・・・何かその時利用出来る場所などが身近にあれば良かったとこのアンケートを通じ感じました。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	育児や介護をしやすい社会を作り、女性が仕事と家庭の両立ができるようにしてほしい。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	企業のトップの中には、まだ女性は子どもができれば職業をやめ、育児をするべきだと考えている人が意外に多いので、是非現在に企業の現状のアンケートをとっていただきたいと思います。また、社長さん個人の考え方のアンケートをとっていただくともっとわかりやすいと思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	女性だけ離婚後半年間、他の人と入籍できないのはおかしい。（妊娠してないとわかった時点で入籍可能にするべき）。配偶者以外の人の子どもを妊娠しても法律上配偶者の実子扱いになるのはおかしい。（DNA鑑定やら裁判やら大変な事をしなくても夫婦間性行為が無ければ配偶者の子どもではない）こんな風に30代の頃思いました。今は40歳過ぎたのでもう関係ないですけど。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	男性だけでは世の中が成り立たない。偏見社会だと思ふ。能力は男女共差が無いと思いますが、男性優位が根付いており、それを変えて行かないと日本は崩れてしまう恐れがあると思う。歴史上の有名な女性を見れば、名が残る程すばらしい能力があつたに違いないと思います。
女性	45歳～49歳	家事専業者	男女共同参画には、育ってきた環境も少なからず、影響していると思います。そしてTVも。女性がどんどん社会に出て重要なポストにつくのは、とてもうれしく思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	45歳～49歳	家事専業者	自治会などでは「他の所は（地区）、女性の区長さんが出ているので、ぜひ女性も参加を」とは言っていますが、実際地区の役員になると「本当はその家の「家長」が役員になるべき」と、上の方の役員さんは言われます。それが筋なのかもしれないのですが、矛盾を感じることはあります（やはり女性はそういう所に出て行っても男性より下に見られたり、とらえている方がいるのだらうなと思います）。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	男女を問わず、各自の事情を反映した働き方が許容されるようになると良い。「男女共同参画」という言葉は初めて知った。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	性的に役割が違うことで家庭内では役割が違ってくることは当たり前のこと。しかし社会では平等でありたいものだ。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	「男女共同」とは「男女平等」ではない、という事を理解している人がどのくらいいるか？性差は間違いなく存在します。だからこそ共同が大事だと思います。根本は人生パートナー同士の理解であって、そこから少しずつ社会に浸透していく。時間はかかりますが、これが一番だと思います。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	頼り合うという関係ではなく、互いに自立し、頼らないという関係ができないと共同参画は実現できないと思う。まず、自立した生き方ができる人間づくりをお願いしたい。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	公官庁に於いては、女性部、課長さんもおられて、企画会議等共に参加し、ご趣旨の共同参画社会の実現の為に、ご努力と結果を出されて或る程度の目的を達成を拝見されますが、私達の実社会ではまだまだ女性が起業された会社以外では、責任を取れる男性が主体です。世界各国の首脳も女性より男性が主体として、世界の経済から国政を動かしていると思受けられますが、この様な現状を唱える共同参画計画実現にはまだまだ程遠く感じられますが、到着点はあるのでしょうか。程々の処で妥協点はないのでしょうか。懸念しております。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	共同参画していくために・・・一つの例として、法律や制度が見直されても、実際育児休業等をとった人を間近でみたことがない（30歳以降常に30人以下の企業に勤務のため）。やはり実行しないと（つまり実際に育児休暇をとらないと）罰則又は、企業が不利になるといった条件まで整わないと、進んでいかないとつくづく我が身の過去20年をふり返って思います。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	「男女共同参画」について、もっと具体的な説明が聞きたいです。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	男女共同参画…難しいと思います。時代の流れで、女性も管理職に就くようになり、これからも女性が色々な面で活躍ができるようになればと思います。能力があるのに、結婚、子育てなどで、やはり女性は大変です。
女性	50歳～54歳	家事専業者	社会や企業はある程度やっているといます。子どもの教育、しつけの問題だと思います。女が楽をしようとして子どもも産まず産んだ子どものしつけも満足にせずに学校のせいにする。それを男がめんどくさいからと甘やかす。日本は中国に食われてしまう。将来が心配です。まず、自らの義務を果たしてから権利を・・・お願いしたいところです。
男性	50歳～54歳	自由業	高齢者になるにつれて、女性の人口が多いので、年齢別の対人口比でお役所に関係する機関の役員を選んでもらえば、女性の比率は高くなる。いつまでもおじいちゃんたちにかんばってもらわなくても良い。ただし、現状の問題は政治家が役員の意で働いていることである。その体質は、明治以降変わっていない。この体質が変われば、男女共同参画などと言わなくても、男女が力を合わせ良い国を作れると思う。国の枢が、正されれば、つまらない差別も無くなる。恩田奎のような「うそをつかない」政治家とそれを正確に実施してくれる役人が求められる。
男性	50歳～54歳	会社役員・経営者	日本の社会には必要ありません。
男性	50歳～54歳	会社役員・経営者	地方は都会に比べ、行動が遅れがちであると思う。長野市は松本市と比較しても、文化、スポーツなども劣っており、男尊女卑の考えも未だに北信地方には強く残っていると思う。都会の人が松本、安曇野に移住したがるのに、長野は少ないと聞く。その辺の改善が必要だと考える。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	50歳～54歳	正規雇用者	仕組みと意識の両面から対応することが必要だと思います。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	男性でも一人での生活の相談をしていただければと思います。企業レベルでの研修等を行ったら認知されるのではないのでしょうか？
男性	50歳～54歳	正規雇用者	日本社会の中では男性優位の慣習が存在しています。若年層の意識改革は図れていると感じますが、制度的な面では自然と男性優位となっております。よって学校教育と共に制度設計も新しく改善をしてそれを常に広報し続ける事が重要と思われれます。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	女性の意識の変革と社会進出。男性の意識改革。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	このアンケートは女性が社会に参画できていない事が前提ですね。能力ある女性はどんどん社会の中で活躍したら良いのでは。それを止める人はいないと思います。今はただ、女性にしかできない事もあると思いますし、男性の方が向いている仕事もある。女が男の様に働く必要はまったくなく、それぞれ個々人の特性を生かし、社会に貢献（人の為に働く）しようとする事が大切ですね。「部落差別を無くそう」という看板を見た子どもが「何？」と親に聞く。すると親はそれを説明し、子どもは部落差別を知る・・・。部落差別はいつまでも続いて行く。要はケースにより対応はちがう。男女というくくりで社会を見ない方が良いと思う。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	長野市では、もっと積極的に推進していただきたい。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	仕事で第一庁舎2Fの「男女共同参画推進課」を通る事がありますが、年配の男性職員の方の姿を見かけることが多いような気がします。女性が生き生きと輝いて仕事をしているような雰囲気ではないようですが、「先ず臆より始めよ」ではないのでしょうか。
男性	50歳～54歳	その他	男性から見て、女性の意識改革も必要だと思う。「子どものこと」「家事のこと」と言えば逃げれる感がある→これは男性から見て一方的な考え。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	問9、問10、12に関してですが、「地域活動と個人の生活」はそれぞれ切り離すべきだと思います。「男女共同参画」という言葉が、皆に伝達されていないと思います。他の地域と比べ、長野市は遅れている様に思われます。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	男と女では、体の作りも違うし、特性も違うので、平等にされて困る面もあると思うので、賛成して良いのか迷う。女性が働き続けるのに優しい環境を作してほしい。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	この件について、考えている女性はごく一部の方たちではないかと感じます。社会の動向に興味のある女性が少ない（特に若い世代）と思います。男性の特性、女性の特性を十分に生かせるよう、個々を支え合える人間を育てなければ始まらない気がします。男女共、信念を貫くためには自己犠牲も覚悟しなくてはならないと思います。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	今まで男性社会であった考え方が、女性の参加により少しずつ見直されている所が見られるようになった。このような考え方がある事を常に声に出していく事ではないかと思えます。子育ての中心はやはり女性が主です。その女性（女子）がしっかりとした教育を受けないと、次の世代の子ども達が心配です。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	職場における男女の平等というのは耳には聞こえいいのですが、実際は女性の負担が増し、家庭では育児・家事・介護はやはり女性の仕事のままになってしまう。自分の職場を見ても若い女性はほとんどがパート、派遣、若い男性も正社員とはいえ、安い賃金で働かされています。もっと高卒、大卒時で一度はきちんと正社員として就職し働き続けられる社会になっていかないと、日本と言う国が無くなる気がする。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	男女平等とは言っても、体格（体力）の差はあります。できる事とできない事には違いがあります。
女性	55歳～59歳	家事専業者	こうしたアンケートを繰り返し行うことも良いと思う。考える機会になるし、意識改革が進むと思う。現状を「当たり前」と思いこんで、あきらめていること（人）も多々有ると思うから。子育てをしながら社会に参加して、自分の意見が発表できるような社会、家庭を築くことが、男女共同の社会に近づくとと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	55歳～59歳	家事専業者	自分にはあまり感心のない事だったので、少し難しい事でしたが男女平等は普通の事と思っていましたが、こんなにいろいろな事に対してなのかという事がわかり勉強になりました。
女性	55歳～59歳	家事専業者	仕事をしたいと思っても、保育してくれるところが少ない。また、子どもの手が離れても今度は年齢制限にひっかかる・・・結婚して一度、仕事を離れると、その後ずっとパートかアルバイトでしか働けない状態が少しでも改善されればと思います。私は来年60才になりますが、体も心もとても元気だと自分では思っています。しかし、年令を言っただけで、パートの面接も受けさせてくれない所もあります。男性もそうだと思います。若い方々の為だけの「男女共同参画」事業でないことを願っています。
女性	55歳～59歳	家事専業者	時代の流れの中で、随分男女間の意識の差は縮まってきている様に思います。社会全体の意識、個人の意識、体現的な役割、様々に行政の取り組みの大切さを感じます。とりわけ、人口減少のこれからの社会は男女を問わず、幅広く社会の役割、個々人の役割を担っていく時代を迎えて、その役割は要の位置です。地道な働きですが、どうぞこれからの人達の為をお願いを致します。
女性	55歳～59歳	家事専業者	もともと男性と女性の特性は異なるものなので、完全に平等な扱いをすると、互いにつらくなると思う。それぞれの特性を考慮に入れた改善が良いと思う。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	男女平等は理解できるが、役割が微妙に違うところは否めない。その辺をどうとらえ考えていくのか。審議会委員の増員は望む所だが、女性自身がもっと積極的に参加する意欲が最も大事な事。
男性	55歳～59歳	無職	男女平等の考え方は良いと思う。しかし、女性の場合、視野や考え方の偏見等、大きな目を持つように考える人を増やすことも考えると、更に有意義に思われます。
女性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業）	人間は本来、男性には男性しか持ち合わせない力（能力など）行動又は決断力（現代の男性には少なくなった感有）女性には女性にしか持ち合わせない本能（母性）・判断力があります。各自が人間として男性であり、女性である事をしっかり認識しながら、それぞれの立場でいろいろな分野に参画していけたらいいかなと思っている。
女性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業以外）	男女である前に、人であるべきだと思う。その上で、男・女の役が決まるのだと思います。人であるかぎり、男女の差はなく、個々の人々が適した役に付ければ、もっと世の中の差は、なくなるのだと思います。そして、嫁だから、使用人だから・・・。個定の感覚が、ゆるやかになるともっと良くなる。個人を大切にしてほしいと思っています。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	長野市がこのような課を設け活動している事を今まで知りませんでした。まず、目的を周知してもらえよう”男女共同参画”という言葉をもっとアピールする必要があると思います。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	男性が気楽に育児介護休暇を取る事が出来るように、社会がかえて行く。男は仕事、女は家庭ではなく、共同して生活していく世の中にしていくことが重要。企業も女性が子育てしている間は休職してまた再び、働くようにしてもらいたい。企業職場の改革が必要で国が指導していくことを望みます。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	民間の職場でも、一日も早く収入の差がなくなる社会であってほしいと思います。
女性	60歳～64歳	家事専業者	聞いたこともないので、良く分からない。
女性	60歳～64歳	家事専業者	男女共同参画の推進により、女性の管理職等も少しずつ増えてきており、女性の職業が生のものになっていく人達がいる一方で、若い人達の就職が不安定で、気の毒な感じでもあります。正社員の方が育休等を使ってお休みの間だけの非正規の女子社員は一生非正規のままという現実のようです。陽のあたる部分と、影の部分両面で女性が幸せな社会生活を送れるよう願っております。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60歳～64歳	家事専業者	学校教育において、男女の差はありません。努力する者が成績も良いはずですが、世の中はそうではありません。昔ほどではないにしても、男社会であると思います。日本は他国に類をみないほどの人口減少が目の前にきております。優秀な女性の力を役に立て、他国に負けない国作りをする為にも、教育に税金を使い、これからの子ども若者を育てて下さい。そうでないと大変な事になると思います。介護には、元気な老人に手伝いをしていただき、若者には未来のある仕事についてもらう様にして下さい。元気な年寄りはこちらからたくさん増えてきますので（私も含め）。
女性	60歳～64歳	家事専業者	男女平等の名の元に、女性を男性並びに働く事が強いられている。生命を産む女性としての社会的尊重が法律できちんと整備されなくては、本当の共同参画とは思えない。個人の問題でなく女性が安心して子どもを生み、育てられる社会がほしい。
女性	60歳～64歳	家事専業者	息子夫婦が東京で共働きをしています。4才と5才の子どもをかかえ、保育所に通わせながら頑張っていますが、本当に大変です。女性の能力を生かすために、男女共同参画の推進をぜひお願いいたします。保育所だけでなく、緊急の場合、保育所の前後の時間など、子どもを安全に見てくれる所や人が不可欠です。子どもを育てやすい社会に、男性も家事、育児、介護ができる社会、女性が能力を生かせる社会になってほしいと心から思います。
女性	60歳～64歳	無職	男女共同参画も大事だと思います。今の世の現状において、いじめ、自殺が多くなって来ている様に思います。私個人的に思いますが、子育ての時は母親がしっかり子どもさんに愛情をそそぎさびしさのない子どもに育てあげた後、女性が社会に出てバリバリ働ける様な社会になってほしいと思います。
女性	60歳～64歳	無職	いろいろ経験して来た人や、意識の高い人を発掘して、市の各種企画に参加してもらうことが必要かと思えます。男女関係なく、意識の高い人、低い人はいるので、そこをよく見極めて、積極的に参画してもらい、知恵を出し合う事。現状で満足している人も沢山います。そこをいくらつついてもあまり意味は無いと思います。
男性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業）	ある程度、強制的に女性の登用などをしないと進まないと思います。
男性	60歳～64歳	会社役員・経営者	男女は平等であるにしても、体力、能力は違いもあります。しかし、ひ弱な男よりたくましい女もあり、いちがいに言えないところもある。男・女と考えるより人間と考えると、差別ではなく区別になり、その人その人の良さが生かされる。我が妻は、口も体も達者だが、強そうに見えて弱いところもある。仕事は子どもを抱えながらこなし、男勝りだが、ヒステリーなどところもある。近所には働かず、迷惑な男もいるし、意地悪な女もいる。男と女の差では無く、人間としての格だと思えます。
男性	60歳～64歳	会社役員・経営者	企画倒れにならぬ様、アンケート調査が充分に生かされる様、実行に移していただきたい。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	男女全て対等の仕事を求めない。それぞれの特性を尊重し活用等を図る事が主眼。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	民間企業では、女性の産休育休などは、経営上厳しいものがあり建て前の現実は、差が大きい。根本的な施策がない限り、仕事の面で差がつけざるを得ない。又女性自身ももっと、地域や社会に出ていくことが必要と考えます。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	行政で男女共同参画政策推進活動を行っても、市民自らが積極的に広報啓発を見たり聞いたり、参加意識がないと浸透しません。市民には関心のない人達が多く見受けられこの人達をいかに意識付けしていくかが課題だと思います。行政機関や、大手企業等に勤務している人は職場での啓発活動を受けていますが、商店・農業など個人経営者はどうしても意識が薄くなりがちです。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	男と女は同権であるが、同格ではない。子どもが家に学校から戻って、おやつを作ってもらうのは母親がよいか、父親がよいか。一般的には母親です。男女平等に固執するのは無理がある。自然に逆らわない事です。世の中、男に有利になっているわけではない。女の方が人生ということからは有利になっていると思う。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	昨年定年を期にIターンで長野に居を構えました。大岡という中山間地は風光明媚な場所ですが、市町村合併以来長野市となり、行政の低下となったと聞いています。長野市自体広すぎて、旧長野市中心の行政となっているように感じます。男女共同参画についても、言うは易く行うは難い問題だと思います。十分に検討する事は勿論ですが、早期に立ち上げられると同時に、市民全員に周知できるよう御配慮願います。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	どのような場でも男女それぞれの適正が生かされるべきだと思う。
男性	60歳～64歳	無職	男女それぞれの特性を生かした「男女共同参画」事業であってほしいと思います。
女性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業以外）	男女共同参画を間違えて利用しない様にしてほしい。女性は女性として、男性にはかなわない事がまだまだある。（性適に仕方ない事）同等にと考えるのはおかしい。女性にしか出来ない事をしっかりと行い、お互いに認め合う方がよい。その為の事業を発展してほしい。男女共同参画という言葉だけが一人歩きし、それにしがみつくなのと思う。
女性	65歳～69歳	家事専業者	大台的に最内容等をチラシや市報などでわかりやすくして配ってほしいです。この年令の私達には、もう遅いのですがこれからの若者頑張してほしいです。
女性	65歳～69歳	家事専業者	この世の中に男性と女性がいて、本質的に違うこと認識しなければならぬと思います。平等なのは当然ですが、理性、感性などを特徴を生かす事は自然の成り立ちです。一部逆転や個性の豊かな特長を伸ばしていける人々もいます。色んな人々がいて平等です。個性を尊重して共にお互いの為に。
女性	65歳～69歳	家事専業者	男性・女性との区別でなく、各々が本来持っている特性が生かされる社会でありたい。例、子育てについても、接する時間は母親の方が多いため、小さな変化や、子どもが発するサインは母親の方がわかると思うが、どの様に育てたいとか、どんな事を与えたいとかの事は、父親の方がわかる様と思う。
女性	65歳～69歳	家事専業者	こういうものが有るとい事があまり知らされていない気がする。私の勉強不足でしたら申し訳ありませんが、一般に広く行きわたる様に情報を流していただきたいと思います。特に問題となって相談できる場があっても、利用できないようでは価値がないと思いますので、どうぞ御検討して下さい。
女性	65歳～69歳	家事専業者	世代が旧いので、世の中の流れに沿って過ぎてきました。アンケートで改めてこれで良かったのかと自分自身に問いかけました。テーマと少しずれますが、若い世代が希望を持てる世の中になってほしいです。それでこそ男女ではなく、人間として互いに思いやれる世の中になっていくのではないでしょう。
女性	65歳～69歳	家事専業者	能力のある女性には、社会に出て大いに力を発揮してもらいたい。
女性	65歳～69歳	無職	仕事優先で生きてきて、退職後は家庭優先で、地域活動に参加したり、今は自由な生活です。これから直面するであろう介護生活がどうなるのか、とても心配です。
女性	65歳～69歳	無職	このような会が、未永く発展されるよう希望いたします。お体を大切に御活躍下さい。できれば私も参加したい。
女性	65歳～69歳	無職	女性の持てる能力を引き出す場をつくる努力が必要だと思います。一線でがんばりたいと思っている女性が居る芽をつみとらないよう対等の社会をつくって下さい。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業）	私は秋には古希を迎えます。自分の姿は固定されています。「男は男らしく、女は女らしく」？を基本に考えてきました。今更その型を変える事は無理です。即ちどんな時も自分が「責任」と「義務」を果たす。そのことが基本的な生き方かと思えます。しかし、今回のこのアンケートを書く機会に当たり、なにか社会の動き潮流を少し肌で感じました。男であれ女であれ物事に「ピリット」した姿に懂れます。社会全体が温い感じがしてなりません。平和で「心の豊かな」「思いやり」のある社会を望みます。担当者のみなさんごくろうさんです。
男性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業以外）	社会的には法律や制度の見直し、男女平等の教育（学校・社会等で）家庭においては、夫婦のコミュニケーションが男女共同参画の向上には大切なことと思えます。平和で幸福な社会を築くには、女性・子ども・老人の3種の弱者を無くすことだと思えます。女性が幸福である社会は男性も幸福ですし、子どもの環境が良いと良い社会人が育つと思えます。老人が幸福な社会は、働く者にとっても希望の光です。現在、先の見通しや希望を持ってないのは、年金の問題にしても確立されたものがないからだと思えます。男女共同にして平和で豊かな社会を築くためにがんばりましょう。
男性	65歳～69歳	会社役員・経営者	大変勉強になりました。これからも勉強の内での勉強していきたい。ご苦勞様です。お身体に気を付けてお仕事にガンバッテ下さい。
男性	65歳～69歳	無職	小学生よりの道徳教育を徹底する必要が有ると思えます。
男性	65歳～69歳	無職	実際の社会の中での仕事や活動において、男だからとか女だからとか性別によるちがいがいなどないにもかかわらず、男優位に考えがちである。改めていかなければと思うが、単純に何%か女性であるかというように数字で表し、数字目標をあげてとりくむことには反対である。男とか女とか関係ないはずなのに、女だからという理由だけで登用されていくことになれば男女共同参画社会の理念からはずれてしまうと考える。
男性	65歳～69歳	無職	不況により、労働条件の切り下げ、女性労働者のパート化が進んでいます。過去に女性の経済力向上が、実質的な男女平等を進めたように、労働政策と福祉政策を充実させることが、男女平等社会の王道でありましょう。その意味で、現在の状況は著しく（男女平等に）不利ですが、粘り強く取組んで下さい。
男性	65歳～69歳	無職	70年代に比し男女平等がかなり進んでいるのは良いが、夫だけの所得で家族を養っていけないケース増。少子化問題、改善をも考慮し推進する必要があると思われる。
男性	65歳～69歳	無職	通常の生活の中で、男女共同参画が自然に行われるよう幼稚園時代から教育し、理念を身につけさせる。
男性	65歳～69歳	無職	女性の力の見直し、男女で話し合いががんばる事。
女性	70歳以上	家事専業者	回答を終えての感想。1、70を過ぎた私にとっては、認識不足も手伝って、質問の内容に戸惑う箇所が、何箇所ありました。従って正確性を欠いているかもしれません。2、事実男女共同参画という言葉そのもの、難解です。3、回答者抽出方法に、ご検討の程願います。※大変、勉強になりました。
女性	70歳以上	家事専業者	能力のある人は社会進出もよいのですが、家庭も育児も大切と思えます。調和のとれた生活を希望します。
女性	70歳以上	家事専業者	余り答えることが出来ず申し訳ありません。一生懸命に御勉強し、よりよい社会をと思つて下さりありがたいこととお礼申し上げます。よろしく願い申します。
女性	70歳以上	無職	このような課が市にある事知りませんでした。
女性	70歳以上	無職	母子家庭にあって父子家庭にない福祉の不平等など逆の差別もあるので、何も女性だけしいたげられているとは思えない。
男性	70歳以上	会社役員・経営者	これ以上女性が強くなっても困る。男女共同参画もあまり進めて欲しくない。



性別	年齢	職業	記入内容
男性	70歳以上	無職	動物社会に於て、男性が稼ぎ手、女性が家事子育て担当が自然であり、肉体的にも精神的にも、男女の違いがあつて各々の特性が生かされるべきであり、「男女共同参画」とは、男女全く区別なく同じことをやるべきとする考えこそ、社会を混乱させ、昨今の様な、秩序の乱れた状況をつくり出している。「男女の人権平等」とは別の問題であり、当アンケートのような根本的な考えで、人間社会を変えてゆくと、夫婦間のトラブル、離婚の増加等社会生活の崩壊につながると思います。
男性	70歳以上	無職	労働条件に於いても、男女平等の扱いが必要（深夜労働の男女別扱い等）。すべてに対等の条件になって、男女共同参画がスタートラインにたつのではないか。
男性	70歳以上	無職	男女平等を基本としつつ、男女の特性を生かした共同参画の進展を望みます。
男性	70歳以上	その他	民主主義と民主教育（基本的人権）、男女同権、同和教育、ジェンダー、DVそして男女共同参画へと戦後50年少しも男、女の位置と関係は少しも変わらない。良い方向へ向きつつあるも、こんな状態が長く続いてきているのは、日本人にある利己主義と、自分の優位性（自分より下位と思う人の存在のあることの満足感）を持っていることの自覚にあることと思う。そのことは経済→各個人の経済力の強さにふり回されて、権利のみ主張し義務を遂行してない（しようしない）国民一人一人の問題である「働かずに優雅な生活を願う、国民意識を変えることが課題である。（方法は分からない、無責任だが・・・）。12年前ではあるが、県教委の中にも（校長への女性推せんに対して）異議を申し立てた「主幹」がいた。
無回答	無回答	無回答	市よりのCMが必要です。



---

## 調査票

---





一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 慣習・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 ジェンダー（社会的性別）	1	2	3	→	
3 女子差別撤廃条約	1	2	3	→	
4 男女雇用機会均等法	1	2	3	→	
5 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
6 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 新たな発想や多様な価値観が活かされる社会
- 5 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 6 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 7 その他（ ）

問3

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

問4

調査票

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。  
次の中から1つお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他 ( )

問5

問6 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがありますか。  
あなたにあてはまるものすべてをお選びください。

- 1 進学のとときにあった
- 2 就職のとときにあった
- 3 仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった
- 4 管理職へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった
- 5 その他 ( )
- 6 特にない

問6

**「労働」に関することでおたずねします。**

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。  
あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性の方が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	平等で ある	わから ない
1 賃金	1	2	3	4
2 昇進や昇格	1	2	3	4
3 仕事の内容	1	2	3	4
4 研修の機会や内容	1	2	3	4

問7
→
→
→
→

**「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。**

問8 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。  
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問8

裏面もございます

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問9

問10 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問10

問11 あなたは次にあげる家事をしていますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族が 同じ程度 している	自分は手伝い 程度している	していない
1 掃除	1	2	3	4
2 洗濯	1	2	3	4
3 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4
4 食事のしたく	1	2	3	4
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4
6 ごみを捨てる	1	2	3	4

問11
→
→
→
→
→
→

問12 あなたは次にあげる育児・介護をしていますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族が 同じ程度 している	自分は手伝い 程度している	していない
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4
2 介護	1	2	3	4

問12
→
→

調査票



**問 13** 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 利用しにくい雰囲気があるから
- 4 上司がいい顔をしないから
- 5 育児、介護は女性の方が向いているから
- 6 他に育児、介護をする人がいるから
- 7 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 8 男性で「育児・介護休業制度」を利用する人がほとんどいないから
- 9 制度の整備が不十分だから
- 10 その他（具体的に )

問 13

**問 14** 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める
- 2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 3 行政や民間、地域社会などにおける方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを徹底する
- 5 労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についても、その評価を高める
- 7 男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に )
- 12 特に必要なことはない

問 14

**「地域社会」に関することでおたずねします。**

**問 15** あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうである	そうではない	わからない		問15
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

裏面もございます

**問 16 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。**

- 1 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 4 女性が積極的に役職につくこと
- 5 その他（具体的に

問 16

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

**男女の「人権」に関することでおたずねします。**

**問 17 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。**

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)…配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問17
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる	1	2	3	4	→	
3 ける	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

調査票

問 18 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所(長野市役所保育家庭支援課内、篠ノ井支所内)
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警(地域安全推進室)
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 18	

問 19 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 19

**「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。**

問 20 平成 24 年 7 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6 人(15.4%)、住民自治協議会における女性役員の数と割合は 517 人(18.0%)となっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 20

問 21 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 政治が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される
- 4 女性が持つ意見や発想が活かされる
- 5 何も期待しない
- 6 わからない

問 21

問 22 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 図書や情報の収集・提供 | 2 団体やサークルの活動・提供 |
| 3 調査・研究       | 4 学習・研修         |
| 5 職業能力開発      | 6 相談            |
| 7 わからない       | 8 その他( )        |

問 22

裏面もございます

**問 23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。**

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備
- 10 企業に対する就労条件の改善策の啓発
- 11 職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底
- 12 その他（具体的に

問 23

**問 24 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。**

最後までご回答いただき、誠にありがとうございました。

ご記入もれがないか、ご確認のうえ、同封の返信用封筒に調査票を入れていただき、

9月18日（火）までに、ご投函くださいますようお願いいたします。

平成24年 11月発行

**発行** 長野市

**編集** 長野市生活部 男女共同参画推進課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5428 (直通)

E-mail : danjo@city.nagano.lg.jp

**集計** 協同組合長野シーアイ開発センター